SUMA GAKUEN

須磨学園76年目から90周年への展開

1998−2012

須磨学園76年目から90周年への展開

1998−2012

須磨学園76年目から90周年への展開

1998−2012

記念誌刊行にあたって

理事長
西　泰子

学校法人須磨学園の歴史は、校祖・西田のぶが1922年（大正11年）に神戸市須磨区千守町に「女性も手に職を」と須磨裁縫女学校を創立したことに始まります。当時、校祖は女性の社会的・経済的自立の必要性を強く認識し、「清く、正しく、たくましく」という建学の精神を掲げ、「時代を生き抜く自立した女性の育成」を志しました。建学の精神は途切れることなく受け継がれ、学園は今年2012年（平成24年）、創立90周年を迎えます。第一回卒業生が3人という出発から、現在に至るまで2万6,494名の卒業生を輩出してきました。

この90年間の歩みは先人のご努力の積み重ねの上にあります。これまで学園の生徒たちに愛情を注ぎ、学園を支え、学園の発展にご尽力をくださった先輩方に敬意を表するとともに深く感謝をいたします。また、学園に関わってこられた数多くの方々の有形無形のご支援に厚く御礼を申し上げます。

須磨学園のこの十年間は、それまでの十年間と比べてさらに大きな変貌をとげた期間でした。阪神・淡路大震災をきっかけとした1999年（平成11年）の共学化に続き、2004年（平成16年）に須磨学園は中学校を開設しました。共学化以降、「既存の枠組みにとらわれない実践的な取り組みをする」という方針のもと、前例のない取り組みにも力を注いできましたが、この十年はそれがさらに加速したという感があります。学園に関わるそれぞれにとって厳しく困難の多い十年でしたが、確実な手応えがあった十年でした。生徒たちは知識の習得だけでなく、「経験を通して学ぶ」という幅広い主体的な「学び」を生き生きと実践しています。

現在もなお日本の社会は長い混迷の中から抜け出せないままでいます。出口の見えない課題や答のだすことができない問題が山積みされています。その社会の中で自己実現を目指す生徒たちに須磨学園は学校として何ができるのかをあらためて考えなければなりません。須磨学園が果たすべき役割を問い直し、これからの十年もよりよい教育を実践する学校を目指して継続的に改善を続けていく所存であります。時代が求める教育を実践する学校であること。社会に必要とされる人を育てる学校であること。これらが須磨学園の自己実現であると考えます。学校もまた時代の流れとともに変貌する社会の中の存在であることを改めて認識し、歩みを止めることなくさらなる取り組みを重ねていく決意でいます。

学園長
西　和彦

須磨学園の創立90周年を記念するこの機会に、創立準備期間も含めて90数年間に私どもにいただいた数多くの皆様からのお励ましとご協力、また学園卒業生、旧職員、旧役員など関係者各位の真摯なご努力と献身に、改めて心から深く感謝申し上げます。須磨学園は私立学校として、創立以来、多くの補助金を政府や兵庫県を始め諸機関、諸団体からいただいて参りました。このことに篤く御礼申し上げます。

須磨学園90年の歴史を語るこの記念誌は、80周年と同じく、2冊に分け、1冊目は創立からの歴史をまとめ、2冊目は我々の世代が経営を受け継いでからの変革のプロセスについての記録をまとめたものです。

創立90周年の2012年の年は、一貫6年教育の卒業生が大学を終え、社会に出る年でもあります。卒業生の諸君がどのような就職や進学をし、仕事によって、どう社会に役に立つのかによって須磨教育は問われると思い、祈るような、身の引き締まる気持ちであります。

80周年に続いて、学園の短期・中期・長期目標を記して、ご挨拶に代えさせていただきます。

【短期目標】 大学進学のための男女共学高校と中学高校一貫共学校として必要とされるものを全て追求してゆくことはもちろんのこと、スポーツ活動や文化活動も大切にして、全てにおいて、社会に認められるさらに高い結果を出してゆくということが我々の決意であります。

【中期目標】 創立100周年を目指したこれからの10年間に、情報教育、国際教育、リーダーシップ教育、自己実現教育など、時代が求める新しい教育をとおして、卒業後に一人一人異なったそれぞれの専門性を発見し、豊かな人間性を育くんだ国際人を育てるという教育をさらに進めて行きたいと考えております。

【長期目標】 学園が目指すところは、世界の動きを見つめて、学園自身が自ら学び、自らを変革し、新しい学園に生まれ変わっていくことができるかどうかが、我々に求められている一番大きな課題であると、教職員一同気持ちを新たにして取り組んで参る所存です。

学校法人 須磨学園

Policy & Mind

［法人理念］

わたしたちは
地域が誇れる
魅力ある学校づくりを通じて
「個」の自立心と向上心を
常に育み
心豊かな社会づくりに貢献します。

［法人ポリシー］

Being fair.

常にフェアであること、
そして、ありつづけること。
それがわたしたちの望みであり、
いつまでも変わることのない確かな姿勢です。

［スクールマインド］

建学の精神
清く、正しく、たくましく。

教育理念
心に力を。

教育目標
「自立する力」「向上する心」を育む。

教育方針
「個」の尊重。「個」の育成。

教育環境
明るく、もっと明るく。

校　訓
- 学ぶよろこび。
- 考える力。
- 思いやる心。
- 実行する勇気。

行動指針
- 世界を見つめ、夢を語ろう。
- 「生き方」を大切にしよう。
- 考えて行動しよう。
- 相手の立場に立とう。
- 力強く前進しよう。
- そして、いつもスマートに。

ステートメント
to be myself, ... なりたい自分になる。そして…

ショルダーフレーズ
いきいきと、せかいへ。

校歌

作詞／阿久　悠　作曲／都倉 俊一

ひたむきな心　持ち寄り
丘の上で　希望語らい
ひろがるは　明日(あす)につながる
須磨の海　伸びる大橋

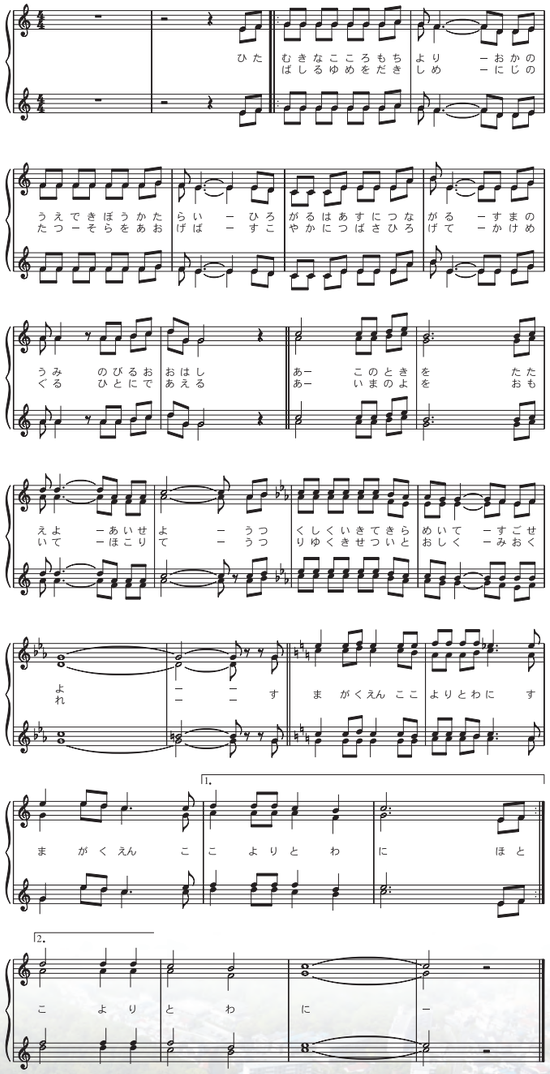
　ああ　この時を　称(たた)えよ　愛せよ
　美しく生きて　きらめいて過せよ

須磨学園　ここより永遠(とわ)に
須磨学園　ここより永遠に

ほとばしる夢を　抱きしめ
虹の立つ空を仰げば
健(すこ)やかに翼ひろげて
翔(か)けめぐる　人に出会える

　ああ　今の世を　想いて　誇りて
　移りゆく季節　いとおしく見送れ

須磨学園　ここより永遠に
須磨学園　ここより永遠に



CONTENTS

記念誌刊行にあたって
理事長　西 泰子 …… 2
学園長　西 和彦 …… 3

Policy & Mind …… 4

校歌 …… 6

Interview
西 泰子理事長が語る、創造と革新の15年 …… 8
西 和彦学園長が語る、創立100周年に向けた展望 …… 12

1998 -2012 須磨学園　創造と革新の軌跡
● 新生「須磨学園」の新しい象徴 ── 校歌・シンボルマークの制定 …… 18
● 須磨学園スタンダードの確立 ── 継続的改善を目指して、ISO認証取得の取り組み …… 20
● 教育環境の整備 ── 共学化・中学校開校に向けた施設・設備の充実 …… 22
主要施設・設備　24
● 中高一貫校としての情報発信 ── 本学園の教育を広くアピールする活動 …… 26
● 中高一貫校のための制服 ── 保護者の方々や生徒たちの意見を取り入れた制服 …… 28

【座談会】
須磨学園高等学校・中学校 6年間の歩みとこれから …… 30
2012年度 学校法人須磨学園 役員名簿　34
2012年度 教職員名簿　35

● 教科別の学習指導概要 …… 36
① 国語科　36
② 英語科　38
③ 数学科　40
④ 理科　42
⑤ 社会科　44
⑥［生命分野］保健科　46
⑦［生命分野］体育科　48
⑧［生活分野］技術・家庭科　50
⑨［生活分野］芸術 音楽科　52
⑩［生活分野］芸術 美術科　54

● 好きなことを追究し、自らの能力を高める ── 自分自身で考え、探求する個人研究 …… 56
● クラブ活動 …… 58
文化教育部　58
運動教育部　60
クラブ活動の記録　62
● 中学・高校を通じた校外研修 ── 体験を通じて学ぶ …… 64
サマーキャンプ　66
ウインターキャンプ　68
古都探訪　70
首都探訪　72
世界一周／アジア編　74
世界一周／アメリカ編　76
世界一周／ヨーロッパ編　78
平和学習　80
● 自らのマネジメント能力を培う ── 生きた時間を使い、創造性を磨く「PM・TM教育」 …… 82
● 情報教育の推進 ── ICT教育・ノートパソコン・制携帯・グループウェア …… 84
● 社会で生きる力を育む ── コミュニケーション能力を養う、LCT教育・リーダーシップ講座 …… 86
● 海外短期留学を通じて、身に付ける真の国際性
── ニュージーランド、アメリカ・シアトル、イギリス・オックスフォードを訪問 …… 88

資料・年表 …… 91
2012年度 須磨学園高等学校・中学校行事計画　92
大学合格者実績　96
卒業生数の推移　100
最近15年のあゆみ　101

あとがき　105
編集委員会　106

Interview

西 泰子理事長が語る、創造と革新の15年

自らで考える能力を養い、社会でたくましく生き抜く力を育む。

理事長　西 泰子

1990年代半ば、須磨学園は新たな目標を掲げて歩み始めた。女子高校から大きく方向転換し、男女共学の進学校を目指したのである。この、学園創立以来の大改革を指揮したのが西泰子理事長であった。教員によるプロジェクトチームを結成し、中長期の綿密な経営計画を策定して着実に遂行していった。1999（平成11）年に男女共学の須磨学園高等学校として再スタートし、2004年には須磨学園中学校の開校によって中高一貫教育体制を確立した。

この間、環境教育への積極的な取り組みや教育の質の向上に力を注ぐなど、須磨学園ならではのチャレンジを続けた。

理事長就任から15年、一連の学園改革について、その背景や経緯、苦難の道のり、さらには今後の取り組み、生徒への要望などをお聞きした。

創立以来、社会に出て役立つ教育を実践

―― 創立90周年、おめでとうございます。1922（大正11）年に女学校としてスタートしたそうですね。

理事長　はい、夫に先立たれた祖母がこれからは女性も手に職を付けるべきだと考え、実学教育の学校として須磨裁縫女学校を創立しました。建学の精神は「清く、正しく、たくましく」。タカラヅカは最後のフレーズが「美しく」ですが、うちは「たくましく」で、女性も時代を生き抜く力を身に付けましょう、という理念です。これは本学園の根本的な精神であり、男女共学になっても継承しています。

かつては、裁縫の技術や社会で必要とされる作法などが“生き抜くための力”だったわけですが、現在は、ICT、国際、環境などのリテラシーを身につけることにウエートを置いています。どんな時代でもたくましく生きていけるよう、社会に出て役に立つ教育をするというのが大きな柱なのです。そのせいか近年、本学園では大学の理系を目指す生徒が多くなっています。日本は技術立国ですから、専門性を身に付けることが、社会に貢献し自己実現する方法として分かりやすいのだと思います。

―― 実学中心の女子高から男女共学の進学校へ変わるきっかけは何だったのですか。

理事長　校祖である祖母も、それを受け継いだ父（先代理事長）も、女性が社会に出て困らないための生活指導に重点を置いた教育を行ってきて、それに信念を持っていたし、教育界では評価も得ていました。しかし、少子化や女性のさらなる社会進出など、時代が大きく変わっていくなかで、私には、もっと受験勉強に力を入れて進学校にすべきではないかという思いがありました。卒業生から「胸を張って卒業生だと言える良い学校にしてほしい」と言われたことも大きかったですね。時代に求められる人材、自分で考えられる人材を生み出す学校づくりを目指して、女子高から男女共学の進学校への移行に取り組んだのです。

―― それはスムーズに進みましたか。

理事長　1995（平成7）年の阪神・淡路大震災が大きな転機になりました。この地震によって学園の設備のほとんどが被害を受け、補修・改修をしなければなりませんでした。そこで、中長期の経営計画を立てて全面リニューアルに取り組み、その中に男子トイレの新設を盛り込んで男女共学への移行を推進しました。それまでも共学化の話は出ていたのですがなかなか進まず、そのネックになっていたのが男子トイレや男子更衣室の確保だったのです。少子化で生徒数が減少していたことも改革を後押ししました。

考える力を養う教育を目指して

―― 男女共学や進学校への移行に関して、どのようなご苦労がありましたか。

理事長　長年にわたり女子高でしたので、やはり先生方のとまどいはあったと思います。とくに管理職の先生方は、風紀の乱れや、これまで経験がない受験指導など、いろいろと心配をされていました。そんななかで、若手の先生方が「やりましょう！」と言ってくれたのが心強かった。さっそく「SUMASH」というプロジェクトチームを立ち上げ、週に2回ほど授業終了後に4、5時間かけて検討を重ねました。カリキュラムの編成からクラブ活動の見直し、制服やバッジの制定にいたるまで多くの課題がありましたので、10部門ぐらいのグループに分けて話し合いました。また、10年間の中長期経営計画を策定して大学別の進学者数の目標を設定し、それに合ったカリキュラムもつくってと、それこそ記憶がないくらい忙しい毎日でした。

ただ、私はアメリカの大学と大学院に留学した経験があり、大学院生の時には現地の中学校や高等学校で教壇に立ち、各地のミドルスクールも見て回っていたのですが、その頃から、自分がつくるならこんな学校と

いうイメージがありましたので、それがやっと実現できるという充実感は大きかったですね。

── 1998年に理事長に就任され、その翌年に男女共学の須磨学園高等学校としてスタート。その後も改革は前進していますね。

理事長　一丸となって計画を進め、念願の男女共学が実現したあとも、「SUMASH」プロジェクトはテーマを変えて継続しており、現在は2020年の須磨学園像を考える「SUMASH 2020」が進行中です。若い先生方が、春休みに東京のトップ校を訪問して、授業の内容を見学したり、2020年のあるべき姿を議論したりしています。

── 理事長としては、須磨学園のあるべき姿をどのように考えておられますか。

理事長　例えばアメリカと日本の教育を見て大きく異なるのは、日本では教科書に答が書いてあるのに対し、アメリカの授業は自分で考えた答を発表するという点。このことは、のちに中国に行った時にも痛感しました。北京でトップクラスの中学校を訪問したのですが、みんな優秀で豊富な知識を持っており、教科書の課題に対する解答は完璧です。しかし「じゃあ、あなた自身はどう考えるの？」と聞くと答えられない。やはり、考える力を養うことが重要だと思います。

また、世界を舞台に競争し勝ち抜いていくためには、日本のように全体のレベルを均一に上げる教育だけではなく、アメリカなどで行われている一握りの天才を伸ばしていく早期教育も必要だと考えています。今すぐにというわけではありませんが、こうした教育も視野に入れています。

── 2004年に中高一貫教育が始まり、2010年には第1期生が卒業しましたが、学園に対する評価はいかがですか。

理事長　中長期経営計画で設定した国立大学や有名私立大学への進学予定者数は、ほぼ計画どおりに進んでいます。進学校としての評価も上がってきており、人気も高くなっています。これについては、学園長の力も大きいですね。私自身は「学校として当たり前のことを当たり前にきっちりやる」というのがモットーですが、学園長は、他校がまだ手がけておらず、なおかつ生徒たちの将来に必要なこと、という視点でさまざまな提案をしてくれます。そこから生まれたのが、世界一周、一人1台のパソコン、制携帯、そして一人ひとりが自主的に考え行動するためのプロジェクトマネジメント（PM）とタイムマネジメント（TM）の実践です。

── 従来の学校のイメージとは異なりますね。

理事長　学園長は長らくビジネスの世界にいましたから、生徒たちが社会に出てから何が必要なのかよく分かっています。これからは、イノベーション（革新）にチャレンジできるグローバルな人材が求められるというのが学園長の持論ですが、さまざまな取り組みは、そうしたことにすべてつながっているのです。

教育の質を高め
授業主体で受験に挑む

── 須磨学園では早くから環境教育に力を入れておられますね。

理事長　環境教育は、震災後の経営計画における重点目標の一つでした。文部科学省もその重要性を指摘していましたので、環境問題に関する国際規格であるISO14001環境マネジメントシステム（EMS）の認証取得に取り組んだのです。

これには、環境教育の推進のほかに学園内の組織づくりを行うという意図もありました。学校の組織は言わば鍋蓋式で、校長が蓋のツマミで先生方はその下に横並びになっているのが一般的です。そこで、EMSの認証取得を機にしっかりとした組織をつくりました。省エネ、省資源、リサイクル、廃棄物削減など、あらゆる環境対策に関して、それぞれ担当者や責任者を決めて組織ごとに対策を講じました。目標数値を設定して経過を必ず報告させ、達成できなければ見直していくというきめ細かなマニュアルを作成し、2001年10月にEMSの登録が認証されました。

── その後、品質マネジメントシステムの認証も取得されました。

理事長　EMSの導入により、環境管理目標の設定（Plan）、実施および運用（Do）、監視・測定、監査（Check）、マネジメントレビュー〈見直し〉（Action）のPDCAサイクルによる継続的な改善ができるようになりました。そこで、次に品質マネジメントシステム（QMS）であるISO9001の認証取得に挑戦したのです。これは、教育の質を充実させて継続的に改善していくというもの。2004年12月にその登録認証を取得しましたが、EMSと同様にこれも教育界では先駆けだと思います。

── QMSの導入により、学習指導はどのように変わりましたか。

理事長　改善を重ね教育の質を向上させることによって、授業主体の受験指導ができるようになりました。ほとんどの進学校では、大学入試を受ける生徒の大半が塾や予備校に通っており、学校の授業よりも優先している現実があります。学校の授業時間に予備校の課題を行ったり、居眠りしたり。それは本末転倒です。授業の質を高めれば、学校で授業をしっかり聞き、家で復習をして、翌日の授業の予習をきっちりやるだけで大学に合格できるはずです。

── 当たり前のことを当たり前にやる教育を実践すれば、学校の授業だけで大学に合格できるのですね。

理事長　質の高い授業を行い、授業の内容がよく分からなかった生徒には先生が放課後にフォローします。よく理解できた生徒向けには、アドバンスのクラスも開講していますし、もっと勉強がしたい生徒は夏休みも登校して先生が対応しています。また、有名予備校からトップレベルの講師を招いており、無料で授業を受けることができます。授業のみでも、カリキュラムの工夫や補習講座のサポートなどによって、一人ひとりが理解できるようになります。そのうえで、クラブ活動にも打ち込み、家に帰れば家族とのコミュニケーションを大切にする。いわば「学校に生徒を取り戻す」ということですね。

生徒には、
なりたい自分になり
社会と深く関わってほしい

── 喫緊の課題としてはどんなことが挙げられますか。

理事長　教員の研修ですね。本学園の先生方は非常に熱心でパワーがあります。早朝から学校に来て、夜遅くまで残って勉強を教えたり、教材をつくったり。生徒たちもそんな先生方を信頼して、授業を熱心に受けますし、放課後もいろいろと質問をします。教えがいのある生徒たちを前に先生方もやりがいを感じていると思いますが、今は先生方の情熱に頼っている状況で、研修する余裕がありません。早急に教員の研修制度を整備していきたいと考えています。例えば、他校で教鞭をとったり、大学や大学院へ戻って研究したりといった経験を積んで、再び本学園の教壇に立っていただく。生徒の学業レベルも上がってきていますし、先生方の意欲も高いので、そういった仕組みが必要になります。加えて海外研修も実施して、先生方の国際化に力を入れていきたいと思います。

── 生徒に対しては、どのような成長を望みますか。

理事長　本学園の教育のテーマは「自己実現」です。価値観が多様化するなかで生徒の目標も多岐にわたります。誰もが東大や医学部を目指すわけではありません。それぞれが行きたい所に行ける、幅広い選択肢を持てる力を身に付ける学校を目指します。そうした環境のもとで生徒には、なりたいと思う自分が社会の中でどういう役割を持つのかしっかりと考えて目標に向かってほしいですね。そのことを表すキーワードを「to be myself, ...なりたい自分になる。そして…」としています。この言葉には、自分だけのための自己実現ではなく、他人や社会とどのように関わり合っていくのかをしっかりと考えてもらいたいという意味を込めています。ぜひ「たくましく」生き抜いてもらいたいものです。

Interview

西 和彦学園長が語る、創立100周年に向けた展望

独自の教育システムを確立し、社会に役立つ人間の育成を目指す。

学園長　西 和彦

須磨学園で行われる授業は、受験科目、教養科目、総合科目によって編成され、いずれも独自のカリキュラムが構築されている。

とりわけ総合科目は、情報教育、国際教育、自己実現のためのプロジェクトマネジメント・タイムマネジメント教育など、学園ならではの切り口が特徴である。これらを創案し、中・高の多年度プログラムとして定着させた西和彦学園長は、技術者、経営者、大学教授などの顔を持ち、そのキャリアを生かしてユニークな学校教育を進めている。総合科目による体験を通して、生徒の知見を広め自己実現をサポートするとともに、大学卒業後の社会との関係まで視野に入れる。

創立90周年という節目の年を迎え、やがて来る100周年に向けて、これからの課題や教育システムなどについて語っていただいた。

受験、教養、総合 それぞれの科目に 独自のカリキュラム

── 10年後に創立100周年を迎えるにあたり、どんな課題がありますか。

学園長　これからの10年については2つの大きな課題があります。一つは、進学校として東大や京大に毎年100人ぐらい、医学部にも100人ぐらい合格できる実力を付けること。そのための学習指導や、魅力づくりについて考えています。もちろんすぐに100人とはいかないので、30人、50人と実績を積み重ねていければいいと考えています。

もう一つの課題は、単に進学校を目指すのではなく、受験科目以外で役に立つ指導をしていくというものです。教養科目の「保健」「体育」「技術・家庭」「音楽」「美術」において、須磨学園ならではの教育を行っていきたいと考えています。本学園では生徒が「興味を持って、楽しいから、しっかりやってみたい」と思うようなカリキュラムにしています。

例えば保健科では、身体の仕組みや病気に関して医学の内容にまで踏み込んで指導しています。生徒たちが医学・歯学・薬学系や看護・栄養学系の大学を目指すきっかけになるかもしれませんし、医学部に入るまで医学のことを何も勉強しないというのは不自然ですから。また、技術・家庭科では、女子が家庭科で男子が技術科と分けるのではなく、衣食住としてとらえ、衣食を家庭科、住を技術科として、衣食住のクオリティを上げるための教育という視点で授業を行っています。

── 総合科目についてはいかがでしょうか。

学園長　総合科目の「情報」「国際」「自己実現」「リーダーシップ」「道徳」「読書・新聞」は須磨学園が独自の切り口で取り組んでいる科目で、知的生産の技術を高めるための教育です。受験科目や教養科目をさらに深く追求理解するためのカリキュラムとして位置づけています。

情報教育には早くから取り組んできました。コンピュータの使い方を指導し、生徒一人に1台のパソコンを持たせて授業に活用しています。

国際教育では、校外研修として「世界一周」を実施しています。中学2年から始まる1年目は中国、台湾、韓国、ベトナムなどアジアの各国、2年目はシアトル、サンフランシスコ、ワシントンD.C.やニューヨークなどアメリカの大都市を巡り、3年目はイギリス、フランス、ドイツ、オーストリアなどのヨーロッパ各地を訪問するものです。単なる観光ではなく、訪問国の学校を訪ねて同年代の生徒たちと交流することも目的の一つで、将来の交換留学も視野に入れています。

私は学生の頃から海外へ行っていたため、海外に行くことに対する抵抗はありませんでした。当時は今ほど海外旅行がポピュラーではなかったので、出発のときには羽田空港に友達がたくさん見送りに来てくれて、それこそ“今生の別れ”という感じでしたが…。生徒たちも、今のうちから海外へ出て現地の同じ年齢の人たちと交流するという経験をしておけば、社会に出てからの世界へのハードルも低くなると思います。

自己実現教育では、高校生活の3年間を有効に活用するためにプロジェクトマネジメント（PM）とタイムマネジメント（TM）という手法を取り入れています。PMのノートには短期・長期の目標を、TMのノートにはそれを実現するための行動スケジュールを、それぞれ記入します。時間管理によって自分が支配され、がんじがらめになるのではなく、しなければならないことを早めに終え、余った時間を自由に使おうという発想です。

2011（平成23）年から始めたリーダーシップ教育では、「リーダーシップとは何か」を教える講座を開いています。高1と高2の生徒会役員や、リーダーシップを学びたいという生徒が受講しています。できれば、この講座を全生徒を対象にしたい。誰でも「自分自身の」リーダーではあるわけで、自分をマネジメントするのにリーダーシップは必要であると思います。

平和でなかった土地を訪ね「平和」について考える

── 総合科目の中に「道徳」がありますが、独特の視点や指導はあるのですか。

学園長　どこの学校にも道徳の授業がありますが、その教科書はというと明治時代以来の価値観で語られているものが多く、お仕着せの感じがします。大人が決めた価値観が「道徳」と呼ばれていると思います。そして、その道徳の中から、自分が共感して自分のものになったものが「良心」だといえます。良心のさらに広い概念を「平和」ととらえ、道徳教育の一環として平和学習を進めています。

小学生の頃、自分の名前の由来を父に尋ねたところ、父から「和彦の和は、昭和の和ではなく、平和の和にちなんだものだ」と教えられました。それ以来、私にとって「平和」は人生の大きなテーマになったのです。

生徒たちにも平和について考えてもらうため、“過去に平和ではなかった場所”を訪ねています。世界で唯一原子爆弾を投下された広島市と長崎市を訪ね、原子爆弾を落とされた国の国民として、平和の大切さと尊さを肌で体感します。また、世界一周研修旅行でも、ドイツでは第二次世界大戦時の強制収容所や、日本の無条件降伏を要求する会談が開かれたポツダムを訪ね、ベトナムではベトナム戦争についての博物館を訪れ、平和を考えます。さらにニューヨークでは、2001年の同時多発テロの現場であるグラウンドゼロに行きます。

──「読書・新聞」はどんな内容ですか。

学園長　最近はインターネットの普及などによって読書をする人が減っているため、生徒たちに本や新聞を読むことの大切さを教えています。それとともに、朝日新聞「天声人語」の筆写を実施しています。私は高校生の頃に天声人語を書き写していましたが、後に、文章を書く仕事や本の編集に携わった際にずいぶん役に立ちました。私の文章の原点は天声人語にあると言っても過言ではありません。難しいことを平易な言葉で分かりやすく書くことを学んだのです。

いろんな本を読んで多くの言葉を知ることによって、難解なことも分かりやすく書くことができるようになります、読むことと書くことは同じぐらいに大切だと思います。

少し説明が長くなりましたが、これからの10年間をかけて、本学園では受験科目、教養科目、総合科目の3つの分野の完成度を上げ、さらに発展させていきたいと考えています。

大学卒業後を視野に入れた自己実現のための教育

── 国際レベルの学校交流や平和学習など、須磨学園ならではのカリキュラムですね。

学園長　進学校としての教育が問われるのは、どこの大学に何人入学したかということですが、それ以上に私が重視しているのは、大学を卒業した後にどんな職業についたか、どんな会社に就職したかということです。その追跡調査もしてみなければと思っています。

── 大学合格が目標ではなく、その4年後が重要だと。

学園長　はい、大学卒業後のことを視野に入れて教育しなければならないと思います。生徒一人ひとりが身に付けた専門性を活かして自己実現を目指し、その過程で自分と社会との関係についてしっかり考える。そうしてなりたい自分になって、社会の役に立ってもらいたい。自分だけ良ければいいという自己実現ではなく、社会を構成する一員になるということ。総合科目で独自のカリキュラムを組んでいるのはそのためでもあります。

── 今取り組んでおられる新しい試みにはどんなものがありますか。

学園長　本学園は不登校や多欠席の中学生を受け入れている数少ない学校です。学校に来られない生徒でも入試で合格点に達していれば入学でき、インターネットを利用して家庭で授業が受けられるシステムの開発に取り組んでいます。教室にウェブ・カメラを設置し、授業の模様をインターネット経由で家庭のパソコンに中継する「遠隔教育システム」です。家で授業を受ける生徒が先生にリアルタイムで質問ができますし、教室の先生がカメラ越しに生徒を指名することも可能です。このシステムは、不登校になった生徒の救済策といえます。まだどこの学校もやっていないと思うので最初に手がけたいです。そのために校内で開発プロジェクトチームを立ち上げ、教員たちが教育的に使いやすい最適のシステムを開発すべく奮闘しています。このシステムを利用できる日も近いと思います。

── 須磨学園の情報教育は各方面から注目されています。制携帯もその一つですね。

学園長　携帯メールは学校と生徒とのコミュニケーションツールとして使用しています。多くの学校が携帯電話の持ち込みを禁止していますが、一律に禁止するよりも正しい使い方や上手な活用法を教えることのほうが重要だと考えました。先日、コンプガチャ（コンプリートガチャ：携帯電話用の課金式ソーシャルゲーム）が問題になりましたが、おかげさまで本学園にはこのゲームにのめり込んだ生徒はいませんでした。

── 父兄とのコミュニケーションにはグループウェアのファーストクラス（FC）を活用しておられます。

学園長　グループウェアは、学校と保護者との情報共有に大いに役立っています。校内で生徒たちに何か問題が起きた時、教員と保護者がきちんとコミュニケーションできるという状況が大切であり、それによって解決できることがたくさんあります。そのためには、普段からつながっているというのが大きな意味を持ちます。例えば、クラス担任は40数人いる生徒の父兄と一瞬のうちに連絡ができるので便利です。また、多くの保護者は学校に電話を掛けて先生や理事長と話をするよりも、電子メールで伝えるほうが抵抗がないと思います。導入して約10年になりますが、FCのおかげでスピーディに解決できた問題が数多くあります。今や本学園に欠かせないコミュニケーション手段になっています。

学習レベルのさらなる向上と学校設備の充実を目指す

── 学園長に就任されて10年、創立100周年に向けて、どのような学園づくりをしていきたいですか。

学園長　先ほども申し上げましたように、受験・教養・総合科目の完成度をさらに高め、一人ひとりの学習レベルを上げていきたいと考えています。そのために、現在進めている教育カリキュラムを見直して修正しながら、改善を重ねていきます。

施設面では、生徒たちの学習環境を良くするために、広い自習室が欲しいと思っています。本学園では「９時学」といって、午後9時まで残って、友達と一緒に自習したり、分からないところを先生に質問したりできるのですが、まだ自習専用の部屋がないので、大きなリビングルームのような自習室を設けたいと願っています。パソコンやコピー機を備え、図書閲覧コーナーや軽食がとれる食堂を併設した居心地のいい自習室。言わば“学校の居間”のような空間です。それに、現在のプールを年中利用できるお風呂のような温泉プールにして、自習を終えたらリフレッシュして帰宅できるようになればいいなと思います。

また、私は大学時代に体育会の航空部に所属しており、グライダーの操縦をし、また個人的に船に乗っていたのですが、飛行機と船舶を本学園のクラブ活動や研修などにも取り入れてはと思っています。ただ、中・高生には早すぎるとか危険だという意見も多く、まだ実現はしていません。それと、ぜひやってみたかったのが、帆船による卒業航海。クラスや学年単位で船に乗り、全員が力を合わせて海を航海するんです。四国一周や九州一周ぐらいしたいと思っていますが、これも実現には至っていません。私自身、大学でやれることは高校でもできると思っているのですが…。

このほかにも、100周年に向けて新たな教育システムの開発や設備の拡充についてやりたいことは、たくさん色々とありますので、前向きに提案していきたいと思っています。

1998－2012 須磨学園

創造と革新の軌跡

情報通信技術やグローバリズムの急速な進展、
地球環境保全への対応、少子化問題――。
近年、私たちを取り巻く社会環境は、著しく変容してきた。
これにともない教育の在り方についても、
大きな変革が求められてきた。

本学園では、学びの目的を生徒一人ひとりの「自己実現」に置き、
「なりたい自分になる」というテーマを掲げ、
社会に貢献できる人間教育に取り組んでいる。
多様化し、複雑化する現代社会において、
生徒たちの「自己実現」に向けた価値観は、多岐にわたっている。
社会に出て生き抜くための力となる知識と知恵と技術を習得し、
それぞれの目標を実現できるよう、支援し導いていくことが
私たちに与えられた使命であると考えている。

創立以来90年の歴史と伝統を有する本学園は、
1998（平成10）年以降、さまざまな「創造と革新」に取り組んできた。
1999年、男女共学である須磨学園高等学校への移行。
2004年、中学校開校による中高一貫教育体制の確立。
新たなる須磨学園の進化を目指して、
幾多の試行錯誤を重ね、数々の挑戦を続けてきた。
その15年にわたる創造と革新の足跡をここに集大成する。
やがて来る創立100周年に向け、
さらなる躍進を遂げるための貴重な記録としたい。

新生「須磨学園」の新しい象徴

校歌・シンボルマークの制定

本学園は90年にわたる長い歴史の中で、その時代時代に応じた変化を見せてきた。そして、移りゆく流れの中で、1999（平成11）年、男女共学の進学校として新たなスタートを切ったのである。さらに2004年には、中学校を併設し中高一貫教育を開始。「須磨学園高等学校・中学校」として名実共に進学校への道を歩み始めたのである。

さまざまな変革の中で特筆すべきは、新校名とその象徴となる校歌とシンボルマークの制定であろう。校名については全教職員を対象にアンケートを実施。議論を繰り返した結果、過去のすべての校名に「須磨」の文字がつけられており、この愛着ある地名はぜひ残したいとの思いから、新校名は「須磨学園高等学校」となった。さらに中学校の開設で、「須磨学園高等学校・中学校」となったのである。校歌は新たな学校の発足に際し、淡路島出身で学園長とも親交の深かった故阿久悠先生に作詞を依頼。作曲は阿久氏の指名で、都倉俊一先生にお願いすることになった。従来の校歌というイメージとは異なった、新しい感覚の親しみやすく、歌いやすい曲になっている。また、シンボルマークは本学園の教育理念や教育目標を象徴するものである。校名の英文頭文字「S」と「G」を組み合わせ、「人」の力、成長し続ける「樹」をモチーフとして、未来に向けた須磨学園を力強く表現している。

また、今回創立90周年を記念して、新館にある図書室がリニューアルされることになった。木製書棚への変更やデジタル化の推進など、さまざまな工夫が計画されている。生徒たちは今まで以上に落ち着いた雰囲気の中で、効率よく学習活動に取り組めるだろう。

学問の神様、菅原道真公にちなんだ、伝統の校章が復活

長い坂道を上がり、中庭に至ると正面の学生会館の壁面に女子高時代の校章が掲げられている。須磨には901年、菅原道真公が任地太宰府へ向かう途中にこの地に立ち寄られ、人々は特産のすだれを掲げてお迎えしたという伝説がある。この校章の由来は、学徳の高い菅公ゆかりの梅をかたどり、徳風をしたう人々の心をすだれに表現して、学業に精進する須磨学園の象徴としたものである。

復活した伝統の校章

未来に向けた、新鮮で独創的な成長を象徴する「シンボルマーク」

本学園の革新を象徴するひとつとして、新たにシンボルマークを制定した。その意匠は、「SUMA GAKUEN」の「S」と「G」をシンボライズして、活き活きと躍動する「人」の力と、成長し続ける美しい自然の「樹」をイメージ。未来に向けて「つねに新鮮で独創的な歩みを続ける須磨学園」を力強く、モダンな感覚で表現している。

校章の変遷

2012年度の学年別シンボルカラー

デジタル・ライブラリーを目指して

創立90周年を記念して、図書室の全面的リニューアルを予定している。数十年の利用で老朽化してきた金属書架のすべてを、ナラ材合板を主体にした落ち着いた質感の木製書架に変更。木製書架は、本を美しく見せるだけでなく、本学園の貴重な財産である書籍を傷めることもない。また、伝統に支えられた3万6,000冊の蔵書に加えて、デジタル・ライブラリーへの進化を目標に、図書室のWiFi化・タブレット端末とデジタル書籍の導入も進行中である。さらなる充実を目指す、新生図書室にご期待願いたい。

現在の図書室

MESSAGE

高校教頭　竹内 敏彦

阪神・淡路大震災がきっかけとなった、学園改革の推進

以前から少子化による私学の危機到来は予想されていた。本学園も例に漏れず、1993（平成5）年頃から年々志願者数が減少傾向にあった。このままでは生徒が来なくなる。そんな危機的状況の中、折しもあの阪神・淡路大震災が発生し、その影響はさらに大きなものとなった。しかしこの時、西泰子現理事長は将来の学園のあり方を模索し、まず男女共学化という学園改革の第一歩を決断したのである。創立90周年を迎えた本年、共学化から14年、中学校開校から9年目になる本学園は、さらなる高みを目指してこれからも力強く歩み続けようとしている。

須磨学園スタンダードの確立

継続的改善を目指して、ISO認証取得の取り組み

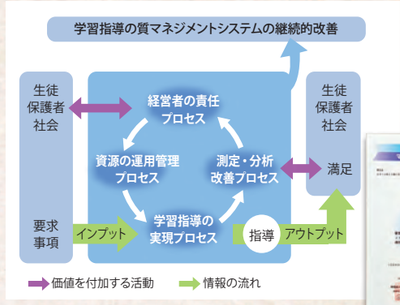
本学園は、時代の要請と社会の要求に応える学校であることを目標とし、次の段階の教育を受けるに相応しい学力と人間性を兼ね備えた、目的意識の高い生徒の育成を目指している。また、学校の在り方と教職員の在り方を模索しつつ、つねに前向きな学校改革に取り組んでいる。

2001（平成13）年、1年2カ月におよぶ試行錯誤を重ねて、環境マネジメントシステムの構築を行い、環境問題に関する国際規格であるISO14001の登録認証を取得した。この取得は、本学園の教育方針のひとつである環境教育を推進していく決意表明だけにとどまらず、ISOマネジメントシステムというグローバルスタンダードによる、学校改革への継続的な取り組みを推進する出発点でもあった。2004年には、学習指導の「質」の継続的な改善と結果に自らが責任を果たすため、品質マネジメントシステムであるISO9001の登録認証を取得。さらに2009年には、個人情報などの重要な情報資産の管理と保護を目的とする、情報セキュリティマネジメントシステムの継続的な改善を目指し、ISO27001の登録認証を取得した。

ISO14001「環境保護管理」に始まり、ISO9001「学習の質の管理」、ISO27001「情報セキュリティマネジメント」に至る3つのグローバルスタンダードの取得は、学校法人として全国でもさきがけて達成したものであった。目指すべき須磨学園スタンダードの確立は、学校法人としての責務を社会に対して明らかにするだけではなく、学校改革を継続的改善への取り組みとして宣言したものである。

ISO9001 学習指導の「質」を継続的に改善

学習指導において、客観的な「質」の判断基準は必要である。本学園の品質マネジメントシステム は、「品質＝学習指導の質」と位置付け、その継続的な改善を行う管理システムである。すべての学習指導で〈目標・計画・実践・評価・反映〉のサイクルを実施。評価については生徒や保護者へアンケートを行い、授業や指導への満足度を確認して改善につなげている。また、教員個々の自己研鑽はもとより、充実した研修を実施してより高い学習指導ができるよう学校全体で取り組んでいる。



ISO9001品質マネジメントシステム登録証

ISO14001 環境マネジメントシステムの認証取得

生徒に対して21世紀の社会人としてのスタンダードを教えることは本学園の使命である。それと同時に学校自身が社会に対して、その役割を果たすべきであると考え、教育と社会責任という2点から環境マネジメントシステムISO14001の認証も取得した。

ISO14001環境マネジメントシステム登録証

ISO27001 情報セキュリティマネジメントシステムの構築

2004（平成16）年に制定した「個人情報保護方針」に基づいて個人情報マネジメントシステムを確立し、ISO27001の認証を取得。個人情報だけでなく、本学園が保有するすべての重要な情報資産の管理・保護を目的として、情報セキュリティマネジメントシステムを運用している。各部署で扱う重要な情報（書類・データ）をすべて把握し、その重要性を各部署が正確に認識。漏えい・流出の危険性がどこにあるのかを明確にリスク分析し、日常業務においても情報管理に関する教育を徹底している。また、情報の取得・利用・保管・廃棄のサイクルにおける運用ルールを明確に制定し、データは専用USBキーによる暗号化を施すなど、最新のIT技術を取り入れたシステムを構築している。

ISO27001情報セキュリティマネジメントシステム登録証

MESSAGE

ISO部長　髙木　宏

「継続的改善」という永遠の課題を追求

本学園がISO認証取得している３つのマネジメントシステムは、環境教育の推進、情報管理の徹底、継続的学校改革に取り組み続けることを宣言したものである。このマネジメントシステムは、「つねに見直し、より良くし続ける」という姿勢が、教職員一人ひとりに求められている。特に、目に見えない学習指導の「質」に客観的な判断基準を設定することは、非常に困難な課題であった。さらに設定した基準の有効性もつねに再検討し、改善していく必要がある。この改革の姿勢が本学園に定着したことが、ISO認証取得がもたらした最大の財産であろう。

教育環境の整備

共学化・中学校開校に向けた施設・設備の充実

本学園は、海を望み木々の緑に囲まれた神戸市須磨区板宿の山手にある。市内の高等学校では最大級の10万9,590㎡の敷地を有し、生徒たちがのびのびと充実した時間を満喫できる施設が整っている。

1999(平成11)年度から男女共学への移行と同時に須磨学園高等学校と改称し、新たな時代を迎えた。2001年、剣道部・空手道部の武道場や講演会・各種催物会場として利用できる多目的ホールを備えた武道館が完成し、体育館も大幅に改修。また、授業の向上・効率化を図るため湾曲型黒板、スライド型黒板の導入を行った。2002年には、本館・新館の全面外壁塗装工事も完了した。

2003年には、中学校開校に向けてグラウンドの確保が急務となり、須磨区白川台に野球とサッカー専用の須磨総合グラウンドを購入し、体育施設の拡張を図った。

2004年に須磨学園中学校を開校し、中高一貫教育体制が確立。これに合わせて、最新鋭の映像・音響機器などを完備したマルチメディア室・情報室、ドラフトチャンバーをはじめ、充実した機器を導入した生化学実験室、総合実習室、調理室、被服室・技術室、音楽室、美術室、図書室など、ほぼすべての施設・設備を一新した。また、日本トップクラスの選手を輩出した体育設備についても、夜間照明を設置。さらに、登校時の板宿駅からのスクールバス、須磨総合グラウンドへの送迎バスも配備した。阪神・淡路大震災後は、本館・新館・体育館に耐震補強工事に着手し、本館・新館をサッシ窓に改修するなど、安全で安心な教育環境を完備している。

耐震補強工事が完了した本館校舎

耐震補強工事が完了した新館校舎

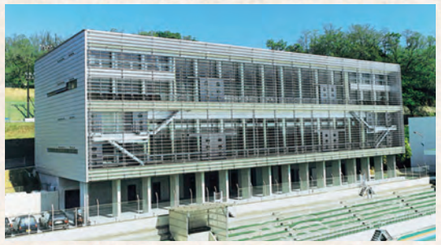
耐震補強工事が完了した体育館

主な施設・設備の整備

- 2003(平成15)年度
  須磨総合グラウンド 購入・改修
- 2004(平成16)年度
  通学路外階段 改装
- 2005(平成17)年度
  本館・新館屋上 防水工事、
  バラ園 造園
- 2007(平成19)年度
  本館・新館空調設備 全面入替工事
- 2010(平成22)年度
  本館・新館・体育館 耐震補強工事、
  本館・新館 窓枠サッシ入替

耐震補強工事

校舎の耐震性を向上するために、校舎長辺方向(東西方向)に、各校舎計38カ所の鉄骨ブレスを設置。また、スチール製サッシをアルミ製サッシに入れ替えた。



武道館／剣道・空手道の道場、会議や合宿もできる多目的ホールを備え、ジムや温水シャワー設備も整っている。

須磨総合グラウンド(須磨区白川台)／
野球・サッカー専用グラウンド。学校からは専用バスで送迎。

クラブハウス

バラ園／第81回生～86回生が寄贈したバラ園。
バスカリやゴールドメタル、クイーンエリザベスなどの花々が美しさを競う。

中庭の花水木

MESSAGE

前事務局長　松原 栄寿

縁の下の力持ちとしての自負

本学園の事務局では、何よりも生徒たちが安心して、自由に伸び伸びと学習ができる環境づくりを第一と考え、順次教育施設・設備の充実に取り組んできた。また、同時に教員たちが学習指導に集中できる最適な環境づくりにも努めてきた。この考え方は、90年にわたる歴史の中で綿々と引き継がれてきた、縁の下の力持ちとしての精神である。これからも施設・設備のさらなる拡充を図り、生徒や教員たちにとってより良い教育環境を創造することこそが私たちに与えられた最大の使命として、引き続き尽力していきたいと考えている。

主要施設・設備

1 総合グラウンド（全天候型トラック）
1周300mのトラックがあり、ナイター照明も完備した総合グラウンド。多様なスポーツに対応します。

2 サンドグラステニスコート
機能的で美しいサンドグラスを使ったテニスコート。
4面あり、ナイター照明を完備。

3 球技グラウンド
水はけのよいグリーンサンドの球技グラウンド。
ナイター照明を完備しています。

ナイター照明設備

1

2

3

4 須磨総合グラウンド
須磨区白川台に、野球やサッカー専用のグラウンドを確保。
学校からは専用バスが送迎します。

5 体育館
入学式や卒業式、文化祭のステージなどがここで行われ、全校生徒の収容が可能な広さを誇ります。

6 武道館
剣道・空手道の道場、会議や合宿もできる多目的ホールを備えます。ジムや温水シャワーなど設備も充実。

7 弓道場
関西の中学・高校の中でも有数の本格的な設備。全国大会優勝など輝かしい実績の弓道部が活動しています。

8 図書室
約3万6千冊の蔵書がいつでも利用可能。
放課後の自習にも利用されています。

9 調理室
大型バーナーなども備えたプロ仕様。家庭科の授業や料理研究部で活用されています。

10 50mプール
世界選手権強化選手等が練習に訪れる50mプール。学内からもオリンピック選手が出ています。

11 学生食堂
食堂ではアレルギー食品にも配慮。
夕方は軽食もあります。

12 マルチメディア室・第1情報室
100台のコンピュータ、映像・音響機器などを完備。
校内ＬＡＮやインターネットに接続できます。

13 音楽室
各種音響機材とプロジェクターを使った音楽鑑賞が可能です。練習室、レッスン室も隣接しています。

14 美術室
制作専用の個人机を設置。机は三段階の角度調整が可能で、画板のようにして使用することができます。

15 生化学実験室
ドラフトチャンバーをはじめ、充実した機器を導入。
生物、化学での実証的な授業を支援します。

16 学生会館
創立60周年を記念して建てられた学生会館。
1階が食堂、2階は購買部、3階には多目的会議室を設置。

17 被服室・技術室
大型の工作台、万力、グラインダー、ボール盤など工作機械も充実しています。

18 スクールバス
朝は駅から学校へ、放課後は白川台のグラウンドへ、3台の専用バスを運行しています。

中高一貫校としての情報発信

本学園の教育を広くアピールする活動

1999(平成11)年に男女共学化が実施され、新しい須磨学園高等学校のイメージをより広く発信するために活発な広報活動を展開した。その結果、受験生や保護者の関心が高まり、志願者数は飛躍的に増加。また、受験生のレベルも年々向上している。

2001年には、中学校設立に向けた準備を開始した。設立準備委員会などの場で2年以上にわたり、どのような中高一貫教育を目指すのかという議論が重ねられたが、そのなかで大きな課題となったのが、広報活動の展開である。前例がなく困難であったが、だからこそ自由で斬新なアイデアが生まれ、各種広報ツールのコンセプトやデザインにつながった。例えば2004年のパンフレットの内容は、「Accountabilityのある中学校へ」(Accountability＝成果に対して責任を持つこと)から始まり、「新しい中学校のスタンダード」の確立へと続いた。また、世界一周旅行によって真の国際人として生きる力を身につけるというプログラムは、周囲を驚嘆させたが見事に実現し、現在も中高一貫教育の核のひとつとして受け継がれている。パンフレットの内容は年々改訂し、社会に求められる人材の育成を目的とする教育内容を、正確にそして誠実に伝えることを心がけている。

また、高等学校における教育内容の充実も図られた。年々伸びる進学実績、学習以外の学校生活の質的向上などについても、いかに発信するかが大きなテーマであった。パンフレットやDVDだけでなく、本学園ホームページにおいて日々の行事や部活動を絶えず紹介。また、『スマプレス』『スマプレス・アニュアルスケジュール』を定期的に発行し、多彩な活動を展開した。その結果、本学園の特色ある教育についての理解を促進するとともに、マスコミなど他方面からも注目を集めた。

中学校・高等学校の紹介パンフレット・DVD

受験生が学校を選ぶ動機の上位には、学校案内パンフレットがある。原稿執筆や授業風景、クラブ活動、昼休みや放課後の様子など、各担当教員や生徒たちの協力を得ながら、本学園らしい清新で誠実なものを目指して、年ごとに内容の質的向上を図っている。また、DVDについても、全般的な学校案内という内容から教員や生徒の「証言集」という内容に移行して、具体的で分かりやすいものを目指している。

紹介DVD

2004年、中学開校時の学校案内パンフレット

本学園の教育活動

近年、本学園の特色ある教育活動がマスコミ各社によって報道される機会が急激に増えている。高等学校共学化の初期には、運動部の活動が話題になったが、最近では教育内容や生徒会活動なども取り上げられるようになり、多方面から大きな注目を集めている。

ホームページ画面

1999年、共学化を告知する新聞広告

情報を定期的に発信する『スマプレス』

『スマプレス』は、秋・冬・春の３回発行している。行事の紹介や入試結果の報告や合格体験記、先生から卒業生へ送る言葉、新聞に記事として取り上げられた活動などを中心に掲載している。『スマプレス・アニュアルスケジュール』は、中学校編と高等学校編を年１回発行。年間のスケジュールや行事を月ごとに紹介し、生徒の体験記も掲載して、本学園の活動をわかりやすく説明している。

『スマプレス』と『スマプレス・アニュアルスケジュール』

研修旅行のレポートを集大成した『須磨文庫』、教育の課題を分析した『須磨教育』の発刊

生徒たちが研修旅行の後に提出したレポートは、『須磨文庫』に集大成される。文章化することで学習した内容を見つめ直し、自分の考えや経験を理論的にまとめる能力が養われる。また、教員たちによる学術誌『須磨教育』を発行し、教育の課題を分析し、成果の共有を図っている。

MESSAGE

こだわりを持って、
本学園のイメージを発信

高校教頭補佐・広報部長　土屋 博文

普段は何気なく見ているポスターやパンフレット。しかし、作る側に立ってみると、想像をはるかに超えた繊細な仕事である。本学園のイメージが大きく決まるパンフレットは、特にこだわりを持って制作している。例えば、表紙を飾る写真では、モデルの表情や立ち位置、色合いなどの微妙な違いに鋭い視線が向けられ、膨大な数の撮影が行われる。そこには制作スタッフの決して妥協しないプロ意識が感じられ、１ページずつ細部にわたるまで情熱を持って作られているのだ。本学園の多彩な広報物にも、そんな目線で見ていただくとありがたい。

中高一貫校のための制服

保護者の方々や生徒たちの意見を取り入れた制服

2004（平成16）年の中高一貫生募集にあわせて、高校入学生とは異なる新たな制服を作製することになり、2001年から具体的な検討に入った。制服のコンセプトは、「知的で上品で高級感のある制服」。進学校へと変貌し、さらなる成長を目指して開校する中高一貫校にふさわしいものが求められた。男女共学化時は、今までとは全く異なったデザインの制服に一新したが、今回はひとつの学校として高校の制服と共通するイメージをもたせるため、高校制服を担当している被服メーカーにジャケットとボトムを依頼した。しかし、一任するのではなく高校制服の時にアドバイスをお願いしたデザイナーも参加し、制服検討委員会を中心に生地選びやデザインなどの検討を行った。

まず、上下同じ生地のスーツにすることを決め、委員会でアイデアを出し合った上でデザイナーに制作を依頼。ジャケットについては、ボタンの数、襟の開き具合、ポケットの形など。スカートやズボンについては、スカートの襞数、ズボンのダーツ数などの詳細な打ち合わせを行った。その間、生地見本はもちろん、試作品も何度も作製した。

その他、中学女子のブラウスやジャンパースカートを新しくアイテムに加えることや、シンボルマークを学年色で変えていくことなど、数々のアイデアが生まれた。鞄も体の小さな中学生の負担を軽くするよう工夫するなど、検討事項は数多くあり、2年間では足りないほどであった。2003年春、これらの熟考を重ね、ようやく新生須磨学園中学校にふさわしい制服が完成したのである。

選択肢が広がった高校制服

中学から高校に進学する際に制服は変わらない、特に買い足すものはないようにするというのが原則であった。しかし、中高一貫1期生が高校生となる2007（平成19）年、生徒の間から高校からの入学生が着用している制服が着たい、という要望が出された。検討の結果、その願いを受け入れ、高校制服をオプションとして購入しても良いという方針が決定。そのため、校内には多彩な制服の着こなしが生まれることとなった。

全生徒と保護者にアンケートを実施

共学化から10年、中学校開校から5年を経た2009（平成21）年、制服の見直しを行うため、生徒たちと保護者の方々へのアンケートを実施。制服への満足度や改善点についての調査を行った。「今の制服を気に入っている」という声が多く、喜ばしい結果であったが、いくつかの改善点も指摘され、すぐに改められる点は変更した。また、時間の必要なものについては、次の制服の統一時期までに検討することとしている。

中高一貫生と高校入学生の制服を統一

中高一貫生の制服と高校入学生の制服は微妙な違いがあり、またオプションも多く複雑であった。そのため、ひとつの学校の制服として統一感を持たせるための検討を行うこととなった。大きな変更点は、ジャケットデザインを同じにしたこと。さらに、同素材のものはデザインも統一することで、コスト削減にもつながった。その結果、2011（平成23）年度の入学生から、中学生も高校入学生も同じジャケットで登校することになった。

中学

冬服正制服

冬服オプション

夏服・夏服オプション

高校

冬服正制服

冬服オプション

夏服・夏服オプション

MESSAGE

制服検討委員　中江 清恵

学園改革から、新たな制服の作製に携わって

「女子校から男女共学の進学校を目指す」と大きく方針が変わった時から、制服の作製に関わってきた。おかげさまで本学園の制服は、保護者の皆様や生徒からも概ね好評である。2011（平成23）年からは、中高一貫生と高校入学生の制服に統一感を持たせるため、ジャケットなど幾つかのアイテムを共通にしている。そのため、現在は細かく数えると50以上の制服アイテムが存在し、完全に統一するのは2016年度の予定である。これらをすべて把握している人は少ないと思われるが、生徒たちはうまく着こなして制服に愛着を持ってくれているようだ。

須磨学園高等学校・中学校
6年間の歩みとこれから

2009（平成21）年度、須磨学園高等学校・中学校は、中学1年から高校3年まで6学年が揃う区切りの年を迎え、これを記念して、2009年10月31日に「中高一貫完成記念講演会」を開催した。この日行われた座談会では、中高一貫校誕生のいきさつをはじめ、世界一周研修旅行、パソコン教育、グループウェア・ファーストクラス、プロジェクトマネジメント・タイムマネジメントなど須磨学園独自のプログラムについてその経緯や思い、課題、今後の方向性を忌憚なく語り合い、新たなステップへの飛躍を期した。

出席者
- 西　泰子　理事長
- 西　和彦　学園長
- 村山 恭平　先生（須磨学園理事・尚美学園大学准教授）
- 宮浦 修造　先生（V2学年担任）
- 山本 恵美子　先生（V1学年学年副部長）
- 金山 七穂美　様（中高一貫育友会初代会長）

司会
- 山下 裕美子　様（中高一貫育友会会長）

（※2009年10月31日に行われた座談会の抄録です）

阪神・淡路大震災を機に、中高一貫校誕生へ

理事長　では、始めさせていただきます。最初に、なぜ中高一貫校を設立したのか、そのことについてお話しいたします。しいて言えば、きっかけは阪神・淡路大震災です。あの地震で校舎の大半を補修改善しなければならなくなり、「やるなら今だ」ということで男子トイレをつくってしまったのが、スタートです。まず共学にして、「3年間では足りない。もっともっと時間が欲しい」ということで、中高一貫校を作りました。当時の苦労話を、山本先生、お願いします。

山本　ちょうど、高校3年生を教えた後、すぐに中学1年生ということでしたので、本当に何から教えていいかわからないという状況でした。とりあえず教科書の暗唱から始め、明けても暮れても、生徒と一緒に、「ハロー・マイケル！」。挨拶もすべて英語でやりましょうということで、ずっと続けてきました。

理事長　宮浦先生は、どんなことが大変でしたか。

宮浦　実は、1期生は2クラスの予定だったのですが、4クラスになってしまいまして、準備も何もできていない状態でした。入学式が終わると、長崎平和学習、文化祭、サマーキャンプと続くのですが、その予約も2クラスでしていましたので、すべての計画を見直しました。無我夢中で、スタートから4、5カ月のことは、何も覚えていません。

理事長　そのうえ、学園長からは「一人に1台のノートパソコン（PC）」「中学1年にもPCを教えよう」「ファーストクラス（FC）を導入する」と言われ、ご苦労されたことと思います。FCは、アクセス数がすごかったですね。

宮浦　ええ、旅行に行ったときの反応がすごく、旅先でアップすると、アクセスがドドドドッと来ました。ああ、やっぱりこういうニーズがあるのだなと。

理事長　学園長は、なぜ一人1台のPCとFCを導入されたのですか。

学園長　PCが一人に1台必要なのは、電子メールの送り受けをするためです。FCは、グループウェアのことですが、「グループウェアが絶対に必要だ」と思ったのは、オープンにできるものはオープンにして、みんなで共有したい。また、何かを決める時には、誰もが発言ができる状況をつくりたかったのです。それが、学校という活動に一番合っていると思いました。

理事長　FCを導入して、「育友会の部屋」というのができました。大勢の意見をまとめるのに、金山さんはかなりご苦労されたことと思います。

金山　私はパソコンを触ったこともありませんでしたが、自分用に1台買いました。FCを始めると、1期生の父兄からいろんな意見が寄せられました。生徒148人の親御さんが須磨学園に対していろんな理想を持っておられ、その意見をパソコン上で交換したのです。148人分の意見をまとめるのは大変でしたね。

パソコンと携帯電話で教育環境の向上を図る

理事長　村山先生は本学園の理事であるとともに、コンピュータ部の指導者でもありますが、生徒たちはきちんと使っているのでしょうか。

村山　コンピュータの進化は速いですから、例えば、秋に翌年のカリキュラムを組んでも、新入生が来た時には、コンピュータの文化自体が変わっている可能性さえあります。学校は保守的なところなので、こういうものに関しては、あえて子供たちの半歩後を歩くような感じの方がいいのかなと考えています。

理事長　来年度から制携帯を導入する予定ですが、須磨学園のコンピュータ教育の方向性についてどのようにお考えですか。

村山　携帯に関してはわからないというのが本音です。今後どんなサービスが出てくるのか、どんな危険があるのかわからない。逆に言えば、どんな面白い使い方ができるのかもわかりません。ですから、常に状況を把握しながら、試行錯誤でやっていきます。私が考えているのは、教材の中のいくつかの部分を携帯で見られるようにしたい。例えば、一つの授業のキモの部分。中学の数学なら三平方の定理の証明とか、英語ならテキストのメインの暗唱文、古典で言えば訳文ですね、それを携帯に自由にダウンロードして見る。ゆくゆくは、当学園の子供たちだけでなくて、世界中で見られるようにしたいですね。

理事長　PCは機動性に欠けるため、生徒たちは、PCを触っている時間の10倍ぐらい携帯を触っています。学園長は、携帯についてどうお考えですか。

学園長　携帯のディスプレイのサイズがパソコンぐらいになった時、パソコンは消えると思います。それまでは2つが共存するでしょうね。

理事長　宮浦先生、PCやFCについて、これはすごいなと思われたことはありますか。

宮浦　FCがとても便利です。例えば、公募推薦制の生徒たちには志望理由をFCで送るように指示しています。夜、家で確認して、翌日には話ができます。

村山　FCや制携帯は、インフルエンザが蔓延したような時に威力を発揮すると思います。生徒が長期間にわたり登校できなくなっても、FCや携帯で最小限の学校の機能が残せます。

生徒たちがヤル気を出した世界一周研修旅行

理事長　最初からうまくいくことを意図してやってきたわけではなかったのですが、やってみると良かったということがたくさんありました。世界一周研修旅行もその一つです。最初に話が出た時はみなさんが大反対で、水を飲んだら危険じゃ

西　泰子 理事長

西　和彦 学園長

村山 恭平 先生

ないか、生野菜を食べたらとんでもないことになるなど、いろいろ心配されましたが、いかがですか。

金山　あんなに何度も旅行に行ったら、勉強が遅れるのではないかと心配される父兄もおられると思いますが、その心配はまったくありません。うちの子もすべてに参加しましたが、現在、予定通りの進路を歩んでおります。

山本　世界一周で一番印象に残っているのは、最初のアジア旅行です。これには、うれしかった話と、つらかった話があります。うれしかったのは学校交流で、1期生がベトナムの学校を開拓してくれたこと。大歓迎を受けてベトナムの生徒と交流したのですが、学園長先生が「1対1の会話をやりたまえ」と言われ、1時間ぐらい英語でフリートーキングをしました。そのときの経験から、誰もが「これはもっと英語を勉強しないと」と感じたようです。それを聞いた2期生は、行く直前まで、明けても暮れても英語のスピーチを練習していました。その成果は現地で十分に発揮されましたね。一方、つらかったのは、体調不良者が出たことです。2カ国目の香港ぐらいから、「先生、ちょっとお腹が」と言い出し、下痢、嘔吐、発熱の生徒が出始め、理事長先生に病院に連れて行ってもらう生徒が続出しました。

理事長　いろんなことがありましたね。生徒たちが開放的になって規律が乱れた時には、私や学園長が真剣に怒りました。海外では、ほんのささいなことでも身に危険の及ぶことがありますから。

中高生の学習意欲を高める経営管理の手法

理事長　その他にも独自のプログラムがありますが、学園長、プロジェクトマネジメント(PM)とタイムマネジメント(TM)を導入した目的は?

学園長　PMとTMは、企業で大きなプロジェクトなどを始めるときに、それに関係する人の意識合わせなどに使う経営管理の手法です。私は、ずっとそれを研究しており、東京で大企業の幹部セミナーをやった時に、PMとTMのノートを配布しました。すると、受講者の一人が「うちの子供にもやらせたいから余分にもらえませんか」と言うのです。「子供さんには無理ですよ」と言ったのですが、「是非に」というので差し上げました。そしたら3カ月後に、「テストが20点上がりました」と、ものすごく喜ばれました。このシートで、時間管理や学習すべき内容の管理がしっかりできたのですね。これを聞いていた他の人からも求められ、2回目はノートを100冊ぐらい送りました。これが導入のきっかけです。PMを見ていると、子供たちが何を考え、どういうところに行き詰まって、どういうことを必要としているかがわかるようになります。また、大学に行っても社会人になっても、TMは継続して使っていただけます。

理事長　実際に現場で指導しておられる先生方、また子供さんが実際にやっておられる金山さん、どんな感じですか。

宮浦　強制的ではありませんが、J1から今日に至るまで、私は毎朝のショート・ホームルームで集めています。授業や講座があるので、生徒たちが自分で使える時間はわずかなのですが、それを有効に活用する方法を考えています。また、夏休みや春休みに上手に使っている生徒が多いようです。

金山　うちの子供は、TMは難しいと言っています。PMに関しては、受験勉強をしながら、大学生になって、大人になって、それから結婚してと、そういう人生設計を自ら立てているようです。自分の将来を大きな視野で見られるようになったかなとは思います。

村山　理事をやっていますと、毎年あれをいただけるんですよ。ある日、無くなっているなと思ったら、子供が使っている。ああ、うちの子はよくできるなあと感心して覗いてみると、遊びに行った話ばっかり書いているんです。聞いてみると「効率よく遊ぶために使うんだ」と(笑い)。

学園長　それこそTMの目的そのものであり、時間を効率的に使って遊ぶ時間を増やすんです。勉強の量がわかりやすくなると遊ぶ時間は増える。得ですよね。そういうテクニックを学んでくれたらいいなと。それに、PMで100ますに全部書いてしまったら、書いてしまった瞬間に忘れてもいいみたいな気になって、気持ちがラクになる。そのラクになった気持ちがプラスに作用して、さらにいろんなことを考えることができるのではないかと思います。

理事長　教育というのは、どこかの方向に向かって行くことだというイメージを持っているのですが、それを語るのは難しいですね。須磨学園が実施しているプログラムやシステムについて語ってきましたが、その具体的な経験が、この6年間の積み重ねになっているのだと思います。

須磨学園がこれから取り組むべきテーマとは

学園長　須磨学園にとって今後のテーマの一つは、男子と女子の比率だと思います。男子と女子がいい割合で存在するということが、学校の活性化にも関係してくるのではないかなと、そこのところを研究しています。

理事長　現在は、男女関係なく学力で線を引いており、ほぼ1対1の割合です。

学園長　いや、現状はそうなんだけど、未来に向けての話として。私は、男子6割、女子4割ぐらいがいいのではないかと思っています。

理事長　私が考える本校の今後のテーマは、もっと自由度を上げることです。そういう方向に進めればいいなと思っています。

学園長　制服を無しにするとか。

理事長　例えば、紺のブレザーだけお約束で、あとは自由になる日が来ればいいなと。

学園長　もう一つ考えているのが、FCのアカウントをずっと生かしておきたいということ、ご父兄のも含めて(場内、拍手)。卒業後は同級生と話す機会がなくなります。同級生が一生友達付き合いできるような環境づくりのセットアップもしたいなと思っています。

理事長　最後に、須磨学園ができてから理事として、また外部の人として伴走してくださいました村山先生から、厳しいご指摘、問題提起、課題をいただきます。

村山　やっぱり理事会が一番思い出深いですね。かなりひどいことを言ってきました。例えば、海外旅行の話が出たときに、こんな質問をしたのです。「海外旅行は結構お金がかかるようですけど、学園はぼったくっているんですか、それともぼったくられてるんですか?」。また、「旅行というのは、安全が確保されていると、その分効果が少ない。旅行で学べる量は、生きて帰って来れない確率に比例する。遣唐使は命がけで大陸に渡って勉強したんですよ」と。こんな話ばかりしたのですが、アイデアとして育てていただけました。私が一つだけ貢献できたかなと思うのは、制携帯のことです。制携帯という言葉は、たぶん私が世界で初めて口にした言葉だと思います。数年前に発想した時点ですぐに導入していたら、当時の携帯の機能だけでは行き詰まっていたと思います。それを今までじっくりと育ててもらったわけです。

理事の私がヤンチャをやっても、はね返すでもなし、押さえつけるでもなし、管理するでもなしに、いいところを生かしていただき、本当にありがたいなと思います。非常に個性的な学校ですが、一つ問題があるとすると、学校の環境が良すぎて、卒業後に世間の空気を吸ったら、とまどう子が多いということ。そのへんが課題だと思います。

最後に、須磨学園の今後の方向性についてですが、これまで母性的な方向に働いてきた部分もあえて突き放して、「任せる、その代わり責任取れよ」というような考え方ですね。教育界だけでなく世界的な思想の流れだと思うのですが、そこの部分をどう取り入れていくのかというのが、今後の課題ではないかと、横から拝見していて思いました。

理事長　ありがとうございます。本当にいろいろなことがあった5年と8カ月でした。ここで私が申し上げたいのは、海のものとも山のものともわからない、何も結果も出ていない学校に子供さんを託してくださった保護者のみなさんの期待に応えるために、何でもやるしかないなと。とにかく毎年毎年、そういう思いでやっていきたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

山本 恵美子 先生

宮浦 修造 先生

金山 七穂美 様

司会　山下 裕美子 様

2012年度 学校法人須磨学園　役員名簿

理事・評議員・幹事

理事	西　泰子	(理事長)
	西　和彦	(学園長)
	森島 冨士子	
	内田 佐登美	
	清井 礼司	
	村山 恭平	
幹事	樋口 恒次郎	
	渡邉 邦男	

評議員	西　和彦	(学園長)
	竹内 敏彦	(高校教頭)
	荻野　太	(中学教頭)
	堀江 美樹	(卒業生)
	笹木 明子	(卒業生)
	西　暢明	(卒業生)
	道木 柳太	(育友会)
	山田 貴子	(育友会)
	山下 裕美子	(育友会)
	小浦 久子	(学識者)
	村山 恭平	(学識者)
	越智 賢三	(功労者)
	西　策明	(縁故者)

育友会役員

高校	会長	道木 柳太	(3年)
	副会長	山田 貴子	(3年)
	副会長	山路 雅代	(2年)
	副会長	長谷川 ます子	(1年)
	書記	西山 智巳	(3年)
	書記	土屋 博文	(学校)
	会計	加藤 博子	(2年)
	会計	山下 雄基	(学校)
	会計監査	岡田 修子	(1年)
	会計監査	小川 雅之	(学校)

中高一貫	会長	山下 裕美子	(高2)
	副会長	田口 葉子	(高3)
	副会長	玉田 美紀	(高1)
	書記	﨑本 寿美子	(中1)
	書記	日下部 裕子	(学校)
	会計	那須 佳代子	(中2)
	会計	山下 雄基	(学校)
	庶務	河野 香織	(中3)
	会計監査	遠藤 智子	(高1)
	会計監査	小川 雅之	(学校)

スポーツ文化振興会役員

役員	会長	道木 柳太	(高3)
	副会長	山下 裕美子	(高2)
	書記	西山 智巳	(高3)
	書記	日下部 裕子	(学校)
	会計	那須 佳代子	(中2)
	会計	山下 雄基	(学校)
	会計監査	岡田 修子	(高1)
	会計監査	遠藤 智子	(高1)
	会計監査	小川 雅之	(学校)

顧問（育友会・スポーツ文化振興会共通）

顧問	西　泰子	(理事長)
顧問	西　和彦	(学園長)
顧問	小川 雅之	(事務局長)
顧問	竹内 敏彦	(高校教頭)
顧問	荻野　太	(中学教頭)

須和会役員

役員	会長	泉本 由紀	(63回生)
	副会長	藤稿　衛	(85回生)
	副会長	毛笠 広基	(85回生)
	書記	井土垣 舞	(81回生)
	書記	楠木 千尋	(80回生)
	会計	渡部 美由記	(81回生)
	会計	山下 雄基	(80回生)
	会計監査	若柳 和江	(77回生)
	会計監査	迫田 亜希	(82回生)

役員	名誉顧問	西　泰子	(理事長)
	名誉会長	西　和彦	(学園長)
	顧問	竹内 敏彦	(高校教頭)
	顧問	荻野　太	(中学教頭)
	顧問	笹木 明子	(62回生)
	顧問	堀江 美樹	(63回生)
	顧問	大庭 晃司	(79回生)
	顧問	比良 充宏	(83回生)
	顧問	谷川　誠	(84回生)
	顧問	山田 あゆみ	(84回生)

2012年度　教職員名簿

理事長	学園長	高校教頭	中学教頭
西　泰子	西　和彦	竹内 敏彦	荻野　太

国語部
中江 清恵
後藤 秀雄
小倉 三千代
米澤 昌記
三谷 美妃子
田村　忠
瀧本 健作
堤　麻衣子
竹田 裕美
田中 正人
宮本 貴広
山下 真弥
髙橋　介
上沼 匡一
金井 直大

英語部
竹内 敏彦
山本 恵美子
別府 孝次
横田 格子
堀井 雅幸
千田 正英
北嶋 数樹
村往 正英
日下部 裕子
山内 真吾
徳澤 可南子
柏山 隆司
平松 一昭
山﨑 優美子
前澤 良江
陰平 愛弓
カイ・シュエルマー
小池 なぎさ
山口 智恵
春名 紗耶加
藤本 敦子
ダニエル・ドーマン
里村 順一
池田 康世
マチヤシキ・バクスター・ブリー

数学部
島村 なをみ
高見　潤
土屋 博文
淺尾 浩史
山本 理貴
武田 信明
山中　拓
多田 鉄人
福原 伸光
高島 直輝
碓井　学
岡田 大樹
四宮 慶佑
岡部 宏美
谷口 雅俊
八田 陽児
北中 清史
美濃輪 茂
垣本 充宏
中山 勝正

理科部
宮浦 修造
濵谷 義和
上野山 恵理
長谷川 慎
森　新悟
柳澤 明希子
吉田 泰明
藤本 絢子
岡本 睦功
吉村 祐介
原　孝博
小泉 智史
大久保 和則
長　春夫
佐々木 雅史
髙戸 隆喜
髙谷 敦子

地歴公民部
後藤 芳春
位原 庸太
山口　哲
荒木 剛実
堀川 陽子
下地 英樹
冨田 庸介
小森 奏子
池田 悠紀
吉田 勝司
伊藤 寿章
今井 香織
山田 大貴
土屋 義和
髙井 さくら
山﨑 由美
工藤 章男
以西 正明

保健体育部
荻野　太
池田 浩二
小林　新
蓬野 弘幸
廣滝 輝彦
濵本 憲秀
矢野 浩章
志村 幸広
米谷 光正
井上 周二
川﨑 由菜
立松 幹浩
紙本 なる実
内村 香菜
山田 あゆみ
谷川　誠

芸術部
久永 知史
小林 理絵
中村 文子
比良 充宏

技術家庭部
笹木 明子
西﨑 孝典
兼平 裕子

情報部
宮浦 修造
小林 峰子
橋倉 彰宏
坪田 由歌

養護教諭
寺内 亜希
渡邊 友美

事務局
小川 雅之
山本 京子
奥田 高士
若柳 和江
内田　淳
山下 雄基
村瀬 弥生
鈴木 智洋
山田 啓介
小倉 俊介
杉本 一良
髙木　宏

非常勤職員
北澤　實
村山 恭平
井手 智佳子
安積 宜輝
牧　久美子
清水 孝暉
坂本 真佐哉

嘱託
内田 佐登美
許　泰萬
梶山 惠子
荒木 美典
古川 惠美子
名越 一恵
長谷川 美佐子
小牧 裕加

パート
岡　邦子
矢間 和美

教科別の学習指導概要

独自性のある学習プログラム ① 国語科

国語教育のスタンダード化へ向けて

新学習指導要領が、中学校では2012（平成24）年4月より、高校では2013年度入学生から実施される。「話す・聞く」「書く」「読む」という項目から教科を捉え、習得した知識の活用・運用面に重点を置いた学習が望まれていることがわかる。従来の国語学習では、「読む」ことが重要視され、進学校ほどその傾向が強まる印象があった。大学入試を突破するには、文章の正確な読み取りが重要であることは言うまでもない。では問題集を解きさえすれば、読解力が伸びるのだろうか。

他校の取り組みを知るために、兵庫県内の伝統のある進学校の国語授業を視察する機会をいただいた。印象的だったのは、どの学年の生徒も授業中、活き活きとした明るい表情を見せていることであった。

本学園の国語のスタンダード教育をより実りあるものにするための課題は、「何をスタンダード化」するかということである。スタンダードとは、標準化することであって、画一化することではない。また、同じ教材、テスト、指導法で授業することを必ずしも意味しない。授業とは、「教師が教え、生徒が育む」ものである以上、生徒たちの知的好奇心や興味をどうすれば引き出せるかが重要なポイントである。もちろん生徒の学力向上にとって、不必要・不適切な指導は改善されるべきだ。しかし、画一化され、マニュアル化された授業に甘んじるのではなく、どうすれば生徒の目を輝かせることができるかという熱意、創意工夫が必要なのではないだろうか。スタンダード化すべきは、そこにあると考えている。

◎ 授業の質を保つため、情報の共有化を推進

状況に応じて毎年修正されるシラバス

国語部内では、コミュニケーションの向上を図るため教科会のあり方を見直し、活性化に取り組んでいる。また、指導内容の質を保つため、各学年の責任者による問題点の洗い出しと現状の取り組みを報告し、つねに情報の共有化を定期的に実施。授業の進度についてはシラバスを参照しながら教員間でゆるやかな連携を保ち、進度上問題のあった箇所は年度末に修正し、次年度の担当教員に引き継いでいる。

各学年の問題点、成績状況などについて検討する教科部会

◎「天声人語」筆写の意味と可能性

各学年で「天声人語」を筆写し、誤字や脱字などをチェックしている。当初は1時間近くかかっていた生徒も短時間でできるようになった。ただ書くスピードをつけるだけではなく、普段の生活の中では触れることのできない話題、表現に接する機会にもなる。今後は分からない言葉を調べ、内容を把握し、自分の意見や考えを持てるように指導することで、さらなる可能性が広がっていくことを期待している。

集中して筆写に取り組む

天声人語の授業

◎ 楽しむことで覚える、「百人一首」の魅力

「百人一首」は週一度、授業の最初の10分間で実施し、多くの生徒が心待ちにしている。数々のルールを設け、礼儀作法や静かにすることや協力して準備を行う指導もできる。実際に速やかな進行のために、注意し合う生徒たちもいる。また、今後の古典授業の導入としても有効である。中学生にとって古文はなじみにくいが、「百人一首」という遊びだからこそ真剣に聞き、覚えようとする姿勢が見られるようになった。

楽しみながら古典に親しむ

百人一首の授業

独自性のある学習プログラム ②

英語科

真の英語力を身に付けるために

2013（平成25）年度から高等学校で新学習指導要領に基づく授業が行われる。コミュニケーション能力の向上が強調され、国際社会で「使える英語力」の育成が重要視されている。しかし一方では、語彙習得数の上限が払われるとともに、文構造の知識の定着も盛り込まれている。ここからは、「ゆとり教育」の弊害を踏まえた改革という側面が見受けられる。

英語科では特に共学化以降、センター試験のリスニング導入など音声重視の入試傾向に合わせて、コミュニケーション能力向上を意識し、音声指導を積極的に導入した授業を実施。一方、「ゆとり教育」とは一線を画し、文法や語彙力、記述力の強化を重視してきた。

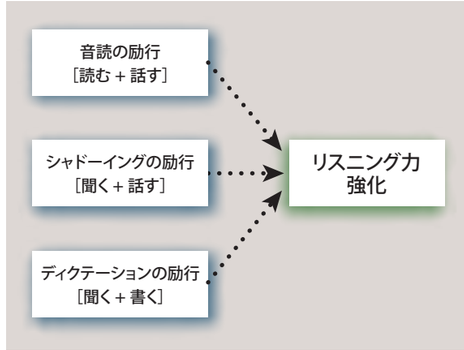
「ゆとり教育」ではダイレクトメソッド的発想が主流で、文法や構文の知識が軽んじられて久しい。昨今指摘される大学生の英語力の低下には、こうした状況が背景にあるのではないだろうか。ダイレクトメソッドは本来、欧米の類似した言語間の学習に効果があるもので、日本語と英語という全く異質な言語間には成り立ちにくいと考えている。

また本学園では、センター試験を代表とするマーク方式の一般化より生じた記述力の低下を補うため、英文解釈・英作文・長文の要約などの添削を各学年で行っている。長文の内容一致問題で、選択肢では正解できても、制限字数以内に要約せよと求められるとお手上げの生徒が多いのが現状だ。長文を読んで理解した内容を的確にまとめて文章にする、下線部の訳を自然な日本文にまとめる、日本文の趣旨を正確にとらえて英文を組み立てる――こういった学習のインストラクターとして、教員たちが赤ペンで徹底的に添削している。

◎ 何十回も声に出して繰り返す、音声指導の実践

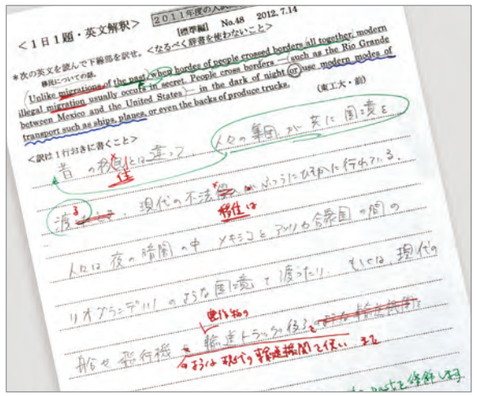
中学の段階からリーディング教材を用いて、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能トレーニングを徹底的に行っている。授業で精読し、語彙・文法・構文・ストーリーを正確に理解した上で、最初にナチュラルスピードのCDを聴いて、教師手作りのディクテーションテストを実施。次にCDを聴きながら何度かシャドーイングを行い、最後に自ら音読する。自宅での実践も含めて、ひとつの章を何十回も声に出して読むよう指導している。

音声指導の授業



◎「一日一題英文解釈」添削の実践

ある学年では毎日、英文解釈の添削を実施。教室前の廊下にかごを置き、毎朝新しい問題を入れ、チャレンジする生徒はそこからプリントを取り出し、休み時間や放課後を使って解き、職員室まで持参する。それを赤ペンで添削し、翌日返却する「一日一題英文解釈」を行っている。ある常連生徒の感想、「今までは単語の意味をつなげて想像で訳すことが多かったのですが、一日一題で構文を分析した上で訳す癖が付きました。容赦なく赤を入れられ、目からうろこの体験が何度も…。国立大の個別試験対策として有効だと感じます」。



「一日一題英文解釈」の添削答案

◎ 語彙力強化のための工夫

英単語コンテスト

ある学年では入試頻出の単語集を与え、毎週火曜日から土曜日まで、朝のSHR前に10個の単語の暗記テストを行っている。不合格者は「やり直しシート」（B4用紙）に間違えた単語を何度も書いて完全に埋め、その日のうちに提出しなければならない。週明けの月曜には復習テストを実施。さらに定期試験の範囲に入れ、学期末試験には全範囲を対象に、「英単語コンテスト」を行う。こうして、1つの単語に最低4回は触れるよう指導している。

朝の英単語暗記テスト

独自性のある学習プログラム ③

数学科

基礎を深く理解し、難解問題を克服

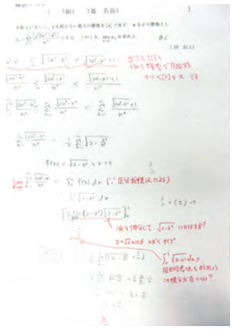
数学の学習では、「公式を覚えること」や「定型問題の解法をマスターすること」はもちろん大切であるが、一方、「基礎を深く理解すること」も極めて重要である。生徒たちは多くの問題を解くが、その後は答え合わせをして終わりというケースが多い。正解と思えば解答すら読まない生徒もいる。これでは問題を解く意味は半減してしまう。そこで、「ポイントは？」「別解は？」「条件を変えたら？」「その公式の証明は？」などを考えるように指導している。そして、考えたことをノートに書き、自分のノートを作る。書くことによって基本事項が深く理解でき、本質が見えてくるからだ。すると学んだことを応用し、他の問題が解けるようになる。このような学習経験を数多く重ねたいと考えている。

さて、数学はA→B→C→Dのように仮定から何段階かを経て結論を導く。問題が解けなかった場合は、どこの段階でなぜ次のステップに進めなかったのかを分析することが大切である。また、「反復練習」することも重要な要素である。これらを合わせて基本が深く理解されるとAからDへ一気に思考が広がり、見た瞬間に問題が解けるという状態になる。教科書の節末・章末問題や入試基本レベルの問題がこの状態になることが望ましい。

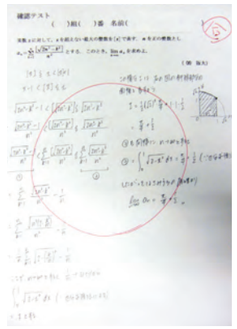
数学の学習で何が大切なのかを理解し、演習の仕方がわかると問題の難易度を上げていく。難解になるほど本質が見えにくくなり、時には高度な発想が必要になることもあるが、基本の取り組み方は変わらない。本質を求め、必要な基本事項を考え、演習後に十分な考察を行う——。そんな指導を徹底していきたい。

◎ 学習の成果を把握する確認テスト

60分授業の最後の10分に確認テストを実施している。その目的は、授業内容を振り返り、その時間内にポイントが理解できているかを確認するためである。答案の内容には授業の成果が表れ、合格点に達しなかった答案をよく分析することで多くのものが得られる。単なる計算間違いだけなのか、それとも理解不足なのか。生徒の誤解答はある程度予想できたものか、それとも意外なミスなのか。生徒たちがどのように間違ったのかを調べることが大切である。これらはいずれも担当教師が十分に教えられなかった反省すべき材料である。確認テストの結果を謙虚に受け止め、より良い教授法を考え、それを次の授業に活かすよう心掛けている。



生徒が理解しにくいところがよくわかる答案



模範的な合格答案

◎ 反復学習を行うことにより正解率が向上

参考書や問題集の前書きには、「少なくとも３回は繰り返すこと」と記されているものが多い。数学の基礎は一度の学習ではなかなか定着せず、問題演習を繰り返し、自分で考えることにより理解が深まっていくものである。たとえ同じ問題でも理解できていなければ最後まで解くことはできない。そこで重要な問題は繰り返し演習させている。例えば、模擬試験の問題は、重要かつ典型的なものが多いため反復学習に最適である。まず、模擬試験を受ける（１回目）、受験した当日に復習する（２回目）、答案返却時にもう一度復習する（３回目）ように指導している。１回目より２回目になると正答率が飛躍的に上がるのは表のデータの通りである。３回目を行うことで定着率はより向上する。

	問題の難易度	正答率（1回目）	正答率（2回目）
問題 A	入試基本	47%	83%
問題 B	入試標準	50%	60%
問題 C	入試発展	22%	74%
問題 D	入試発展	23%	77%

発展問題でも2回目なら正答率が70%以上に向上

◎ 模擬試験の答案を分析し、理解度を知る

模擬試験は確認テストや定期考査と同様、数々の情報を提供してくれる。既習分野の理解度はどうか、定型問題が解けるか、新しい問題に対するアプローチの仕方はどうかなどを知ることができる。答案を分析すると「この計算をこうする？」や「ここでその式変形をする？」「ここでなぜ次の一手がでない？」など、意外な解答が記述されている。教師の常識は必ずしも生徒とは共通ではない。意外な記述が多かった問題は、授業や特別講座で扱い、ポイントや考え方を丁寧に指導している。間違いばかり目立ってしまうが、素晴らしい答案に出合うことも多い。発想やアプローチの仕方など他の生徒たちに参考になりそうなものは授業で紹介している。

$t=\sqrt{3}\sin x-\cos x$ のとき

$y=-\sqrt{3}\sin 2x-\cos 2x-2a(\sqrt{3}\sin x-\cos x)+b$ を t で表す問題である。

定型問題であり、t の 2 次関数になることは容易に予想される。そうすれば当然 t^2 を計算するところである。

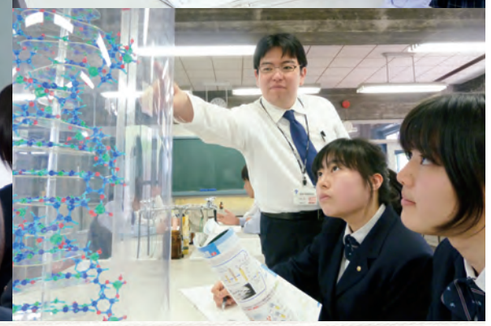
しかし生徒の答案を見ると $-\sqrt{3}\sin 2x-\cos 2x$ の部分を 2 倍角の公式を使って $-2\sqrt{3}\sin x\cos x-2\cos^2 x+1=-2\cos x(\sqrt{3}\sin x+\cos x)+1$ と変形し、ここで手が止まってしまう。t^2 を計算するという発想がないのである。

定型なので、授業・講座で復習し、類題で演習させることが必要である。

生徒が陥りやすい箇所を共通理解

独自性のある学習プログラム ④

理科



自然に興味を持ち、探究心を育む

近年、生徒の理科に対する興味・関心が薄れる傾向にある。自然の事物や現象の中に存在する理科は、学習した内容が身近な事象とつながった時に楽しさを感じる。知識を覚えさせることを重要視し、自然事象と結びつける内容が少なかったために、このような現象が起こっているのではないだろうか。2012（平成24）年度から、中学校・高等学校ともに新学習指導要領が実施される。その目標には「目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる」「自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する」とあり、実験や観察を通して、その理解を深めることが明記されている。

まずは「確かな知識を身につける」ことが必要であり、その上で自然事象について理解し、多くの事象を知ることが重要である。受験においても、基礎知識がおろそかでは成果が発揮できない。そのため、授業では問題演習を多く行い、確実に知識を定着させていく方針である。次に「論理的な思考ができること」。自然の事象は単純なものではなく、さまざまな要素が多く絡み合っている。筋道を立てて考えることで複雑な事象も理解できるようになる。自分の言葉で現象を記述する問題を多く解かせ、論理的思考を育みたい。最後に「実験・観察の技術を身につける」ことである。探究理科や授業での実験、マルチメディア室を利用した動画による授業を利用し、実際に触れてみて楽しみを体感してほしい。

本学園の理科教育は、自然に対する興味・関心を持ち、探究心を育むことを目的としている。そして、一人でも多くの優秀な研究者がわが校から輩出されることを期待している。

◎ 自らが経験して学ぶ、探究理科

自然界のルールを自分の手で確かめる

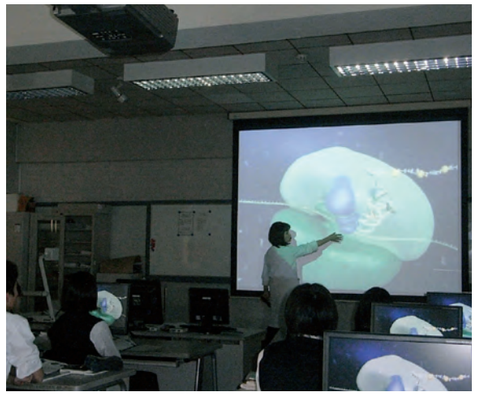
本学園の中学生は土曜日の放課後に、理科の実験や観察を行っている。普段の教科書に載っている学習内容を学ぶ授業とは別に時間を設定し、さまざまな自然の事物や現象を実際に自分たちで経験して理科を学んでいる。自分で想像していた実験結果になり満足している生徒や、予想外の現象が生じて驚く生徒など、一人ひとりが毎週楽しみながら探究理科の学習を行っている。

実験は驚きと発見、そして感動の連続

◎ 探究心を高める、動画による学習

教科書や資料集に掲載されている写真や図だけではなく、動画を見せて実際の自然の事物や現象をイメージできる授業を実施している。静止している画像では理解しにくいものも動画で見せることにより、より細部まで深く理解ができる。また、理科の資料映像は普段あまり目にする機会が少ないものが多く、興味関心や探究心をより強くもつことにつながっている。

実感により理解が加速



複雑な生命現象の仕組みに迫る

◎ 最先端科学に触れる、新しい発見

キャリア教育とあわせて、理化学研究所やスプリングエイトなどの研究施設訪問を実施。最先端科学の設備を見学することで、理科の分野により強い興味をもつことを期待している。また、各施設で研究内容の説明を受け、成果を知ることにより新しい発見と出合う。さらに、見学に加えて各施設では体験実験や観察があり、自ら実験を行うことで理科の楽しさを実感することができる。

奥深い研究の世界を体験

第一線の研究に触れ視野を広げる

独自性のある学習プログラム ⑤

社会科

素晴らしい未来を築くために…

本学園の社会科では、生徒たちがより広い視野に立ち、この世界が形成された過程や現代社会の特性を知り、その諸問題について考え、主体的に生きる人になってほしいと願っている。学習指導要領にある「国際社会に主体的に生きる」（高校地歴）、「現代の社会について主体的に考察」（高校公民）、「国際社会に生きる社会の形成者」（中学社会）といった表現にもあるように、現在の若者たちにとって「国際社会」という言葉は、今後ますます無縁ではいられない。そこで必要不可欠になるのが、社会科の知識である。また、「より良い社会を形成し、そのなかで良く生きる」ための学習であるとも考えている。

そのため授業では、史実や地域の実状を羅列するにとどまるだけではなく、「何故そうなるのか」をつねに問いかけ、生徒の考えを引き出すことに努めている。その中から見出した事象は、確実な知識として定着する。過去の歴史を形成した人も、現在紛争のさなかにある人も、貧しい大地で創意工夫を重ねつつ暮らす人も、自分たちと同じ人間である。資料を手にじっくり考えると、より身近なものとして感じることができるはずだ。

「知る」ということは、さらなる興味関心にも、優しさにもつながると考えている。広い世界を知り、世の中を優しいまなざしで見据え、より素晴らしい未来を築くことができる若者となって巣立ってもらいたい。そして、活き活きと、世界へ羽ばたいてもらいたい。それが一人ひとりの幸せにも、この国や世界の明るい未来にもつながる——と信じ、社会科教育に取り組んでいる。

◎ 映画を通じ「人間のドラマ」としての歴史を知る

ある学年に毎年、歴史に関する映画を自由に鑑賞しそれをレポートにまとめるという、夏期課題を出している。戦争を描いた作品や古代ローマの剣闘士物語、チャップリンの作品など、生徒たちはさまざまな映画を選び課題を仕上げてくる。小さい頃に見た映画を、歴史的背景を知って改めて鑑賞し、「やっと意味がわかった」という生徒もいる。歴史事象だけでなく、気候や風土、現代社会の様相などを知り、考察を深めることが重要なのである。

大英博物館の古代ギリシャ・ローマコーナーにて

◎ 校外研修で学ぶ、実体験版社会科学習

本学園では、長崎・広島への平和学習、古都探訪・首都訪問、中高一貫生の世界一周などの校外研修がある。いずれの学年も、社会科教員が中心となり、詳細な事前と事後の学習を行う。訪問する土地それぞれに、都市が形成された過程、風土、現代に生きる人びとの暮らしがある。事前学習や授業で学んだ内容を現地で実際に見聞きすることは貴重な体験として、これからの人生に役立つと考えている。

袋町小学校（広島）の平和資料館にて

大英博物館のロゼッタストーンを見学

◎ きめ細かな大学受験への対応

特に高校３学年において、大学受験に対応できる学習を行っている。受験で求められる学力は、高校までの学習で身に付けておくべきものとして大学が要求している力である。合格すればゴールではなく、知恵を身に付けることを目標としている。

●論述力養成＝難関大入試で要求される、長文の論述に対応できる力を養う。基礎学力とは異なる能力も要求されるので、演習を繰り返し丁寧に添削指導を行っている。

●きめ細かな受験対応＝志望校に地歴が２科目ある、入試要項が変わって必要な科目が急に増えたなどの生徒一人ひとりのニーズにも、個別指導や講座などで対応している。

目標の実現に向けた大学受験指導

独自性のある学習プログラム ⑥ ［生命分野］

保健科

“CURE”と“CARE”の両面から対応

健康な「心」と「からだ」は、学力や豊かな人間性を支えるものであり、思春期の時期にこれらを育むことは将来の目標達成につながると考えている。生徒一人ひとりが安心して生活できる環境のもと、自分の健康に関心をもち、保持増進するための実践力を身につけてほしいと願っている。そして、将来に向けて健康を培うための「生きる力を育む場」となるように、“CURE”と“CARE”の両面から支援している。

CUREとしては、生徒の安全を第一に考えてAED（自動体外式除細動器）を設置し、全教員が救急救命講習を受講するなど、万一の事態に備えている。心の問題に対しては、生徒相談部、カウンセラー、担任、保護者などと連携を図り、24時間体制での相談活動を行っている。また、保健室を訪れる生徒との関わりを大切に、病気の予防、早期発見に努めている。

CAREとしては、健康管理と予防教育に力を入れている。健康調査や健康診断で生徒の健康状態を把握し、学校医による健康相談を随時実施。疾患を持つ生徒には、生活管理指導表を用いて健康状況を把握するとともに、必要に応じて主治医、保護者、担任、学校医と連携し、安全な学校生活が送れるようサポートしている。また、研修旅行前には保健の授業で、健康管理の大切さを伝えている。生活習慣の確立のために昼寝タイムを導入するほか、肥満防止の指導にも力を入れている。さらに、専門家による講演会を実施し、正しい健康情報を提供するとともに、保健だよりや授業などを通して、正しい情報を発信している。

これからも生徒一人ひとりが、健康な「心」と「からだ」を育み、笑顔いっぱいの学校生活を送れるように努めたい。

◎ 生徒の安全を守る、救命体制の充実

校内にはAEDを５台設置。全教職員は神戸市市民救命士講習（普通救命コースⅠ）を３年ごとに受講し、使用方法および心肺蘇生法の知識と技術を習得し、向上を図っている。また、けがの手当講習会も受講し、骨折やけがをした場合の対応も習得。保健体育科の教員や運動部顧問などには、救急インストラクターの資格を習得するプログラムがある。全教職員が万一の事態に対応できるよう万全の体制を整えている。

AEDを用いた心肺蘇生法講習会

◎ 専門家による講演会を実施

正しい知識を身につけるために専門家による講演会を行っている。2011（平成23）年度は、福島原発問題を受けて放射線や原子力の正しい知識と人体に及ぼす影響について、京都大学原子炉実験所の渡邉正巳教授にご講演をいただいた。また、性の問題については、医師による性感染症、助産師による性教育の講演会を実施。新入生に対しては、医師によるインフルエンザ予防のための講演会を行っている。

渡邉教授による放射線の講演会

◎ 年間を通じて活躍する、保健委員の活動

2011（平成23）年度よりインフルエンザ対策委員から保健委員に名称を変え、通年の委員会活動を実施。１学期には健康診断の手伝い、クラスの健康状態の把握、文化祭では衛生状態の確認など率先して活動を行っている。２・３学期にはインフルエンザ対策を中心に活動し、手洗いやうがいなどの感染予防の注意を喚起している。キャンプや研修旅行などでも手の消毒を実施。また、体育祭では救護活動を担当している。

保健委員による救護活動（体育祭）

◎ バランスの良い食生活を学ぶ、栄養学講座

2011（平成23）年度には武庫川女子大学・栄養クリニックの協力のもと、教職員対象の栄養学講座を実施した。今後は保護者や生徒を対象とした開催に取り組む予定である。バランスの良い食事をとることで、将来にわたって「心」も「からだ」もいきいきと健康な生活を送ってほしいと願っている。

教職員対象の栄養学講座

独自性のある学習プログラム ⑦ ［生命分野］

体育科

独自の保健体育教育を目指して

本学園は進学校へと改革を行い、年々大学合格実績を伸ばしてきた。生徒たちは「なりたい自分になるために…」大学受験を見据え入学してくる。そうすればおのずと受験に必要な教科に力が入るのは当たり前だ。結果が求められるシビアな世界。それでは勉強さえすればいいのか…。教養総合科目の保健体育はどうでもいいのか…。それでは受験学校になってしまう。保健体育にも将来に役に立つものがきっと学べるはずである。そう考えた教員たちは、本学園にしかない体育教育を作ろうと立ち上がった。

まず、考えなければならないのは時代の流れである。生徒や保護者のニーズは何であるか？世の中の変化に伴って、どのように対応していかなければならないのか…。そこから始まった保健体育科のさまざまな取り組みの中から、いくつかを紹介したい。

生徒たちが「心」と「からだ」のバランスを保ち、健康で元気な学校生活を送っていくために、保健体育科は大切な役割を担っていると考えている。体育を通じて学校生活が豊かに、楽しく過ごすことができたと感じられるよう、また、生涯の知恵になるような授業を目指している。さらに、大学でより保健体育を専門的に学ぶ、スペシャリストへの道に進む生徒を輩出できることも願っている。

一人ひとりが「to be myself, …なりたい自分になる。そして…」というテーマを実践するために、本学園にしかない独自の保健体育科を確立するための活動をこれからも続けていきたい。

◎ スポーツを楽しむ「９時スポ」タイム

中高生の運動能力低下が懸念されている。本学園でも学習に専念するがゆえに運動時間の少ない生徒が数多くいる。そこで運動ができる時間と場所を確保する「9時スポ」を提案。これは、体を動かすことが好きな生徒や運動不足の生徒が集い、19時30分から21時までさまざまなスポーツを行うプログラムだ。毎回30名程度の参加者が集まってくる。学年を越え、汗をかく喜びを分かち合う若者たちの姿は本当に素晴らしい。

「9時スポ」でサッカーを楽しむ

◎ 多彩な体育理論に関する学習を実施

スポーツには怪我がつきものだが、危険から回避する能力や知識で未然に防ぐことができる。そこで保健分野とは別に、運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ医学、トレーニング理論などさまざまな指導を行っている。本学園の体育教員は救急インストラクターの資格を取得しているため、民間救急講習団体「FAST」に認定され、全生徒に市民救命士（普通救命コースⅠ・ケガの手当てコース）の資格を発行することが可能になった。

AED

市民救命士による講習を受講

◎ 基礎体力の向上に向けたマラソンの導入

体力を向上させるためには、走ることが一番だ。そこで、フルマラソン×2年間84.5km走を実施している。このプログラムを毎時間継続すれば、年間でフルマラソン（42.195km）の２倍の距離を走破することになる。ただ走るだけではなく、目標設定として冬季にマラソン大会を開催。将来は市民マラソン大会に参加するなど、自分の体のことをよく理解し、生涯楽しみながら基礎体力を向上できればと願っている。

高校2年のマラソン大会（ユニバー記念競技場）

独自性のある学習プログラム ⑧ ［生活分野］

技術・家庭科

「衣」「食」「住」のQuality of Lifeを追求

生活は学習全般の実践版であり、その情報量はとてつもなく多く、選択力・想像力がなくては活かせないものである。生きる・活かせる家庭科を目指し、学年ごとにテーマを設定し、実習・講義を進めている。

海外研修に出発する前には、日本文化の学習として現地の交流会で使用する作品の制作や、世界の生活スタイルとは違う、日本で過去に使われていた便利グッズの見直しを実践するなど、自分自身のルーツを感じられる授業構成をしている。その中には、環境学習なども含まれ、これからの生活を考えるものでもある。

中学１年で基礎学習や興味関心付けをしっかりと行い、中学２年では海外研修前の日本文化教育を進め、中学３年で環境学習を集大成として行っている。例えば、技術分野では各種の材料を加工する技術と電気エネルギーを使う作品を制作し、さらに建築家を招いた特別講義により視点を高く広く、感性を磨くことができる内容としている。高校では、栄養を中心に他教科ともリンクした生活に直結する授業を行っている。

授業に関するアンケートを実施したところ、「制作の楽しさがわかった」「自分がどれだけの人に支えられてここまで育ったかを知ることができた」、着付け見本を見せる段階で終わった学期では、「次学期は自分でやりたい」「海外研修の交流会用に作った和紙人形しおりを喜んでほしい」など、素晴らしい感性が育まれていることに驚いた。生活の課題を自ら見つけ、教養が身に付けられる授業にこれからも努めたいと考えている。

◎ 日本独自の文化を海外に発信

海外研修のために制作した和紙人形は、ただの紙人形ではない。裏には、自己紹介を記入できる欄を作り、ラミネートでコーティングしてオリジナル名刺として海外研修の交流会で現地の方々に差し上げる。また、鞄のような制作物は、風呂敷で球体を包んだもの。それぞれの独自性にあふれた作品は、個人でオリジナルな形に作り上げ、使い方を覚えて活用している。

オリジナル名刺

風呂敷を何通りもの使い方に活用

◎ 名物調理実習「麺作り」、手打ちのうまさを実感

調理実習は、一緒に作る人との連帯感も生まれ、社会性も養われる一石二鳥の授業である。本学園の高校２年では、「麺は、買わない！手打ちで！」実習を実践。インスタントラーメンのような、あっという間にできる食材もあるが、本物を作り知ることで、内容物の違いや本来の味も実感できる。また、素材から作るということで、食品に対しての恩恵を感じ、「おいしく食べたい」「おいしいといわれたい」気持ちがわき起こるのだ。

足で踏んで麺のコシを出す

手打ち麺のカレーうどんを試食

◎ 木工・電気の応用実技と建築家を招いた講演会

建築家養成につながる技術の授業として、木材や電気材料を活用した作品を制作。ニッパーを使ってうまく導線をだし、電気回路を組み立て、外観は木材を加工して作品に仕上げる。それぞれの過程を理解していないと危険な実習である。説明書を脇に置き、最後の組み立ての段階で、まだ足りないとヤスリで磨きをかけている姿は職人のようだ。基本を理解し、お招きした建築家に恥ずかしくない態度で授業を受けることも大切である。

授業のポイントを掲示

ニッパーを使った実技

独自性のある学習プログラム ⑨ ［生活分野］芸術 音楽科

生涯楽しめる音楽の基礎を身につける

2010（平成22）年度から音楽科目の授業内容を大幅に見直した。「生涯音楽を楽しむための基礎を身につける」というテーマを設定し、その土台となる力を養うべく、実技・鑑賞という2つの柱を掲げた。実技としては、「ピアノが両手で弾ける」「歌唱技術を磨く」「楽譜が読める」。鑑賞としては、「音楽の良さがわかる」「変遷が分かる」「実技に活きる」。これらを目標とした取り組みを行っている。

ピアノ演奏については、一人1台の鍵盤楽器を使用し、フィンガリング練習だけでなく、発声練習や音楽理論を学ぶ時にも利用している。また、両手で弾くためにコードネームを覚え、楽譜全体をとらえる能力を養うことも重要なポイントである。歌唱では、毎年６月に合唱コンクールを開催。この期間には早朝や放課後に合唱が響き、本学園の初夏の風物詩になっている。また、読譜力の向上のため、授業で楽曲を使った譜読みトレーニングを実施。2010年度から設置したプロジェクターを使い、楽譜や図で説明している。鑑賞では、主に西洋音楽と世界の民族音楽を授業で取り上げ、人種や文化の異なる音楽を楽しみ、受け入れる心を養うことを心がけている。

改装された音楽室は、防音・音響設備も充実し、四方壁の防音材に加え、床に全面カーペットを敷き詰め、天井には吸音剤を設置。室内の音は強弱に関係なく鮮明に聴こえ、室外への音漏れも微小になった。この新しい音響設備により、周波数別に8つのスピーカーから高音質で音楽を聴くことができ、実際にホールにいるような感覚が実現した。

◎ 新音響設備の完成、本物の音を聴く音楽室

新しい音楽室の音響設備は、すべての音源をチャンネルディバイダで集約し、バランスを調節して６つのアンプを介して６つのスピーカー、および、2つのサブウーハーから周波数別に出力している。これにより、素晴らしく美しい鮮明な音響空間が実現した。このスピーカーからは、CD、DVD、LD、PCの音源を出力することができる。

ドイツ製の高音質ホーンスピーカー

パソコンを使った音楽演奏・制作（DTM）の授業

◎ 合唱コンクール本選、クラスで心をひとつに

合唱コンクールは中学３学年と高校１年で実施している。文化祭の前日に中高別々に予選を行い、それぞれ上位３クラスが文化祭当日に開催される本選に進む。美しい合唱を目指して、クラスが心をひとつにして取り組んでいる。早朝や放課後にも積極的に練習を行い、どの学年も年々素晴らしい合唱を披露できるようになってきた。

合唱コンクール本選（中学の部）

合唱コンクール本選（高校の部）

◎ 鍵盤に親しむ、ピアノ実技試験

2011（平成23）年度から実技科目の一つとして、ピアノの両手演奏を取り入れた。普段は一人１台の小さな鍵盤楽器を使い練習し、試験ではグランドピアノで実施。１学期は「HAPPY BIRTHDAY」を全員演奏することができた。コードを理解することで、初心者でも早い時期から両手で演奏できるようになり、「家族の誕生日で弾いてあげたい」という生徒も。授業以外でも鍵盤楽器に触れるきっかけになってくれればと願っている。

キーボードを使った授業

ピアノ実技テスト

独自性のある学習プログラム ⑩ ［生活分野］芸術 美術科

人生を明るく、豊かにする「芸術鑑賞」と「実技体験」

美術の授業で重視しているのは、芸術鑑賞である。文化遺産や美術作品の鑑賞による感動を得るのはもちろん、表現者の素晴らしさに触れ知的充足感の喜びを得る。国内では、東京、京都、奈良、福岡、徳島の博物館や美術館を訪問。徳島県の大塚国際美術館では、陶板による世界の名画をオリジナルの原寸大で鑑賞でき、教科書などでは味わえない出合いがある。また、海外研修のたびに世界の美術館や博物館を訪れる。事前学習を行い、美術館の特徴や作品、作者について学習する。中学３年間で基本的な美術史の知識を身につけ、中学３年のアメリカ研修旅行や、高校１年で訪れるヨーロッパ研修旅行に役立てている。

美術は作品を鑑賞するだけではない。自然や生活の中にある美しさやおもしろさなどを発見し、感動し、色・形で表現する喜びを味わうことも大切である。中学1年では、描くことに苦手意識を持たないよう丁寧に指導する。まず、鉛筆と練り消しゴムの使い方を学び、身近にある物や植物をスケッチ。よく観察し、形や素材、光や陰影を見つけ出す。次に、透明水彩とポスターカラーの２種類の絵具を用い、彩色筆などを使って伸び伸びと描く。その後、版画や切り絵、粘土など多彩な手法で、表現の幅を広げていくのである。

「芸術鑑賞」と「実技体験」を通して、生徒は3つの力を身につける。美しい、楽しいと感じる心「感受性」。アイデアを考え出す力「構想力」。自分の思いを伝える力「表現力・プレゼンテーション」。多くの生徒は、美術の道へは進まない。しかし、美術の授業で身につけたこれらの力は、社会に出た時必ず役に立つ。それが彼らの人生を明るく、より豊かにすると信じている。

◎ 本物の芸術作品と出合う感動

海外研修では、アジア（故宮博物院）、アメリカ（メトロポリタン美術館、ニューヨーク近代美術館、グッゲンハイム美術館、ワシントンナショナルギャラリー、スミソニアン博物館）、ヨーロッパ（ルーブル美術館、オルセー美術館、大英博物館、ペルガモン博物館）を訪れる。生徒たちの感想は、「教科書に載っている作品を実際に観て感動した」「予想以上に大きかった」など――。“本物”を観ることでしか味わえない感動が得られるのだ。

高校１年・ヨーロッパ研修旅行（ルーブル美術館）

◎ 多彩な表現手法を用い、作る喜びを創造

作品制作の題材は学校行事を積極的に取り入れ、サマーキャンプやアジア研修旅行の思い出を版画と切り絵で表現する。実体験を通して感じたことや友人との楽しい記憶を作品にすることで、制作意欲をかり立てる。中学３年間は、スケッチ、デザイン、版画、切り絵、粘土など多くの表現手法を経験し、作る喜びを感じ、興味関心を喚起させる授業に取り組んでいる。

版画作品「北木島の思い出」（船）

切り絵作品「アジア研修旅行」（万里の長城）

◎ デザインを学び、「計画する美術」の楽しさを育む

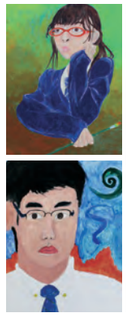
高校１年では、アクリルガッシュを使いデザインの基礎を学習する。最初は文字のデザインとして、有名ロゴの規則性を探し「SUMAGAKUEN」に変換。次に、広告デザインのコンセプトやターゲットを設定し、キャッチコピーも考える。最後に、パッケージデザインの基礎を学び、ティッシュボックスを制作。製図を描き、立体をイメージしてデザインを施し、組み立てる。これら一連の作業を通じ、「計画する美術」の楽しさを体感している。

文字のデザインをする

ティッシュボックス作品

◎ 自分自身を表現する作品を制作

高校２年では、自由な表現でイラストレーションや自画像、墨彩画などのアート制作を行う。イラストレーションでは、独自の世界観を設定し作り上げる「構想力」、そのイメージを形にする「表現力」を育む。自画像では、似顔絵とは違い自らと向き合い自分の心を見つめることが目的である。その中で、自分をいかに表現するかを考える。墨彩画では、墨の濃淡の表現を学び、好きな言葉をイメージして絵を描く。短時間でも思い出に残る作品作りができることを体験している。



鏡を見ながら自画像を描く

好きなことを追究し、自らの能力を高める

自分自身で考え、探求する個人研究

「好きなことをとことん追究する」という考えのもとに始まった個人研究は、2012（平成24）年で６年目を迎えた。中学2年と中学3年、高校1年が行っているこの研究は、生徒たちの探究心を尊重し、「好きなこと」に納得のいくまで向き合うことができる貴重な時間であると考えている。自分で１年間を有効に活用できるよう計画を立て、実行する。興味のある分野が一人ひとり違うように、結論に至るまでの過程も人それぞれである。だからこそ、自分自身で考え行動することが重要であり、そのような意識が持てるよう心がけている。また、各学年に１名の担当教員を据え、2011年度からは全教員が個人研究の指導にあたり、サポート体制も充実。最近では、生徒たちが自分の求めるものを徹底して追究する姿勢が、多く見かけられるようになった。

個人研究では、ひとり１冊の制作日誌を作成。その日に調べたものや研究成果を、絵や写真を使って詳細に記録している。また、共同研究を行う生徒たちは、数人のグループを組んで互いに協力し合い、大きな作品の制作や研究を可能にしている。高校生たちは、文系・理系選択の一環として個人研究を活用している。興味のあることを追究し、「楽しい」「もっとやりたい」という学問に対する興味を喚起させる役割も担っているのだ。

今後は、将来多彩な分野での活躍が期待される生徒たちの無限の可能性を、最大限に引き出すためのさらなる積極的な指導が求められている。また、有効な時間の使い方を生徒たちが自分たちで考え、動くという、自主性を養うためのサポートを徹底していく必要があると考えている。

文化祭で個人研究の集大成を披露

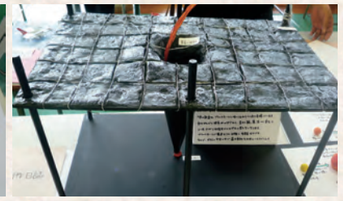
個人研究の集大成である全生徒たちの作品は、文化祭の「研究展示」として武道館４階に展示。作品には自由に手を触れることができ、細部までじっくりと鑑賞することが可能だ。優秀作品には、学園長賞と理事長賞、各学年の学年部長賞があり、毎年素晴らしい作品が並ぶため、各賞の選考は時間をかけてじっくりと行われる。当日は、自分の作品だけでなく他の生徒たちの作品を鑑賞することにより、お互いの刺激となっている。今年は来場いただいた方から「年々、質の向上が見受けられる」という、うれしい声を頂戴した。

自分の好きなことに取り組めるのが魅力

自分の発表に自然と熱が入る

貴重なアドバイスで新たな視野が広がる

驚きの精密な模型を制作



1年間で大型の作品制作に取り組む

論文形式による研究発表

共同研究で力を合わせた大作

友達の研究を見るのも勉強

一般の方々からも高い評価

幼い子供も英語に親しめる布絵本

平安時代の寝殿造りを再現し、一層興味が高まる

MESSAGE

好きなことを
とことんまで極める
難しさ

LCT教育部　吉田 泰明

個人研究が始まると生徒たちは、まず「好きなことって何？」という問題に悩む。「自分の好きなこと」と問われて、さて「どうしよう」と考え込んでしまうことも少なくない。今、豊かでふんだんにものを与えられている現代の子供たちにとって、自分が好きなことは何かを問う機会は貴重なことなのだ。そして、それを自分自身で見つけ出し、つねに追究し続けることは、今しかできない素晴らしい経験になると考えている。この自由研究を通して、これからの「to be myself，…なりたい自分になる。そして…」という未来像がより鮮明になってくることを願っている。

クラブ活動

文化教育部

好きなことを徹底して追求する

本学園の文化クラブは、生徒たちの希望する活動ができるよう、積極的に新しいクラブを発足し、現在は28団体に及んでいる。中高生が合同で活動できることが、一貫校ならではの特色であり、中学生にとっては、高校生の先輩から活動内容に限らず学習や学校生活全般についてアドバイスをもらえることが、充実した学校生活の支えとなっているようだ。

英数国理社の5教科研究部ではそれぞれを得意とする生徒が集まり、授業内容を超えた高度な研究を行っている。国語研究部とは別に文芸部もあり、学校行事の際に発行する部誌は好評である。英語研究部とは別にESS部もあり、文化祭では見事なスピーチを披露。家庭科系として料理研究部があり、学外の料理大会で入賞するほどの腕前だ。情報系としては、ソフト開発に取り組むコンピュータ部に加え、動画制作が専門の映像文化研究同好会も設立されている。美術系としては、美術部・イラストレーション部があり、発表会では見事な作品が並ぶ。音楽系は数多く、伝統のハンドベル部は演奏依頼が殺到するほどの人気を誇り、軽音楽部やギター部はそれぞれのジャンルで日々音楽を追求している。箏曲部は和室の本格的な環境で活動し、茶道部・華道部も含め専門家からの直接指導を受けている。吹奏楽部は、近年コンクールで活躍できるようになった。新設の弦楽部とともに、管弦楽部としても活動している。また、音楽系クラブから有志が集まり、新しく合唱同好会を設立する予定だ。放送部も学校行事の司会をすべて担当し、スムーズな進行をサポート。鉄道研究部が作った路線図は、学校案内パンフレットに採用されるほどに正確で、深い知識と日々の研究が評価されている。

◎ 神戸の街かどで、ハンドベルの魅力を発信（ハンドベル部）

ハンドベル部は４月の文化部発表会、６月の文化祭、２月のフェアウェルパーティーといった学内での活動と、学外のチャリティーコンサートなどに積極的に参加している。毎年12月に行っている神戸レインボーハウスでの演奏に加え、神戸北町や湊川、そして地元板宿の商店街に出演。ハンドベル部は他校にない珍しいクラブで、その美しい音色と魅力をたくさんの人に知ってもらえるよう、日々練習に励んでいる。

大勢の観客の前で演奏

毎年出演する地元板宿でのコンサート

◎「フードデザイン甲子園」で優秀賞を受賞（料理研究部）

文化祭での料理研究部の模擬店は毎年大人気を博し、売り切れてしまうほど。また４月の文化部発表会では新入生にお菓子を振る舞っている。その腕前を活かし、「フードデザイン甲子園」に出場。優秀賞（第３位）を獲得した。栄養バランスを考えることはもちろん、材料を無駄にしないように工夫している。さらにレパートリーを増やし多くの人に喜んでもらえるよう、学内での活動とともに、学外での活動も充実させていきたいと意気込んでいる。

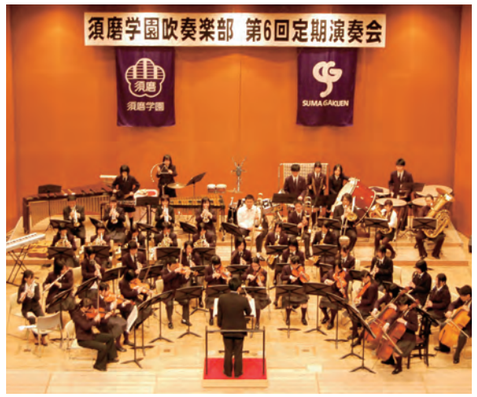
受賞した献立「勝利の女神」。運動会で応援する母から子へのお弁当

2008（平成20）年、「フードデザイン甲子園」で優秀賞を獲得

◎「吹奏楽部第6回定期演奏会」（管弦楽部）

2011（平成23）年の弦楽部の誕生にともない、管・弦・打楽器がすべて揃ったことで、オーケストラ編成が組めるようになった。弦楽部と吹奏楽部は普段は別々に活動しているが、2011年３月に開かれた吹奏楽部の第６回定期演奏会では、合同でオーケストラ曲「威風堂々」（エルガー作曲）にチャレンジ。今後は、学校行事や学外のコンサートでも合同で管弦楽部としての活動も積極的に行っていく。

吹奏楽部の練習



管・弦・打楽器が揃った須磨学園オーケストラ

運動教育部

男子運動部の目覚ましい活躍

女子高時代から数多くの優秀な選手を輩出してきた運動部であるが、1999（平成11）年、共学1期生をかわきりに、文武両道を追求する男子生徒が次々と入部してきた。現在では、中高合わせて、27クラブ、男女677名が早朝および放課後の練習に励んでいる。

中学校の男子は9クラブが活動。中でも、2010年8月に東京で開催された全国中学生弓道大会個人戦において見事に優勝を果たした。開校7年目の快挙であり、特に集中力を要する競技で優勝したことは、文武両道を提唱する本学園にとって喜ばしいことであった。

一方、高校男子では12クラブが活動。中でも、男子陸上競技部の活躍が目覚ましく、日々黙々と一歩一歩ピッチを刻む足音が早朝から聞こえている。特に、自分の限界へ挑戦し、学園の名誉と生徒間の信頼を一本の襷に込めてつないでいく駅伝に、今後さらなる活躍が期待されている。2008年春には、最も新しいクラブとして男子剣道部が発足。それまで、武道館４階の剣道場では女剣士の甲高い声のみが響きわたっていた。しかし、今では男子剣士の太く力強い声と、竹刀がぶつかり合う鋭い音が夜遅くまで聞こえてくる。創部2年目には兵庫県民大会優勝、兵庫県新人大会準優勝、近畿大会出場を果たし、その後も毎年好成績を収めている。さらに2011年夏には、高校硬式野球部が5回戦に進出。2001年の初出場では、7回コールド負けであったが10年を経てベスト16に進出することができた。「基本の徹底、チームワークを大切に」を合言葉に早朝練習に取り組み、努力が結実した瞬間であった。

これからも本学園運動部は、教師と生徒が一体となり、さらなる活躍を見せてくれるだろう。

◎ 数多くの国際大会で活躍（水泳競技部）

全国高校総体前の強化練習

本学園の水泳部は、前監督の熱心な指導、OB・OGの絶え間ない努力、そして、恵まれた練習環境のもと、オリンピック大会はじめ数多くの国際大会、全国高校総体に出場。全国トップクラスの水泳部として好成績を上げてきた。近年では、男子での国際大会代表選手や全国高校総体での優勝者を輩出している。今後もさらなる飛躍を目指す、名門水泳部の活躍に期待していただきたい。

ジュニアパンパシフィック水泳競技大会

◎ 輝かしい伝統を受け継ぐ（女子陸上競技部）

創部25年を迎える女子陸上競技部。団体種目の全国高校駅伝大会では、優勝2回を含む16年連続入賞を果たしている。個人種目では、全国高校総体や世界大会で活躍する多くの選手たちを輩出。このような輝かしい成績を残すことができたのも、多くの方々のお力添えがあったからだ。これからも培われてきた素晴らしい伝統に恥じぬよう、より一層の鍛錬に励みたいと考えている。

全国高校駅伝の1区スタート時

兵庫リレーカーニバル3000m決勝

◎ 全国高校駅伝大会優勝を目指す（男子陸上競技部）

共学化にともない、2005（平成17）年より強化を開始した男子陸上競技部。初年度に県高校駅伝3位入賞を果たし、初の近畿駅伝大会への出場権を獲得。翌年には、県高校駅伝準優勝に輝いたが、その後は準優勝が続き全国高校駅伝大会出場への道のりは険しいものであった。2009年に県高校駅伝で初優勝。初出場の全国高校駅伝において6位入賞を果たし、飛躍の年となった。翌年も全国高校駅伝に出場し5位入賞。今後はまだ達成できていない日本一を目指し、日々精進していきたい。

兵庫県高校駅伝1区で先頭を走る

クラブ活動の記録

［文化教育部］

●吹奏楽部

【平成17年度】
第52回兵庫県吹奏楽コンクール 神戸地区大会：金賞
【平成18年度】
第12回日本管楽合奏コンテスト 予備審査会：優秀賞
【平成19年度】
第11回アマチュア管打楽器コンクール アンサンブル部門
フルート四重奏：金賞、兵庫県知事賞
ソロ部門：金賞、神戸市教育委員会賞：トランペット独奏／杉本佳菜
伴奏部門：伴奏賞／植木椋介
第35回兵庫県アンサンブルコンテスト 神戸地区大会
フルート四重奏：金賞、地区代表　木管四重奏：金賞、地区代表
第35回兵庫県アンサンブルコンテスト兵庫県大会
フルート四重奏：銀賞　木管四重奏：金賞
【平成20年度】
第55回兵庫県吹奏楽コンクール 神戸地区大会：最優秀賞、金賞、地区代表
第55回兵庫県吹奏楽コンクール 兵庫県大会：最優秀賞、金賞、県代表、洲本市長賞
第58回関西吹奏楽コンクール：優秀賞
五井平和財団フォーラム：招待演奏
第36回兵庫県アンサンブルコンテスト 神戸地区大会　金管五重奏：金賞、地区代表
第36回兵庫県アンサンブルコンテスト 兵庫県大会　金管五重奏：銅賞
第14回KOBE国際学生音楽コンクール 本選出場／津村優花、津村彩乃、藤澤亮輔
第10回Jr.管打楽器コンクール 全国大会出場／杉本佳菜
【平成21年度】
第56回兵庫県吹奏楽コンクール 神戸地区大会：最優秀賞、金賞、地区代表
第56回兵庫県吹奏楽コンクール 兵庫県大会：金賞、県代表
第59回関西吹奏楽コンクール：金賞
第15回日本管楽合奏コンテスト 全国大会：優秀賞、バンドジャーナル賞、指揮者賞
第15回KOBE国際学生音楽コンクール 本選出場／国田健、江坂健吾、松村知明、杉本佳菜、旭井直哉、小林竜也、関野佑紀
第13回アマチュア管楽器コンクール：金賞／旭井直哉
第37回兵庫県アンサンブルコンテスト 神戸地区大会
管楽七重奏：最優秀賞、金賞、地区代表、神戸市長賞
打楽器三重奏：金賞、地区代表
【平成22年度】
第57回兵庫県吹奏楽コンクール 神戸地区大会：最優秀賞、金賞、地区代表
第57回兵庫県吹奏楽コンクール 兵庫県大会：最優秀賞、金賞、県代表、洲本市長賞
第60回関西吹奏楽コンクール：金賞、きらめき賞
第16回KOBE国際学生音楽コンクール 本選出場／藤原香奈海
第14回アマチュア管楽器コンクール：金賞／森田侑里奈
第38回兵庫県アンサンブルコンテスト 神戸地区大会
木管三重奏（中学）：金賞、地区代表　管楽八重奏：金賞、地区代表
打楽器三重奏：金賞、地区代表
第38回兵庫県アンサンブルコンテスト 兵庫県大会
木管三重奏（中学）：銀賞　管楽八重奏：銀賞　打楽器三重奏：金賞
第12回Jr.管打楽器コンクール 全国大会出場／国田健、第2位／江坂健吾
【平成23年度】
第58回兵庫県吹奏楽コンクール 神戸地区大会：金賞、地区代表
第58回兵庫県吹奏楽コンクール 兵庫県大会：最優秀賞、金賞、県代表、洲本市長賞
第61回関西吹奏楽コンクール：金賞
第17回日本管楽合奏コンテスト 全国大会：優秀賞、ブレーン賞、指揮者賞
第17回KOBE国際学生音楽コンクール 本選：入賞／森田侑里奈
第15回アマチュア管楽器コンクール：金賞／吉田早織、濵口実莉
第39回兵庫県アンサンブルコンテスト 神戸地区大会
管楽八重奏：金賞、地区代表
第39回兵庫県アンサンブルコンテスト 兵庫県大会　管楽八重奏：金賞
第14回Jr.管打楽器コンクール 全国大会：出場／藤原香奈海

●放送部

【平成16年度】
兵庫県高等学校総合文化祭 放送文化部門 アナウンス：佳作／岩崎茉也加
【平成18年度】
第30回兵庫県高等学校相貌文化祭 放送部門予選：佳作／田中千尋
【平成22年度】
兵庫県高等学校総合文化祭 放送文化部門 朗読小部門：佳作／田中美穂

●文芸部

【平成18年度】
日本文学館 ポエム大賞：審査員特別賞／上村早紀

●理科研究部

【平成20年度】
数学・理科甲子園2008：準優勝
【平成21年度】
数学・理科甲子園2009：準優勝

●料理研究部

【平成20年度】
フードデザイン甲子園：優秀賞（第3位）

●ギター部

【平成20年度】
音楽甲子園2008：関西4位
【平成21年度】
音楽甲子園2009：1次予選突破
【平成22年度】
音楽甲子園2010：予選突破
【平成23年度】
音楽甲子園2011：入選、優秀歌詞賞

●イラストレーション部

【平成22年度】
クリエイティブ系高校生応援マガジン「エスィーズ」：雑誌掲載

●軽音楽部

【平成22年度】
大阪ヒューマンアカデミー主催 Break Of Limit：準優勝

●美術部

【平成23年度】
越前大野感性はがき展：特別賞／西川茉那
天使のイラストコンテスト：準入選／金芳綾音
兵庫県小中高校絵画展：入選／田中みさ、坂田葉月
兵庫県私学連合会美術展：入選／北前朋映、西川茉那、小林倭子、廣瀬謙

［運動教育部］

●水泳部

【平成14年度】　パンパシフィック日本代表400mリレー：3位（日本新記録）／浦部紀衣
【平成15年度】　全国高校総体 女子100m、200m自由形：優勝／浦部紀衣
【平成16年度】　全国高校総体 女子100m、200m自由形：優勝／浦部紀衣
【平成19年度】　日本高等学校選手権水泳競技大会 女子200m、400m自由形：優勝／小野友愛
【平成22年度】　全国高校総体 男子200mバタフライ：優勝／尾﨑隆太

●中学校水泳部

【平成18年度】　県中学総体 男子200mバタフライ：優勝（県中学新）

●剣道部

【平成14年度】　県高校総体 団体：優勝、個人：優勝／眞開美佳
【平成15年度】　県高校総体 個人：準優勝　全国高校総体 個人：出場／楠木千尋
【平成17年度】　県高校総体 団体：優勝　全国高校総体 団体：出場
【平成19年度】　県高校総体 団体：優勝　全国高校総体 団体：出場
【平成20年度】　近畿高校総体 個人：準優勝／本岡亜衣
【平成21年度】　県高校総体 個人：優勝　全国高校総体：出場／太田朱音
兵庫県民大会 男子団体：初優勝
【平成22年度】　県高校総体 個人：優勝　全国高校総体：出場／橋本怜奈
兵庫県民大会 女子団体：優勝
【平成23年度】　兵庫県民大会 女子団体：優勝
兵庫県新人大会 女子個人：優勝／井上美咲

●陸上競技部

【平成14年度】　全国高等学校女子駅伝競走大会：3位
【平成15年度】　全国・近畿・兵庫高等学校女子駅伝競走大会：優勝
全国高校総体 3000mw：優勝／渕瀬真寿美
【平成16年度】　全国高等学校女子駅伝競走大会：3位
【平成17年度】　世界ユース選手権大会 1500m：2位／小林祐梨子
日本陸上競技選手権大会 1500m：優勝／小林祐梨子
全国高等学校女子駅伝競走大会（11年連続入賞）
【平成18年度】　全国高等学校女子駅伝競走大会：優勝
スーパー陸上2006ヨコハマ 1500m：日本新記録樹立／小林祐梨子
【平成19年度】　全国高等学校女子駅伝競走大会：5位
【平成20年度】　全国高等学校女子駅伝競走大会：4位（14年連続入賞）
近畿高等学校男子駅伝競走大会：2位
【平成21年度】　全国高等学校駅伝競走大会 女子：2位（15年連続入賞）、男子：6位（初出場）　近畿高等学校駅伝競走大会 男女：優勝
【平成22年度】　全国高等学校駅伝競走大会 女子：8位（16年連続入賞）、男子：5位
【平成23年度】　日本陸上選手権 1500m：優勝／小林美香
全国高等学校駅伝競走大会 女子：4位（17年連続入賞）

●中学陸上競技部

【平成19・22・23年度】
神戸市記録会、神戸市選手権、神戸市総体、神戸市新人：出場

●弓道部

【平成14年度】　県高校総体 団体：優勝
【平成15年度】　県高校総体 個人：優勝／正井肖実
【平成20年度】　県高校総体 個人：優勝／中田慶太郎
（創部以来初めて男子出場および一貫生初の全国大会出場）
【平成21年度】　県高校総体 男女 団体・個人：出場
【平成22年度】　全中学生大会：優勝／中河良太
（創部以来初めて一貫生初の全国大会優勝）

●ソフトテニス部

【平成14・15・16・17・18・19・20・21・22・23年度】　全国高校総体：出場
【平成16年度】　県高校総体 個人：優勝／戸田・福井組
【平成17年度】　県高校総体 個人：優勝／大開・藤本組
【平成20年度】　県高校総体 個人：優勝／大開・谷本組
【平成23年度】　県高校総体 団体：優勝
全国高校総体 個人：3位／安井・清水組

●バスケットボール部（女子）

【平成14・15・16・17・18・19・20・21・22・23年度】　近畿高校総体：出場
【平成18・19年度】　全国高校総体：出場
【平成18・19・21年度】　全国選抜大会：出場

●中学バスケットボール部

【平成19・20・21・22・23年度】　市総合、市民大会、市新人大会：出場

●アーチェリー部

【平成14・18・19・20・21・22・23年度】　県高校総体：出場
【平成19年度】　県高校新人戦 個人：優勝／安田良太
【平成19・20・21・22年度】　近畿高校総体：出場

●硬式野球部

【平成14・15・16・17・18・19・20・21・22・23年度】
全国高等学校野球選手権大会兵庫大会：出場
【平成18年度】　全国高等学校野球選手権大会 兵庫大会：出場（夏の大会初勝利）
【平成23年度】　全国高等学校野球選手権大会 兵庫大会：ベスト16

●中学軟式野球部

【平成19・20・21・22・23年度】
須磨区総体、神戸市総体、全日本少年神戸大会：出場

●高校サッカー部

【平成14・15・16・17・19・20・21・22・23年度】　県高校総体：出場

●中学サッカー部

【平成19・21・22・23年度】　市総体、市民大会、市選手権大会：出場

●高校硬式テニス部

【平成14年度】　World Jr.アジア・オセアニア予選：6位／守内千絵
【平成15年度】
全日本Jr.16才以下：3位／守内千絵　全国Jr.ランキング16才以下：5位
【平成16年度】　全日本ジュニア室内選抜17才以下：ベスト8
【平成20・21・22・23年度】　県高校総体、県新人戦：出場

●中学男女硬式テニス部

【平成19・20・21・22・23年度】　春季大会、夏季大会、秋季大会：出場

●インラインスケート部

【平成15年度】　世界プロランキング：3位／安床武士
【平成16年度】　VERTランキング：1位／安床武士

●フィギュアスケート部

【平成16年度】　全国高校総体 個人：6位／三木遥　全中総体：3位／清水典子
【平成17年度】　全国高校総体 女子Aクラス：4位／三木遥

●男子バレーボール部

【平成17年度】　神戸市内秋季リーグ参戦

●女子バレーボール部

【平成20・21・22・23年度】　県高校総体、県ビーチバレー選手権大会、市秋季新人戦：出場

●男子バスケットボール部

【平成19・20・21・22年度】　市総体、県総体：出場

●男女スキー部

【平成19・21・22年度】　全日本選抜ジュニアスキー選手権大会、女子アルペン競技スーパーG、全国高校選手権、近畿高校総体：出場

●バドミントン部

【平成19・22・23年度】　県高校総体、県高校新人戦、男女団体：出場
市中学総体、市新人戦、団体シングルス：出場

●高校卓球部

【平成19・20・21・22・23年度】　市高校総体、県民体育大会、県高校総体 男女：出場

●中学卓球部

【平成19・21・22・23年度】　市民大会、須磨区総体：出場

●空手道部

【平成19・21・22・23年度】　県高校総体、県新人戦、県私学大会：出場

●創作ダンス部

【平成23年度】　ダンス地区大会：優勝　県総体：6位　県新人大会：3位

●ソフトボール部

【平成21・23年度】　県高校総体、神戸市新人大会：出場

●チアリーディング部

【平成19・20・21・22・23年度】　神戸まつり：参加（須磨音楽の森）

中学・高校を通じた校外研修

体験を通じて学ぶ

本学園には数多くの研修旅行があり、学習のひとつとして重視している。それらは決して「楽しい思い出づくりのための行事」ではない。そのため、それぞれの旅行に明確なテーマを設定し、訪問先を選択している。そして、そこで学んだことをレポートなどにして提出する。6年間のなかでテーマに沿って行われる研修旅行は、それぞれの学年に応じて必要な学びの場であり、中高一貫校としての真価が発揮されている。

例えば、授業や本で学習するだけでは本当の歴史を学ぶことはできない。実際に現地を訪れ、遺跡や遺物に触れ、その時代に思いを巡らせることで、初めて興味を持って史実が理解できるのだ。また特筆すべきものとして、アジア、アメリカ、ヨーロッパを訪問する「世界一周」がある。「異なる文化の国々を知る」という体験は、感受性の鋭い年代の生徒たちに、世界の多様性を教えてくれる。本学園では、英語の習得のみならず、国際理解教育の達成を目指しているのである。さらに、夏と冬に実施されるキャンプでは、生徒たち自身が主体となって計画し、共同生活を行っている。その中から、クラスや班単位でのチームワークやリーダーシップの育成を図り、社会生活において欠かすことのできないコミュニケーション能力を養うのだ。

この研修旅行の大きな目的は「体感」にある。国内外の人や文化、地域特性に触れ、実際に体験してその素晴らしさや面白さを感じることによって、自分自身を改めて見つめ直す。そして、今後なすべき目標を発見する。この貴重な体験を通じて、次代を担う糧を育んでほしいと願っている。

MESSAGE

中学教頭　荻野 太

体験を通じて学ぶ、独自の校外研修

中高一貫校としてスタートする際、「世界一周」「キャンプ」「交流会」などの校外研修が検討された。しかし、当時高校担当の私は、本当に実現できるのか不安であった。現在、中高6年間で16回の研修が実施されている。その内13回を中学で体験。昨年は、延べ1カ月以上にわたり同行した。そこで生徒たちは、さまざまな体験を通じて素晴らしい表情、成長する姿を見せてくれる。校外研修で学ぶことの意義を改めて実感できる場であった。「過疎・海・廃校」をキーワードにネットで検索することから始まった「北木島キャンプ」など、独自で作り上げ工夫を重ねている校外研修は、今後も生徒たちを成長させる大きな学びの場であると確信している。

中学・高校を通じた校外研修

「山」や「海」に触れて、さまざまなことを学ぶ

［サマーキャンプ］

本学園の中学校各学年では、毎年夏季特別授業としてサマーキャンプを行っている。4泊5日の日程で、それぞれの学年がテーマを掲げて意義のある活動を目指している。

まず、中学１年では、「山」をテーマに六甲山で実施。中学２年は「海」がテーマで、離島、廃校利用なども体験し、岡山県笠岡市の瀬戸内海に浮かぶ北木島で行っている。そして、中学３年では、「深い山」をテーマに高野山でキャンプ生活を過ごす。宿泊場所については、中学１年はキャンプ施設を利用。中学２年ではその経験を活かし、キャンプ施設ではない廃校で、互いに協力し、何もない状態からいかにキャンプを作り上げていくかを経験する。また、中学３年は宿坊に宿泊する。毎年、異なった環境でキャンプをすることで、さまざまなことを学習できるという仕組みである。

次に、1日のプログラムについては、午前中はその場所に応じた授業形式の学習時間を設定。午後からは各地域特有の体験活動プログラムを実施している。ただ単に、現地に行ってキャンプを行うだけでなく、生活習慣が乱れがちになる夏の時期に、規則正しい生活のリズムを取り戻すとともに、2学期に向けた学習習慣を確立し、準備を行うことも重要な目的である。また体験プログラムでは、各地域に応じた野外活動や工芸学習を通してさまざまな分野への関心を広げるとともに、地域の方々との交流を通して「第2のふるさとをつくる」ことを目指している。こうしてサマーキャンプでは、本格的な山や海に触れ、「本物を知る」「本物に肌で触れる」ことを重視したプログラムを展開している。

「六甲山」で信頼関係を築く ― 中学1年

身近な山・六甲山の魅力を堪能

心に残るキャンプファイアー

中学校に入学して初めてのサマーキャンプは、「山」がテーマ。まずこのキャンプで、本学園のサマーキャンプにおける１日のプログラムの流れを学ぶ。身近な神戸の山である六甲山で、ハイキング、星空観察、フィールドアスレチック体験、キャンプファイアーなど、自然を十分に体感できるプログラムを実施。また、入学して４カ月と日も浅いため、この期間を通して、生徒同士や教員たちとの信頼関係を深めることも目的としている。

「北木島」で、異なる生活を体感 ― 中学2年

漁船に乗り込み本物の漁を体験

石材加工に挑戦

キャンプ施設でない廃校を借り受け、北木島の方々と協力してキャンプを作り上げることが大きなポイントである。「海」をテーマに漁船に乗り込んでの底引き網漁体験や、シーカヤックなどを実施。漁体験では、大量のごみが水揚げされることに驚き、現状を目の当たりにする。漁の後には、水揚げされた魚でバーベキューを行い、食の大切さも学ぶ。また、地場産業である石材加工も体験し、現地の方々との交流を深めている。

「高野山」の山深い自然に触れる ― 中学3年

植林されている木を協力して伐採する林業体験

荘厳な雰囲気漂う高野山でキャンプを実施

「深い山」がテーマのこのキャンプは、空海上人ゆかりの地である高野山で行う。奥の院散策やムササビ観察、星空観察などを通じて深い山を体感。また林業体験では、植林されているスギの木を数名のグループで実際に伐採し、植林の必要性、森林の大切さなど環境問題についても学ぶ。また、世界遺産に指定された熊野古道を全員で歩くことにより、日本古来より続く伝統を肌で実感し、キャンプを締めくくっている。

中学・高校を通じた校外研修

スキー研修を通じ、学年を超えた交流で芽生える自覚

［ウインターキャンプ］

中学１年と中学２年合同で実施するウインターキャンプ。スキー研修がメインプログラムであるが、冬期に行うこのキャンプは、その年の生徒たちの成長を知る貴重な機会といえる。公認のバッジテスト合格だけが目標ではなく、各学年で学んだ成果を発揮し確認できる、その年度の集大成と言っても過言ではない大切な行事なのである。

このキャンプの大きな特徴は、本学園の宿泊行事の中で唯一、2学年が合同で行うという点である。中2生は下級生が初めてできる学年であり、4泊5日を同じ屋根の下で過ごすことで、先輩という立場を実感することができる。事前指導では、中２生には先輩として見本となるように、中１生には先輩の姿をよく見るように指導している。実際に、現地での食事の準備や移動を比較しても、上級生は手際がよく、先輩という自覚が芽生えることで、海外研修を含めた2年間の経験が最大限に発揮できていることがわかる。特に、夜に行う交流会ではそれが顕著に表れており、さまざまな交流会を経験し成長してきた上級生の自覚のある行動が随所で見受けられる。このように、上級生が先輩らしくなり、それに触れた下級生はまた多くのことを学び、お互いが成長する――単にスキーの技術を習得することが目的ではなく、学年を超えて大切なものが得られる行事となっている。毎年、中２生は来年もまた来たいと思い、中１生は来年こそは先輩として成長したいと願っているはずだ。生徒や教員にとってこのウインターキャンプは、心身ともにお互いが成長できる、なくてはならない大切な行事のひとつである。

班ごとに分かれてスキーレッスン

生徒全員が上達できるスキー実習

基本からしっかり学ぶ

最初の２日間は、午前と午後の２回に分けて、プロのインストラクターからみっちりとスキーレッスンを受ける。はじめからパラレルターンができる班もあれば、スキーの履き方から指導する班もあり、技能レベルはさまざまだが、最終的には、全生徒が100人乗りの巨大なゴンドラに乗って、絶景の見える山頂でスキーが楽しめるまでに上達する。

トレッキング途中での雪遊び

雪山の自然を体感する、トレッキングとクロスカントリー

クロスカントリーで雪山を体験

３日目の午前中、冬の雪山にもっと親しむため、中２生はスノーシューを履いてトレッキングを行い、中１生は本格的なクロスカントリーに挑戦する。雪山の自然を実際に自分の肌で体験し、スキー実習とはまた違った一面を学ぶことができる。

クイズ大会で盛り上がるクラス交流会

講話で学び、交流会で楽しむ

雪山の厳しさを学ぶ講話会

夕食後は、スキーや冬の自然と安全に関する講話、交流会を行う。スキーの技術的な講習や雪山の自然について幅広く学習するほか、生徒会が中心となって企画する交流会では、学年を超えて大いに盛り上がる。生徒も教員も、普段見ることのできない一面が表れ、和気あいあいとした楽しい時間を過ごす。

上級者用バッジテスト

公認バッジテストに挑戦

ハラハラドキドキのバッジテスト

最終日には、SAJ（日本スキー連盟）公認のバッジテストを全生徒が受験。北志賀竜王での公認は高い価値があり、検定員の目は厳しい。そのため生徒たちは必死でレッスンを受け、各級の合格に向けて努力する。それぞれが緊張感を持ってバッジテストに臨む姿、そして合格発表を行う閉校式での歓声と喜びに溢れた姿は、感動的で、いつまでも目に焼きついている。

中学・高校を通じた校外研修

古代・中世の日本史を学び、古都を訪れ知識を深める

[古都探訪]

九州・大宰府大極殿跡

本学園の研修旅行は学年ごとにテーマが設定されている。中学3年・高校1年は「古き都を訪ねる」というテーマのもと、奈良と京都を中心に明日香、大津、難波の史跡を訪問。これは高校2年時に行われる修学旅行のテーマ「現在の都・首都東京を肌で感じる」と時間の縦軸でつながっている。

古都研修にあたっては、事前学習を実施。日本史の授業で古代と中世の歴史を学習し、その場所が国政の中心に選ばれた理由を考察するほか、それぞれの都が築かれた周辺の地形、宮廷を構成した人々などさまざまな要因を提示し、なぜその都が栄えたのかを各自で考える。そして、遷都が繰り返されたのはなぜか、それぞれの都の共通点は何かなどを調べていく。また、もうひとつの事前学習として、事前レポートを作成。遷都の背景や日本古来の文化、訪れる史跡などについて各自で研究し、さまざまな観点から調査することで知識を深める。これにより、実際に訪れた際にいっそう充実した成果が得られるのである。

この研修は10月22日が必ず行程の2日目になるように設定される。それは京都で「時代祭」が開催されるからだ。御所から平安神宮への行列を見学し、昔の風俗に思いを馳せることが大きな目的のひとつである。また、行程は班長を中心に班別で作成する。目的地を地図やインターネットで調べ、移動や集合時間を考えながら作り上げることで自主性や計画性が育まれ、協力して物事に取り組む姿勢が自然と身につく。

この古都研修は、生徒たちが大きく成長する大切な行事のひとつであり、さらなる充実を図りたいと考えている。

関西最古の寺といわれる「飛鳥寺」を探訪

飛鳥資料館を見学

飛鳥寺を参拝

石舞台古墳にて

飛鳥寺は関西最古の寺としてその名を知られている。1日目の明日香での班別自由行動では、多くの班がこの寺を訪れる。集合場所である亀石から最も遠い場所に位置しているため、集合時間の間際に走って帰ってくる生徒も少なくない。

平城宮跡で悠久の時を感じる

朱雀門を訪れる

復元された大極殿

平城宮跡資料館を見学

古都研修1日目、最初に平城宮跡を訪れ生徒たちはまず朱雀門の大きさに圧倒される。そして、朱雀門を通り抜けたとき、大極殿に向けて広がる広大な平原に悠久の時を感じる。その途中に、踏切を横断するのも独特の風情があるのだ。

研修の目玉である「時代祭」の見学

平安神宮

時代祭を見学

清水の舞台にて

この研修旅行のメインである「時代祭」の見学は、2日目の班別自由行動で生徒たち自身が計画。多くの班は烏丸御池や平安神宮でこの祭りを見学する。素晴らしい見応えで、予定時間を超過して見入ってしまう班が毎年多く出ている。

中学・高校を通じた校外研修

過去・現在・未来の視点から、首都東京を捉える

［首都探訪］

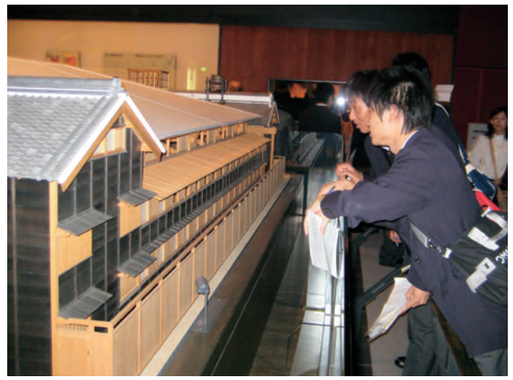
国会議事堂

中学3年・高校1年では、「古き都を訪ねる」というテーマで奈良・京都を訪ね、神社・寺院、時代祭などを見学して古都の文化を学んできた。高校2年の修学旅行では「現在の都、首都東京を肌で感じる」をテーマに、多彩な情報を世界へ発信し、未来に向かって発展し続ける首都・東京を政治、学問、文化、産業の4つの観点から探訪。自分自身の将来を見据え、首都を体感し数多くのことを学ぶ。

まず、徳川家康が江戸に幕府を開いてから東京オリンピックまでの、街や暮らしの移り変わりを展示している「江戸東京博物館」で首都の歴史を知る。班別行動では、現在の東京の姿を見学し、「日本科学未来館」で最先端の技術に触れて未来を考察する。すなわち、過去・現在・未来という時系列に沿って行われる修学旅行なのである。

また、行程の半分が班別行動であり、博物館や資料館、今後の進路となる大学、産業を理解するために企業や工場などを見学。移動は複雑な東京の交通網を利用するため、その手段やタイムスケジュール、見学施設の選定なども班別で行動計画を作成する。下調べ、計画、実行と生徒自身が作り上げていくのも大きな特徴である。さらに、5日間寝食をともにすることで友人関係を深め、仲間との協力の精神や責任感の重要性を学びながら公衆道徳やマナーを習得する。この旅行が、自分たちで作り上げやり遂げたという自信となり、以後の高校生活を向上させるための転機となって、学んだことを活かし、首都・東京の大きさに負けない人生を歩んでくれることを望んでいる。

首都発展の歴史を学習する「江戸東京博物館」



江戸時代の芝居小屋の構造を模型で学ぶ

参勤交代に使われた大名駕籠に試乗

江戸・東京400年の歴史と文化を展示する江戸東京博物館では、ジオラマや実物大の模型が展示されている。当時使用されていた生活道具に触れたり、江戸時代の駕籠をはじめ今では使われなくなった乗り物を実体験したりすることができる。研修旅行の初日には、首都・東京の歴史に触れて、現在までどのように発展してきたかを学ぶ。

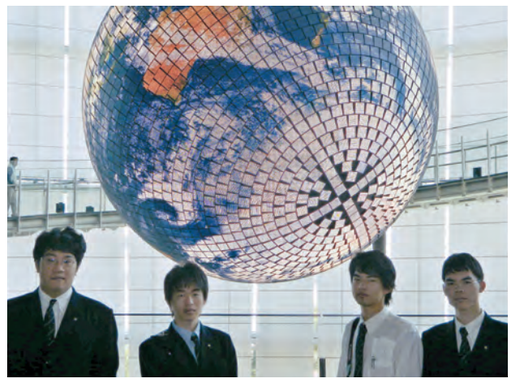
班別に目的地を決めて、現在の東京を自由に体験

班別行動で大学見学（東京大学安田講堂前）

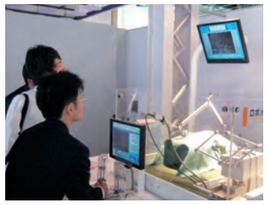
班ごとに1日かけて都内を見学。主に、東京に集中している大学や企業、博物館などを訪問する。各班は事前に見学する施設や食事をする場所などの計画を立てて行動開始。2日間の班別行動で、自分の足で目的の場所を訪れ、実際に見て感じ、東京の現在の姿を体感することを目的としている

全員で最高裁判所の大法廷を見学

豊かな未来の創造に向けた「日本科学未来館」



宇宙に輝く地球の姿をリアルに映し出す「Geo-Cosmos」



ロボット技術を駆使した治療法を体験

最先端の科学技術と暮らしの関わりが理解できるサイエンスミュージアム。展示場は、地球環境、生命科学、技術革新、情報科学の分野に分かれ、詳しく解説されている。また、実際に実験を観察・体験することで科学技術を理解し、私たちに豊かさをもたらすことを学ぶ。こうして視点を大きく広げ、自らがどんな未来を創り上げていくのかを考える機会とする。

中学・高校を通じた校外研修

各国との習慣の違いを知り、国際感覚を養う

［世界一周］アジア編

中国・故宮

世界一周旅行の最初として、中学2年にアジアの4カ国（台湾・ベトナム・中国・韓国）を巡る研修旅行を実施している。アジア諸国の歴史や文化、日本とのつながりを学び、「日本はアジアの一員である」との理解を深めることが目的である。初めての海外研修であるため、旅行全体の準備や事前学習、交流会の準備や練習、体調や安全の管理などを出発日までに行っている。

この旅行は8日間で4カ国を周遊。そのなかで博物館の展示品や歴史的な遺跡、人、食事などさまざまな体験が待ち受けている。生徒たちの興味関心は高く、「何でも見よう」「何でも聞こう」「何でも体験しよう」という姿勢が見受けられる。日本で学んだことと実際に現地を訪れた時の違い、日本では当たり前のことが通用しないという驚き、今まで培ってきたイメージや認識が誤っていたという気づき――そうした体験を中学生の感性で吸収しているのだ。

最初の訪問国台湾では、日本とは異なる景観に驚き、緊張している様子がうかがえる。ベトナムと中国では、現地の中学校と交流会を実施。同じ中学生がふれあい、会話を交わすことで、互いにさまざまな刺激を与え合う。ベトナムの中学生は、日本よりも物質的に恵まれていない環境の中で、夢や希望をしっかり持ち、前向きに勉強している。そんな姿に驚き、「豊かな日本に生まれたのに、ベトナムの中学生ほど真剣に取り組んでいない」と自省する生徒も多い。実際に訪れないと体験できない多くの発見があり、生徒たちの成長を促すだけではなく、大人になった時に国際的な視野が開けることを期待している。

日本の文化と須磨学園生の一日を紹介

お互いに国の文化を英語で紹介する学校交流会（ベトナム）

英会話で親交を深める

現地中学校との交流会では、まずステージ交流を行う。学校生活の様子などを説明するプレゼンテーション、合唱、ダンスなどで両国の文化を紹介する。何カ月も練習を重ね発表を終えた充実感や達成感は、日本では味わうことができない。教室での個別交流では、折り紙、けん玉など日本の伝統文化を英語で解説。質問タイムでは「もっと英語を勉強しなければ」と感じる生徒たちも多く、帰国後の勉強に対するモチベーションにつながっている。

本物を見て中国の歴史を体感

中国古来の宝物を実際に見て、悠久の歴史を学ぶ（台湾）

故宮博物院を見学

台湾の台北にある故宮博物院では、日中戦争時に戦火を避けるため、北京の故宮から台湾へ移された中国の歴史的遺品が展示されている。紀元前の青銅器から清王朝の歴代皇帝が愛用した品々まで、数多くの幅広い宝物を見学することができる。研修旅行の前には、社会科の授業で中国の歴史や展示品について学び、それらを実際に見ることにより、悠久の時の流れや歴代の皇帝たちの生活を肌で感じることができる。

日本文化と朝鮮文化の共通点を確認

大陸に日本文化のルーツをたどる（韓国）

国立中央博物館にて

日本の文化は大陸から朝鮮半島を経て伝わったとされている。中学１年の長崎研修旅行で訪れた、吉野ヶ里遺跡や国立九州博物館で見た稲作の道具や文化財と同じものを、韓国の博物館でも見ることができる。両者を見ることで、日本文化のルーツを実感することができるのだ。そして、朝鮮半島を陸路で南下し、釜山から船で博多へと渡る。まさに、東アジアの文化が伝わったルートをたどる研修旅行である。

MESSAGE

中学教頭補佐・学年部長
下地 英樹

国や宗教を超えた、意義深い国際交流

本学園ではさまざまな機会を通じて国際交流を実施している。そのひとつとして、イスラム教徒の多いマレーシアの学校と交流会を行うことがあり、宗教的なタブーに配慮し手探りの準備が始まった。当初は、女子ダンスのステージを計画。スカートの丈の長さ、脚を上げる踊りは許されるのか、そもそも女子がステージに立つこと自体が大丈夫なのかなど、不安がいっぱいであった。実際の交流会では、現地学校でステージに立ったのは男子だけで、女子は脇で見ているだけ。しかし、本学園のダンスを見た生徒からは拍手喝采。その後の個別交流では、国や宗教を超えた友情で結ばれ、和やかな雰囲気で終わることができた。

中学・高校を通じた校外研修

アメリカの政治・文化・産業などを実際に体感

［世界一周］アメリカ編

アメリカ・ゴールデンゲートブリッジ

毎年、中学3年でアメリカ研修旅行を実施している。2011（平成23）年3月で5回目の実施となる。この研修旅行の大きな目的は、世界の中心である大国アメリカを実際に目で見て、耳で聞き、肌で感じ取ってくることである。

関西国際空港を出発し、まずはアメリカ西海岸を探訪。ここでは、ボーイング社やマイクロソフト社、インテル社など主にアメリカの産業に触れる。広大な敷地の中で行われる飛行機の組み立て、ソフトウェアの制作、そこで、近年のアメリカ経済を支えてきた主要産業がどのようなものか、どのような人たちが働いているのかを、その場の空気の中に立って見聞する。また、シアトルではセーフコフィールド（マリナーズのホーム球場）、サンフランシスコではカリフォルニア大学バークレー校、スタンフォード大学と、伝統スポーツである野球や世界をリードする大学を見学する。

次は東海岸のワシントンD.C.へ移動し、政治や文化に触れる。ホワイトハウス、国会議事堂、リンカーン記念堂を巡り、スミソニアン博物館群の航空宇宙博物館を見学。ここに展示されている本物の航空機を見て、いつになく目を輝かせていた生徒が印象的であった。ワシントンからは、アムトラック（列車）でニューヨークへ向かう。近代美術館、グッゲンハイム美術館、メトロポリタン美術館、アメリカ自然史博物館を見学。最後の夜はブロードウェイでミュージカルを鑑賞し、アメリカ文化を体感することで締めくくる。この旅行が、単なる記憶だけにとどまらず、これからの人生において大いに役立つことを期待している。

ボーイング社博物館内のコックピットにて

アメリカの主要産業、航空機の組立工場を見学（ボーイング社）

シアトル郊外の広大な敷地に存在するボーイング社エヴァレット工場。ここでは、アメリカ国内や世界の国々で製造された部品を組み立て、航空機を生産している。その巨大な建造物などに生徒たちは圧倒される。工場群の片隅にある博物館では、実物の航空機に触れ、実際にコックピットに座りパイロット気分を味わうことができる。アメリカ航空機産業の中心部に入り込んでの貴重な体験であった。

タッチパネルを体感

マイクロソフト社のビジターセンターで最新機器を体感（シアトル）

世界中のパソコンにインストールされているマイクロソフト社の製品。シアトル郊外のレドモントにあるその本社を訪問。敷地内に道路や信号機がある広大なマイクロソフト社に驚く。ビジターセンターでは、タッチパネルで最新式機器を体感する。また、そこで働いている人たちに出会い、自分たちもこんなところで働きたいという生徒も現れた。

UCバークレー校の正門前で集合

名門、UCバークレー校の雰囲気に感動（サンフランシスコ）

世界でもトップクラスの有名人を輩出した、アメリカの名門UCバークレー校。日本の大学とは一味違った雰囲気に驚かされるとともに、何かインスピレーションのようなものを感じた。また、アメリカ西海岸のシリコンバレーが、これらの大学を中心に広がっていったことも頷ける。将来、このような開放的な大学で学びたいという生徒たちもいた。

アメリカ国会議事堂を背景に

政治の中心、アメリカ国会議事堂を訪問（ワシントンD.C.）

アメリカの政治の中心地ワシントンD.C.の国会議事堂を訪れ、ニュースなどでよく目にしていた光景を実際にその場で体感する。目の前に広がる公園には、スミソニアン博物館群、ワシントン記念塔やリンカーン記念堂などが確認できる。また、ホワイトハウス付近では、オーストラリア首相訪米による警備の厳重さに驚かされた。

リンカーン記念堂にて

中学・高校を通じた校外研修

欧州4カ国をめぐり、歴史や文化、芸術に触れる

［世界一周］ヨーロッパ編

ロンドン・ビーバーウッドスクールでの学校交流

世界一周の締めくくりとして、中高一貫の高校1年でヨーロッパの4カ国（フランス・イギリス・ドイツ・オーストリア）をめぐる研修旅行を実施。欧州諸国の歴史や文化、芸術を学び、「本物に触れる」ことを目的としている。また、EUの政治・経済体制を知ることや、現地での学校交流会とそのための準備や練習なども貴重な体験となっている。

ヨーロッパ研修の特長のひとつは、鉄道による移動である。特にロンドン・パリ間は、ユーロスターを利用。日本と違い陸続きに国が存在するだけでなく、海底トンネルを経由して他の国に移動できることを実感できる。また、この研修旅行は10日間で4カ国を訪問。パリでは凱旋門とエッフェル塔、ロンドンではロンドンアイに登り、都市全体を上から眺めることでどこに何があり、どのような機能を果たしているかが理解できる。さらに、訪問国の町並みを見ることで、それぞれの違いがよく表れていることに気付く。例えば、同じ色の外壁で建物の高さも揃えられ、美しい装飾が各所に施されたパリの市街。その後で装飾の少ないベルリン市街を訪れると、過去に社会体制の違いがあったことが実感できる。短期間の研修旅行ではあるが、歴史や文化の異なる4カ国の訪問にはさまざまな発見があるのだ。

以前にアジアやアメリカ研修を通じて得た経験から、外国訪問への戸惑いが少なくなってきた生徒たちが、このヨーロッパ研修ではより一層各自で考えて行動し、班ごとに協力しながらスケジュールを消化していく。多感な時期にこれだけ多くの国々を友人とともに訪問できた経験は、生徒たちの大きな財産となって将来に大きく役立つことだろう。

ルーブル美術館ではドゥノン翼を中心に見学

ルーブル美術館と大英博物館で本物と出合う

「ナポレオンの戴冠式」

教科書や画集でしか見たことのなかった作品や展示物を実際に自分の目で見ることにより、新たな感動を覚えると同時に、世界史や地理に対する興味を深めることができる。見学は基本的に班行動で行うが、どちらの美術館も広大で人が多いため、事前に鑑賞する作品を検討し、限られた時間を有効に使う必要がある。全員が同じ行動をするのではないところに価値があり、各自の自己管理能力が磨かれる場でもあるのだ。

中に入ると「ペルガモンの大祭壇」に圧倒される

古代遺跡に触れる、ペルガモン博物館

バビロニアの「イシュタール門」

ベルリン研修の見どころのひとつであるペルガモン博物館。館名の由来にもなっている「ペルガモンの大祭壇」をはじめ、ギリシャ、ローマ、中近東、イスラムの美術品が展示されている。ヘレニズム期の「ゼウスの大祭壇」、エーゲ海の古代都市ミレトゥスにあった「ミレトゥスの市場門」やバビロニアの「イシュタール門」などはトルコの古代遺跡をそのまま移築保存したもので、その大きさに圧倒される。

ウィーンでオペラ・ワルツに感動

ウィーンとベルリンでクラシック音楽を堪能

忘れられないパイプオルガンの響き

ベルリン大聖堂でのパイプオルガンコンサートの鑑賞は1期生から続いている。現在の研修旅行では、ウィーンでのコンサートも鑑賞するようになった。ベルリン最大の教会で響きわたるバッハの楽曲に感動し、ウィーンではモーツァルトやシュトラウスの美しい調べを堪能できるのも、ヨーロッパ研修旅行ならではの大きな魅力のひとつである。

グループ交流でお互いの学校を紹介

ビーバーウッドスクール（ロンドン）での学校交流

最後にはすっかりうちとけて盛り上がる

ロンドン郊外にあるビーバーウッドスクールで学校交流を開催。お互いの学校の紹介やダンス、歌などのプレゼンテーションを楽しんだ後、グループごとに校内を見学する。体育館ではバスケットボール、教室ではドラムを叩いたりして楽しいひと時を過ごした。ホールでは、グループ交流が大いに盛り上がり、異文化コミュニケーションとして充実した経験を心に刻むことができた。

中学・高校を通じた校外研修

現地を訪れ、体験を通じて、平和の尊さを実感

[平和学習]

長崎・平和祈念公園(左)、広島・原爆ドーム(右上)

1945(昭和20)年8月、原子爆弾が広島と長崎に投下された。日本は世界で唯一の被爆国となったのである。日本の国民にとって、広島と長崎は平和学習の原点であると言えるだろう。この悲惨な体験は、戦後60年以上を経た現在までずっと伝えられ、これからも未来に受け継いでいく必要があり、歴史から学ぶ意義はここにあると考えている。

中学1年で長崎研修、高校3年で広島研修を実施。本学園の研修旅行はいずれも、体験を通して学ぶという基本的な考えのもとに行われ、平和学習としてこれらの行事は欠かすことができない。まず、事前学習としての平和講話で、実際に被爆された方からの話を直接伺う。その上で、実際に長崎と広島を訪問。市内の原爆や戦争に関する史跡をめぐり、自分の足で、目で、手で、感じながら戦争の悲惨さや命の尊さを確かめる。そして、セレモニーでは原爆でなくなられた方を追悼するとともに、平和への誓いを新たにするのだ。中学1年で始まった長崎での平和学習は、高校3年の広島で締めくくりとなる。

さらに、平和教育を実りあるものにするために、体験を通して国際的理解を学ぶ場として海外研修旅行を行っている。ユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」とあり、世界の人々の相互理解の大切さを訴えている。本学園ではアジア、アメリカ、ヨーロッパの3つの海外研修を実施。いずれもベトナム戦争の戦跡やザクセンハウゼン強制収容所、さらにはグラウンドゼロといった場所を訪れ、世界史的な視野から平和について学んでいる。

ザクセンハウゼン強制収容所で展示物の説明に耳を傾ける

ザクセンハウゼン強制収容所で考える平和

ベルリンから少し北上したところにあるザクセンハウゼン強制収容所。かつての厳しい歴史を伝えるこの場所は、生徒たちにとっても最も印象深い見学地のひとつである。現存する当時の建築物の中には、過酷な生活状況を伝えるものが残っている。ここでは各自が、平和について、戦争について考える。訪問時期が例年11月頃であり、寒さが身にしみる頃だけに、強制収容所見学は鮮烈な記憶として生徒たちの心に刻まれる。

ポツダム会議が行われたツェツィーリエンホーフ宮殿

第二次世界大戦後の日本の出発点を知る

ベルリン郊外に位置するポツダムは、ポツダム宣言が発せられた場所として20世紀の歴史に残る古都である。ここに1945(昭和20)年7月17日から8月2日にかけて、アメリカ・イギリス・ソ連の3カ国の首脳が集まり、第二次世界大戦の戦後処理と日本の終戦について話し合われた。ヨーロッパ研修では、世界遺産に登録されているツェツィーリエンホーフ宮殿を訪れ、歴史的なポツダム会談が行われた部屋などを見学。戦後の日本とドイツの新たな出発点を体感することができる。

ベトナム戦争跡のクチトンネルを巡る

ベトナム戦争に戦争の悲惨を知る

ベトナムには、戦争の傷跡や戦いの遺産が数多く残っている。例えば、ジャングルの中にあるクチトンネルは防空壕として造られたもので、小さくしゃがんで通れる程度のトンネルが延々と続き、アリの巣のような内部は真っ暗闇の世界だ。また、戦争証跡博物館ではベトナム戦争で実際に使われた武器や銃器を見ることができる。傷ついた兵士や痛ましい被害者など、戦争の非人間性や残忍さを強く感じ、涙する生徒も見受けられる。

グラウンドゼロでテロ犠牲者に黙祷を捧げる

国際的な視野で平和について考える

アメリカ研修では、同時多発テロの現場であるグラウンドゼロを訪れ、黙祷を捧げる。グラウンドゼロで得た印象と平和学習で訪問した長崎や広島の体験とを重ね合わせることによって、世界で起きているテロや紛争を見つめ、平和についてより現実的に考えることにつながる。こうして、体験学習が相互に関係し合いながら、知識が積み重ねられていくのだ。

自らのマネジメント能力を培う

生きた時間を使い、創造性を磨く「PM・TM教育」

「PM（Project Management）教育」と「TM（Time Management）教育」は、2004（平成16）年度に導入された。これらは、学園長がビジネスマンとして活躍していた頃に生み出し、活用していたマネジメントノウハウを、中学生、高校生向けにアレンジしたものである。

この年に開校した中学校では、6年間で8年分の学習と行事をこなすハードプランが設定されていた。生徒たちが主体的に、計画的に行動できるよう、また、「なりたい自分になる」ための実行力をつけるための手段として「PM・TM教育」が導入されたのである。

実行には2冊のオリジナルノートを使用。大きな目標を「小さな行動の集まり」と考え、ひとつずつ「やること」を明確にして書き出すのがプロジェクトマネジメントノート。そして、「やること」をスケジュールに落とし込むのがタイムマネジメントノートだ。1年を52週に区切り、毎週1回、2冊のノートを使って学習を中心とした行動計画を作成する。これを繰り返し行うことで自分に合った計画が立てられるようになり、進捗を確認する習慣が身につくとともに、徐々にノートの有効性や必要性が実感できるようになる。

しかし、効率良く自分を管理することだけが目的ではない。「PM・TM教育」が目指す本当の意義は、「創造性を磨く」ところにある。時間や行動の効率化によって、自分が前に進んでいることを実感するとストレスから解放され、より創造的に時間を使うことができるのだ。タイムマネジメントをうまく生活に活かし、「生きた時間」を使ってさまざまなことにチャレンジし、アクティブに「足し算型の人生」を送ってもらいたいと願っている。

金曜日の「タイムマネジメントの時間」に翌週の計画を作成

毎週金曜日の1時間目は、「タイムマネジメントの時間」として全校一斉に翌週の計画を作成する。1週間のスタートは日曜日であり、土曜日は隔週休みの学年も多いことから、担任が記入後にチェックして返却することを考え、この時間に設定している。学級担任は行動設定のための指導や学校行事などの提示を行い、計画が立てやすいようアドバイスする。また、巡回して記入状況を確認し、より良いプランとなるように助言を行っている。

金曜日1時間目の「タイムマネジメントの時間」

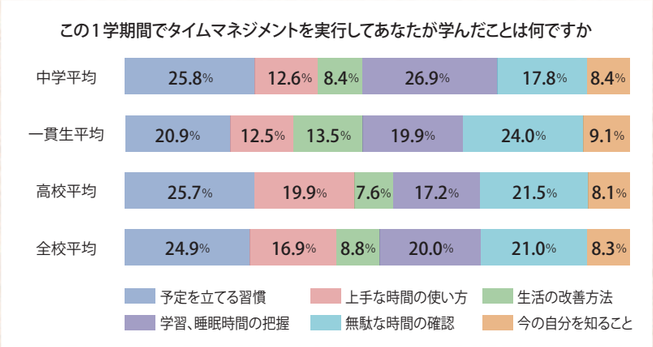
1年間の目標を記す「タイムマネジメント書き初め大会」

年の初めには、今年1年の目標として「なりたい自分になる」ための「タイムマネジメント書き初め大会」を実施している。字を上手に描くだけではなく、目標としての内容が最も大切だ。書き初めしたすべての作品は教室に掲示。また、優秀な作品は別途表彰して、一定期間展示している。生徒たちだけが書き初めを行うのではなく、同じ時間に教師たちもそれぞれの目標を書き、職員室には毎年力作が飾られている。

年初に行う「タイムマネジメント書き初め大会」

自己評価アンケートを行い、今後の指導に活用

「PM・TM教育」のシステムが生徒たちにどれだけ定着しているのかを確認するために、自己評価アンケート調査を実施。その結果から各学年の傾向やクラス間の差などの課題を見つけ出して、全体の指導に役立てている。マネジメント力が向上した生徒は、比例して学習成績も向上している。



生徒アンケートの結果より（2011年度1学期実施分）

MESSAGE

生徒たちから学び、
指導教員の情熱で
さらなる進化を目指す

タイムマネジメント教育部
米澤 昌記

PM・TM教育が導入されて8年目を迎えた。情報共有のための研修会実施や、生徒たちと教員の意見を取り入れながらの推進であった。導入当初と比べると、ノートの使い方や取り組み姿勢など全体がレベルアップし、活用すべきツールの存在が大きくなったと感じる。近年、特に生徒たちの理解は柔軟で、自分に合った計画やノートの活用方法をうまく発展させ、私たちが学ぶことも多い。また、それをサポートする指導教員の情熱と関わりが、PM・TM教育を支えていると実感する。今後も情報を共有し、生徒たちにとってさらに必要なツールとなるよう、より一層の進化を目指したい。

情報教育の推進

ICT教育・ノートパソコン・制携帯・グループウェア

近年、高度情報化社会を支えるテクノロジーの進化は著しい。本学園では、ICT(Information Communication Technology)と称される最新技術を、情報教育や環境整備に取り入れてきた。

2003(平成15)年、高等学校では教科情報で「情報A」「情報B」「情報C」より1科目の履修が必須となり、高校1年で「情報B」を履修している。2004年には中学校が開校され、一人1台のノートパソコンを使用した情報教育を開始。普通教室には充電可能な専用ロッカーと無線LANのアクセスポイントを設置し、インターネットにアクセスできる環境を整備している。また、教職員が活用していたグループウェア「First Class」を中高一貫生徒および保護者にも導入し、「ネット保護者会」の運用も開始した。

教育環境の整備面では、2007年には第1情報室にネットブート型シンクライアントシステム「Ardence」を、2010年にはマルチメディア室にパソコン運用支援パッケージ「瞬快」を採用するとともに、授業でも活用する「制携帯」を導入した。

一方、校外プロジェクトにも積極的に参加。2005年には「地上デジタルテレビ放送の教育活用促進事業」の研究実践協力校として、地デジ対応42型テレビ2台を導入した。2007年にはOpen School Platform(OSP)プロジェクトに参加し、「情報B」の授業でオープンソース・ソフトウェアを使用。2010年に設立された「デジタル教科書教材協議会」にも協力している。今後、ますます進化する情報技術に対応し、先端情報教育の実践により、未来のICTエンジニアを志すきっかけになればと期待している。

ハードウェア・ソフトウェアを「作る」知識を習得

中学1年では技術家庭科「情報とコンピュータ」の授業で、リテラシ教育とモラル教育を実施。高校1年の「情報B」では、情報科学を習得する授業を展開している。また、2010(平成22)年には中学1・2年で、情報科と他教科のコラボレーション学習「ICT」を開始した。現在、コンピュータとネットワークを使い、「作る」ことができる知識と技術の習得を目的とした、新しいICT教育のカリキュラムを検討している。

パソコンを組み立てながらパーツの役割を知る

キーボードに文字がない、本学園オリジナルのノートパソコン

中学校の新入生には、入学前にキーボードに文字が印字されていないオリジナルノートパソコンを配布。春休みに家庭で使うルールを決めることや、ノートパソコンになじむためタイピングの練習などを行っている。授業だけでなく、文化祭ではPower Pointを活用したプレゼンテーションを実施。学校行事の後にはレポートを作成するなど、さまざまな場面でノートパソコンを活用している。

英語のプレゼンテーションの準備

オリジナルのアジアのガイドブックを作成

新しいコミュニケーションツール「制携帯」

2008(平成20)年、生徒に安心して提供できる携帯メールの仕組みを発案。すべてのメールが、本学園の管理する「First Class」サーバを経由し保管される「制携帯」の開発に取り組んだ。2010年、中学校と高校の新入生に「制携帯」を導入。中学校では正しく使うことを、高校では使いこなすことを目的とする。情報科の授業では、これを活用して携帯電話の仕組みやモラルを学び、授業以外でもルールを守りながら活用している。

制携帯によって情報伝達がスムーズに

携帯電話の正しい使い方やモラルを学ぶ

MESSAGE

ICT教育の充実と制携帯導入の成果

情報科・マルチメディア部
小林 峰子

ICT教育では、中学1・2年の国語・数学・英語・社会の教師と情報科の教師が一体となり授業を実施している。今年度で3年目に入り、教育の内容も年々充実してきた。生徒たちはノートパソコンを使う授業が好きなので、これからも楽しく学習できるように工夫したい。また、制携帯は学園が主体となり、携帯電話のサービスを運用するという新しい試みだったため、想定していなかった問題が発生し、その度に改善を重ねてきた。携帯電話を通じて生徒たちの実態を把握できたり、日常会話を行う機会が増えたりしたことは、大きな成果であった。

社会で生きる力を育む

コミュニケーション能力を養う、LCT教育・リーダーシップ講座

本学園では、学習や進学指導だけでなく、社会の中で人と関わり、自己実現を達成するために必要な力の育成にも積極的に取り組んでいる。そのひとつがLCT教育（LCT＝Leadership and Collaborative Teamwork）である。これは、多くの学校行事や日々の生活の中で生徒自らがリーダーシップを発揮し、協力し合い、ひとつのものを創り上げていくことで、社会生活に欠かすことのできないコミュニケーション能力を育成することを目標としている。

2004（平成16）年に中高一貫コースが設置され、新たに中学生が入学することとなった。そこで、多感なこの時期に幅広い経験が得られるよう、数多くの行事や課外活動を設定した。研修旅行でのグループ行動や訪問地での交流会の運営には、生徒自身がリーダーシップやチームワークを発揮し、活き活きと活動する姿が見られた。また、毎年の文化祭では、中学生徒会がひとつのテーマに基づいた研究・発表を企画し、中学生が等身大の視点から社会とつながる貴重な場となっている。当初は、世界一周旅行に向けてアジアやヨーロッパをテーマに、神戸の留学生を交えたシンポジウムを開催し、国際交流を深めた。その後、裁判員制度や中学生のブログといった、時事的な事柄を取り上げた企画が実施された。特に、2010年に本学園が「制携帯」を導入した際には、生徒たちの意識調査を行いマスメディアからも注目された。

また、全校行事でも生徒たちの自主的な活躍ぶりがめざましく、よりエネルギッシュなものへと進化を遂げている。仲間と互いに協力して創造する力を養う活動は、校外でも展開され、さまざまな社会活動や環境活動が、生徒から自主的に提案される動きも目立ってきた。

自主性を尊重した生徒会活動

毎年４月と９月に実施される生徒会選挙は、選挙管理委員が運営し生徒が主体となって行われる。文化祭や体育祭、高校３年生を送るフェアウェルパーティや新入生を迎える対面式は、全体構成や進行をすべて生徒会が実施。近年では、社会活動に力を入れ、清掃活動などの地域交流、募金活動や環境活動への参加を呼びかけている。特に、毎年恒例のチャリティー・コンサートでは、ハンドベル部と協力して街頭で募金活動を行っている。

全校生徒の前で生徒会選挙のスピーチ（高校）

街頭でのチャリティー・コンサート

生徒全員で企画・運営する文化祭・体育祭

６月の文化祭と９月の体育祭は、全校を挙げての大がかりな行事で、年々パワフルな内容になっている。文化祭では、クラスごとに合唱コンクールや模擬店の運営を行い、ひとつのものをみんなで作り上げていく困難と達成感を体験する。体育祭では、クラスや学年を超えて有志の応援団を結成し、各クラスで応援パネルを作成するなど、準備期間から力を合わせることによって白熱した勝負が展開されている。

体育祭

文化祭

責任感や行動力を養う研修旅行・学年行事

中学１年の長崎平和学習、中学３年・高校１年の古都研修、高校２年の首都研修では、事前に数名のリーダー生徒と教員が下見を行う。そして、班別行動での計画を生徒たち自身で立案し実施。このような過程から責任感や行動力を養い、達成することの難しさと成功の喜びを学ぶ。海外研修では、現地での交流会を生徒たちが準備し練習を重ね、力を合わせてひとつの企画を結実させる経験を全員で共有している。

古都研修での班別行動

サマーキャンプのリーダー

MESSAGE

次代の社会を築く、リーダーシップ・チームワーク力

LCT教育部　岡田 大樹

現代の社会は、インターネットの普及により世界中のどこにでも簡単にアクセスし、色々な国の人々と交流ができる時代になってきた。これにより、自分自身の視野が大きく広がり、さまざまな価値観の違いを実感することができる。そのような時にこそ、本学園で学ぶリーダーシップとチームワークの力を発揮してもらいたい。リーダーシップの原点は、「自分が自分のリーダーである」と自覚することである。流動的な社会でつねに確固たる自己を持ち、そして、周りの人々と協力し合いながら、よりよい社会作りに貢献してほしいと願っている。

海外短期留学を通じて、身に付ける真の国際性

ニュージーランド、アメリカ・シアトル、イギリス・オックスフォードを訪問

本学園の夏の海外短期留学であるホームステイプログラムは、1990（平成2）年のアメリカに始まり、20年以上にわたり長期間実施されている。2002年度までは高校2年、それ以降は高校1年を対象としてきた。1997年から2008年までは、南半球ニュージーランドの冬を経験。このプログラムは、セカンドファミリーを得られるという点で毎年多くの生徒が参加した。

2009年には、ホームステイの目的地を北半球の夏休み期間に合わせて、アメリカのシアトルに変更。その翌年には、イギリスのオックスフォードでの新しい春プログラムを追加した。現在行われている夏のプログラムは、実際に現地の家族と一緒に生活するホームステイ形式であるが、オックスフォードでは大学の寮で生活する点が大きく異なっている。いずれも、研究と観光を兼ねた海外短期留学で、夏春両方のプログラムを「Overseas Experience（海外経験）」と呼んでいる。

参加したすべての生徒たちは、この海外短期留学プログラムで毎日英語を話す環境で生活をするという貴重な経験から、多くのものを得ることができた。さらに、自らの英語力でコミュニケーションに挑戦し、外国の友人を作ることができたことも重要な体験である。学問的にも、個人的にも、この経験は生徒たちの自信を高めることにつながり、今後もそうであると信じている。

ホストファミリーとの交流で得た貴重な体験

ニュージーランドは、北島と南島の2つの主要な島と多くの小さな島々で構成されている。冬の海外短期留学に参加した生徒は、北島（オークランド、ファンガレイ、パエロア、タラデール）と南島（クライストチャーチ、ティマル）を訪問した。このプログラムの参加者は、「ホストファミリーから国や文化についてだけでなく、かけがえのない夢を与えられた」と留学後に語っている。

現地の高校生と交流

午前中は英語の授業

第2の家族、ホストファミリーと

異文化を体感し、陸路での国境越えを経験

8月に実施するシアトルでのホームステイプログラムでは、各家庭で2週間にわたり生活することで、英語という言語だけでなく、異文化を肌で学ぶことができる。また、カナダへの1泊2日旅行では、島国日本に住む私たちにはなじみのない、陸路での国境越えを経験する。

カナダ・The Butchart Garden

カナダからフェリーでアメリカへ

ホームステイプログラムの修了書が授与される

ハリーポッターで有名なオックスフォード大学寮

オックスフォード大学の学生がグループリーダーとなり、午後の授業後にクリケットや演劇、ボート漕ぎなどさまざまな活動を行った。このプログラムは、生徒たちにとって非常に有意義なものであった。宿泊施設である寮は、ハリーポッターのいくつかのシーンが撮影されたオックスフォード大学の別館。その独特の雰囲気は、異次元の空間に迷い込んだようであった。また、ロンドンを回る観光ツアーも貴重な体験となっている。

オックスフォード・The Bridge of Sighs

ロンドンの街並み

オックスフォードの学生とアイスブレーキング

MESSAGE

海外短期留学で得られるもの

国際教育部長
カイ・シュエルマー

グローバル化が進む現代において、国際理解教育の重要性はますます高まっている。本学園では、国際社会で活躍できる真の国際人を育成するため、短期留学プログラムを実施している。参加者の中には、「最初は早く終わらないかなと感じていたが、最終日には涙が出るほど思い入れが深いものになっていた」という声もある。この短期留学プログラムが、日本では得られない英語環境で言語やその国の文化を直接体験するだけでなく、グローバルな規模での国際感覚を培うとともに、ネットワークや見識を広げるための第一歩となることを期待している。

［資料・年表］
1998–2012

2012年度 須磨学園高等学校・中学校行事計画

4月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
1							1
2	2 ▪辞令交付 ▪新任研修 ▪職員会議	3 ▪新任研修 ▪教科部会	4 ▪新任研修	5 ▪中学第2回 オリエンテーション ▪拡大部会	6 ▪着任式 ▪第1学期始業式	7 ▪高校入学式 10:00 ▪中学入学式 14:00	8
3	9 ▪対面式・課題考査 ▪月次報告会	10 ▪高２・高３ スタディーサポート(内)	11	12	13 ▪中１・高１ 内科検診	14 ▪高１ 海外短期留学説明会 ▪高２一斉保護者会 ▪中３一斉保護者会	15 中１オリエンテーション合宿
4	16 ▪校運 ▪職員会議 ▪高5教運 中１オリエンテーション合宿	17 ▪中３ 全国学力・学習状況調査	18 ▪中１代休	19	20 ▪高３ 広島平和学習 ▪中３春の校外学習 高１オリエンテーション合宿	21 ▪4／28分休業日 ▪中２一斉保護者会	22 ▪中学パンフレット 撮影日
5	23 ▪月次報告会 ▪ISO推進委員会 ▪教科部会 ▪中１身体計測・前期生徒会選挙	24 ▪中２・高２ 内科検診 ▪パンフレット撮影日	25 ▪中１心電図検査 ▪高１ レントゲン・心電図検査	26 ▪中２春の遠足	27 ▪中３・高３ 内科検診 ▪パンフレット撮影日	28 ▪高校育友会総会	29 昭和の日
6	30 振替休日						

5月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
6		1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 ▪高３ 駿台全国判定模試(外)
7	7 ▪避難訓練 ▪校運 ▪職員会議 ▪中5教運	8	9	10 ▪全校健康診断	11	12 ▪中１ 一斉保護者会 ▪中学授業参観 ▪中学育友会総会	13 ▪高３ 全統マーク模試(外)
8	14 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会	15 ▪第1回定期考査 ▪保護者対象 中学説明会(姫路)	16 ▪第1回定期考査	17 ▪5/12分休業日	18 ▪第1回定期考査 ▪保護者対象 中学説明会(西宮)	19 ▪法人理事会 ▪第1回定期考査 ▪高１海外短期留学説明会 ▪リーダーシップ講座	20
9	21 ▪校運 ▪職員会議 ▪教総教運	22	23 ▪保護者対象 中学説明会(元町)	24	25	26 ▪中１春の遠足	27 ▪高３ 全統記述模試(外) ▪高３駿台全国模試(外) ▪高１全統模試
10	28 ▪中２・中３ 身体計測 ▪月次報告会 ▪教科部会	29 ▪短冊提出	30 ▪一覧表提出 ▪眼科検診	31 ▪生徒二次検診 ▪教職員健康診断			

6月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
10	※心臓判定会 ※水泳前健康相談				1	2 ▪6/9分休業日	3 ▪高２駿台模試 ▪高１駿台模試
11	4 ▪校運 ▪職員会議・高5教運 ▪高３進研マーク模試(内) 教育実習開始	5 ▪高３ 進研マーク模試(内)	6 ▪尿検査	7 ▪尿検査(予備) 保護者会	8	9 ▪リーダーシップ 講座	10 ▪第一回 英検一次試験
12	11 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会	12	13	14 教育実習	15	16	17 ▪中学第1回 オープンスクール
13	18 ▪教科部会	19 ▪中高 合唱コンクール予選 (神戸文化ホール)	20	21	22	23 教育実習終了	24 ▪文化祭
14	25 ▪文化祭代休	26	27 ▪尿検査(二次)	28 ▪高３ 進研記述模試(内)	29 ▪高３ 進研記述模試(内) ▪高２進研模試 ▪中３・高１進研模試	30 ▪6/23分休業日 ▪中２一斉保護者会	

7月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
14							1
15	2 ▪校運 ▪職員会議 ▪中5教運	3	4	5	6 ▪第2回定期考査 ▪心肺蘇生法講習会	7 ▪第2回定期考査	8 ▪第一回 英検二次試験
16	9 ▪第2回定期考査 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会 ▪教科部会	10 ▪第2回定期考査	11	12 ▪尿検査(二次)	13	14 ▪中１・中３ 一斉保護者会	15 ▪中学第2回 オープンスクール
17	16 海の日	17 ▪高１(一部) PISA調査	18 中２保護者会	19	20	21 ▪高１ 海外短期留学説明会	22 中２サマーキャンプ
18	23 ▪校運 ▪職員会議 ▪教総教運	24 中２ サマーキャンプ	25 中１・中３保護者会	26	27 ▪中２代休	28 ▪第１学期終業式 ▪成績報告会 ▪教員研修会 ▪リーダーシップ講座	29 ▪高３ 駿台マーク模試(外)
19	30 ▪月次報告会	31					

8月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
19			1	2	3 高１シアトル短期留学	4 ▪7/28分休業日	5
20	6	7	8	9 高１シアトル短期留学	10	11	12 ▪高３ 全統マーク模試(外)
21	13 高１シアトル短期留学	14	15	16	17 ▪中３ サマーキャンプ 事前指導(登校日)	18 ▪特別授業開始 ▪リーダーシップ講座	19 中３サマーキャンプ
22	20 ▪月次報告会	21 中３サマーキャンプ	22 中１サマーキャンプ	23 ▪高２全統模試 ▪高１全統模試 ▪中３代休	24 ▪中３代休	25	26
23	27 ▪校運 ▪職員会議 ▪高5教運	28	29 私学展	30	31 ▪学年・機能部会 ▪拡大部会		

9月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
23	※旅行前健康相談					1 ▪2学期始業式	2
24	3 ▪第3回定期考査 ▪ISO推進委員会	4 ▪第3回定期考査	5	6	7	8 ▪中１・中３ 一斉保護者会	9 ▪高３ 駿台全国判定模試(外)
25	10 ▪月次報告会 ▪体育祭打ち合わせ ▪中１身体計測	11	12	13	14	15 ▪リーダーシップ 講座	16
26	17 敬老の日	18	19	20 ▪体育祭予行	21 ▪体育祭	22 秋分の日	23
27	24 ▪校運 ▪職員会議 ▪中5教運	25	26	27	28	29 ▪中学校 説明会・見学会 ▪中１・中３ 一斉保護者会	30

10月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
28	1 ▪中2・中3身体計測 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会 ▪教科部会	2	3	4	5	6 ▪中1平和講話 ▪高2一斉保護者会 進路説明会 ▪市民講座	7 ▪高3 駿台全国模試(外)
29	8 体育の日	9 ▪第4回定期考査	10 ▪第4回定期考査	11 ▪10/13分休業日	12 ▪第4回定期考査	13 ▪第4回定期考査 ▪高1一斉保護者会 ▪中2一斉保護者会 ▪市民講座 ▪リーダーシップ講座	14 ▪第二回 英検一次試験
30	15 ▪校運 ▪職員会議 ▪教総教運	16 ▪高3 ベネ駿記述模試(内)	17	18	19 ▪高2 プレステージ模試	20 ▪10/27分休業日 ▪高1 海外短期留学説明会 ▪高2プレステージ模試	21 ▪高3 全統マーク模試(外) 高1・中3古都研修旅行 中1長崎平和学習
31	22 ▪月次報告会 高1・中3古都研修旅行 中1長崎平和学習	23 高2東京修学旅行	24 ▪高1・中3・中1 代休 ▪高3全統記述模試(内)	25	26	27 ▪中学 校説明会・見学会	28
32	29 ▪校運 ▪職員会議 ▪高5教運	30	31 ▪高2進研模試				

11月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
32				1 ▪短冊提出 ▪高2進研模試 ▪中3・高1進研模試	2 ▪一覧表提出	3 文化の日 ▪外部模試(創造学園)	4 ▪外部模試(五ツ木書) ▪外部模試(創造学園)
33	5 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会 ▪教科部会	6	7 ▪創立90周年 記念式典・鑑賞会 (国際会館こくさいホール) ▪高3 ベネ駿マーク模試(内)	8 ▪高3 ベネ駿マーク模試(内)	9 創立記念日	10 ▪中1・中2Z会模試 ▪中3駿台模試 ▪高校入試説明会 ▪リーダーシップ講座	11 ▪高1全統模試 ▪第二回英検二次試験 ▪高校入試説明会
34	12 ▪校運 ▪職員会議 ▪中5教運	13	14	15	16 高1ヨーロッパ研修旅行	17 ▪11/10分休業日 ▪高校入試説明会	18 中2アジア研修旅行
35	19 ▪月次報告会 ▪教科部会	20	21 中2アジア研修旅行 高1ヨーロッパ研修旅行	22	23 勤労感謝の日	24 ▪高1代休 ▪中学入試説明会	25
36	26 ▪高1・中2代休 ▪校運 ▪職員会議 ▪教総教運	27 ▪中2代休	28	29	30		

12月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
36						1 ▪11/24分休業日 ▪中学入試説明会予備日 ▪高校入試説明会	2 ▪高校入試説明会
37	3 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会	4 ▪第5回定期考査	5 ▪第5回定期考査	6 ▪12/8分休業日	7 ▪第5回定期考査	8 ▪第5回定期考査	9 ▪外部模試 (ユーデック) ▪高校入試説明会
38	10 ▪校運 ▪職員会議 ▪高5教運	11	12	13 ▪高3 駿台センタープレ(内)	14 ▪高3 駿台センタープレ(内)	15 ▪保護者会 ▪リーダーシップ講座	16
39	17 ▪保護者会	18 ▪保護者会	19 ▪保護者会	20	21 ▪第2学期終業式 ▪成績報告会	22	23 天皇誕生日
40	24 振替休日	25	26	27	28 ▪4/7+6/23分 代休日	29	30
41	31						

1月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
41		1 元日	2	3	4	5 ▪TM・書き初め ▪第3学期始業式 ▪校運 ▪職員会議	6
42	7 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会 ▪教科部会	8 ▪高3 センタープレ(内) 教育相談	9 ▪高3 センタープレ(内)	10	11	12 ▪中1・中2 一斉保護者会	13
43	14 成人の日	15	16	17 高3スポ芸修学旅行	18	19 ▪中学入試 ▪センター試験	20 ▪中学入試 ▪センター試験
44	21 ▪月次報告会 ▪高2プロシード模試 ▪高2・高1進研模試	22 ▪校1プロシード模試 ▪高2・高1進研模試	23 ▪中学入試	24	25	26 ▪中3 一斉保護者会 高校願書受付 中1・中2ウインターキャンプ	27 ▪第三回 英検一次試験
45	28 ▪校運 ▪職員会議 ▪中5教運 高校願書受付 中1・中2ウインターキャンプ	29	30	31 ▪中1・中2代休			

2月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
45					1 ▪高校入試打合会	2 ▪1/20分休業日 ▪高3 一斉保護者会	3 ▪高2 全統マーク模試
46	4 ▪ISO推進委員会 ▪月次報告会	5	6	7 ▪中学全学年 Z会模試	8	9 ▪高校前期入試	10 ▪高2 全統記述模試
47	11 建国記念の日	12 ▪2/9分休業日	13 ▪高校前期入試 合格発表	14	15	16 ▪リーダーシップ 講座	17
48	18 ▪月次報告会 ▪教科部会	19	20	21 中3アメリカ研修旅行	22	23 ▪高1 海外短期留学説明会	24 ▪第三回 英検二次試験
49	25 ▪校運 ▪職員会議 ▪教総教運 中3アメリカ研修旅行	26	27 ▪中3代休	28 ▪中3代休			

3月

	月 MONDAY	火 TUESDAY	水 WEDNESDAY	木 THURSDAY	金 FRIDAY	土 SATURDAY	日 SUNDAY
49					1	2 ▪高校卒業式 10:00 開式	3
50	4 ▪第6回定期考査	5 ▪第6回定期考査	6 ▪3/9分休業日	7 ▪第6回定期考査	8 ▪第6回定期考査	9 ▪高2一斉保護者会 ▪中学(新入生) オリエンテーション ▪リーダーシップ講座	10 ▪高2 駿台マーク模試 ▪高1駿台マーク模試
51	11 ▪校運 ▪ISO推進委員会 ▪職員会議 ▪高5教運	12	13	14	15 ▪進級判定会	16 ▪第3学期終業式 ▪中学卒業式(午後)	17
52	18	19	20 春分の日	21 ▪吹奏楽部 定期演奏会 (神戸文化中ホール) 高1イギリス短期留学	22	23	24
53	25	26 ▪高校後期入試	27 ▪高校(新入生) オリエンテーション	28 高1イギリス短期留学	29	30 ▪3/23分代休日	31

大学合格者実績

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
卒業生数	425	438	443	413	454	376	385	440	445	443	409
帯広畜産大学							1				1
北見工業大学		1		2	2	4				1	
北海道大学					2	3	2	1	5	7	9
北海道教育大学						1					
室蘭工業大学			1								
東北大学								1	5		1
秋田大学						1			1		1
山形大学		1	2	2	3	2	1	1			
福島大学			1								
茨城大学				1							
筑波大学	1	1		1			2	1	2	1	1
宇都宮大学			1								
群馬大学				1							
千葉大学				1			2	1		1	
お茶の水女子大学						1		1			
電気通信大学						1	1				
東京大学				1					1	1	
東京医科歯科大学										1	
東京外国語大学						1					
東京学芸大学					1						
一橋大学						1				1	
横浜国立大学	1	1		1			1	1	2	2	
新潟大学											1
富山大学		1	1	2	3	2		1	1		2
金沢大学											1
福井大学						1					2
山梨大学								2			1
信州大学			1		1	4	2		2	3	1
岐阜大学										1	
静岡大学	1		1	3	3	2	2			1	1
浜松医科大学									1		
愛知教育大学						1					
豊橋技術科学大学					1						
名古屋大学									1		3
三重大学						1				2	
滋賀大学						1	1	2	1		1
滋賀医科大学										1	
京都大学					2	2	4	3	8	4	10
京都教育大学				1							
京都工芸繊維大学		1			4	3	1	3	2	1	2
大阪大学	1		1		2	4	10	8	13	17	10
大阪外国語大学（現・大阪大学外国語学部）				1	2	2					
大阪教育大学				1	2	1	3	1	3	3	2
神戸大学				6	7	7	14	15	7	25	23
兵庫教育大学					1	1	2	1		1	
奈良教育大学					1	1					
奈良女子大学					3			2		1	2
和歌山大学		1		2			1		3	2	
鳥取大学	1			1	1	3		6	3	9	7
島根大学			2	1		1	3	1	2	3	2
岡山大学	1	1	1	3	4	5	5	5	9	10	5
広島大学		1			1	2		1	4	7	5
山口大学	1	1		3	3	2	3		3	5	2
徳島大学			1	2	1	3	6	4	8	3	8
鳴門教育大学									1		1
香川大学			1	1		1		2	1	3	

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
愛媛大学		2		1				3	3	2	2
高知大学				1	2	2	1	1	1	2	1
九州大学					1		1		3	1	2
九州工業大学						2	1			1	
佐賀大学				1							
長崎大学					1					1	
熊本大学				1							
大分大学										1	
宮崎大学							1		1	1	2
鹿児島大学				1					1		1
鹿屋体育大学											1
琉球大学		1						1		4	1
公立はこだて未来大学											1
札幌市立大学					1						
釧路公立大学	3	4	2	3	10	7					1
青森公立大学				1	1						
秋田県立大学								1			
国際教養大学									1		
前橋工科大学						1					
高崎経済大学							1				
首都大学東京					2						
横浜市立大学					1			1			
富山県立大学					1						
金沢美術工芸大学											1
山梨県立大学				1							
都留文科大学				1	2	1		1			
岐阜薬科大学						1					
静岡県立大学											1
愛知県立大学											1
名古屋市立大学					1		2		1		
滋賀県立大学											2
京都市立芸術大学											1
京都府立大学				1	1			1	2		1
京都府立医科大学		1		1							
大阪女子大学（現・大阪府立大学）		1	1								
大阪市立大学			2	1	6	5	6	2	3	6	10
大阪府立大学				1	3	4	5	2	5	6	2
神戸商科大学（現・兵庫県立大学）	1	2									
姫路工業大学（現・兵庫県立大学）	1	2									
神戸市看護大学				1			1	2	1	1	1
兵庫県立大学			8	4	12	17	17	14	18	23	20
神戸市外国語大学	1			5	1	2	4	1	3	2	
奈良県立医科大学									1		
奈良県立大学			1	1				2			
島根県立大学	1	1		2		1		1			
新見公立大学											1
岡山県立大学				1	2	2	2				1
県立広島大学						1	1			1	1
福山市立大学										1	
広島市立大学					1						
高知工科大学									1		
高知県立大学											1
高知女子大学（現・高知県立大学）		1		1	2				1		
北九州市立大学				1							1
長崎県立大学									1		
熊本県立大学					2	5					
名桜大学										1	

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
北海道医療大学			2	3							
北海道薬科大学				3							
酪農学園大学				1	1		2	2		1	1
青森大学				1							
岩手医科大学				1							
東北薬科大学				3							
奥羽大学					2						
国際医療福祉大学					1						
東京福祉大学											2
城西大学											1
獨協大学									1		
目白大学						1					
尚美学園大学				1							
武蔵野学院大学											1
神田外語大学										1	
国際武道大学					1	1					
中央学院大学										1	
東京歯科大学											1
青山学院大学		1		3	2	3	9	1	5	6	1
亜細亜大学				2					1		
桜美林大学					1	3					
学習院大学							2	2			1
北里大学					3		2	2	3	2	4
共立女子大学				1							
共立薬科大学（現・慶應義塾大学薬学部）					1						
慶應義塾大学			1	1	2	8	10	4	3	12	6
工学院大学										1	
国際基督教大学					1	1	2		2		1
国士舘大学	1		1			2					1
駒澤大学					2	1	2	1	1	1	
芝浦工業大学									1	1	1
順天堂大学	1						1				
上智大学		1				1	3	2	2	4	2
昭和大学								1	1		1
成蹊大学					1						
成城大学							1		2		
専修大学					2			8	1	3	
創価大学				1		2	3				1
拓殖大学									1	1	
玉川大学				3	2						
多摩美術大学										1	
中央大学		1		3	3	2	4	4	7	7	2
津田塾大学			1		1	3			1		1
帝京大学		2		1	1	1	3	1			1
東海大学		1	1		1	4	2		1	3	
東京音楽大学									1		
東京工科大学		1									
東京慈恵会医科大学									1		
東京女子大学									1		
東京女子体育大学			1				1				
東京電機大学							1			1	
東京農業大学			1				4		1	1	3
東京薬科大学								1	2	1	
東京理科大学			3	3	10	6	16	4	13	19	4
東邦大学							2				
東洋大学								1	2		3
二松學舎大学										1	

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
日本大学				4	2	1	8	9	3	5	7
日本歯科大学							1				
日本獣医生命科学大学									1		1
日本体育大学			1	2	1						
法政大学		3	2	1	2	5	4	5	4	11	6
東京都市大学											1
武蔵野美術大学									1		
文教大学		1									
明治大学	10	13	2	7	3	9	8	7	8	15	7
明治学院大学						1		1		2	
明星大学						1					
立教大学		1	2	2	1	2	2	1	1		4
立正大学					1	3	1				
早稲田大学	1	1	1	2	1	11	15	11	11	17	21
麻布大学						1					2
神奈川大学					1				1		
相模女子大学										1	
横浜薬科大学											1
金沢医科大学								1			
金沢学院大学	1										
金沢工業大学			1	6	3	4	3	2	3	1	1
北陸大学			1							1	
金城大学									1		
福井工業大学		1		1							
帝京科学大学						1		1	1		
松本歯科大学											1
朝日大学							2			1	1
東海学院大学							1				
聖隷クリストファー大学				1							
愛知医科大学										1	
愛知学院大学		1	1				2		1		
愛知学泉大学						1					
中京大学						2	3	1		1	3
中部大学						1					
同朋大学		1									
南山大学				1						2	
日本福祉大学			1	1	1		1	1			
藤田保健衛生大学										2	
名城大学					1			1			
名古屋学芸大学							3				
名古屋経済大学	1										
日本赤十字豊田看護大学				1							
皇學館大学		1	3								
鈴鹿医療科学大学										1	
鈴鹿国際大学					1						
成安造形大学				1							
長浜バイオ大学				1	1					3	1
びわこ成蹊スポーツ大学			1			1					
大谷大学	1	1	2	2	1			1			
京都外国語大学	1	1	3	2	3	2	2	4	6	1	
京都学園大学		1		1	2						
京都産業大学	10	13	16	19	18	6	12	23	11	13	15
京都女子大学			1			3	3	4	11	20	16
京都精華大学				1		2		1	1		1
京都造形芸術大学			2		1	1					
京都橘大学			1	1	3			2			1
京都ノートルダム女子大学	1										

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
卒業生数	425	438	443	413	454	376	385	440	445	443	409
京都文教大学		1									
京都薬科大学			1		3	8	1	2	2	1	1
京都光華女子大学	1			1							
同志社大学	3	4	8	18	25	30	45	52	48	87	68
同志社女子大学			3	1	9	13	5	7	13	8	6
花園大学			1	1	1	2					
佛教大学	3			1	4	5	1	4	7	1	1
立命館大学	33	18	34	52	65	73	67	63	88	100	87
龍谷大学	16	13	23	23	14	13	21	32	31	14	7
追手門学院大学		1		2	5	4	2	1	1		
大阪医科大学							1	1	1	1	3
大阪音楽大学						2		1	2	1	
大阪学院大学	8	2	2	1	2	1		2	3	2	
大阪経済大学		2	7	14	12	9	11	15	6	2	7
大阪芸術大学		1		4	2	4		5	1	1	2
大阪経済法科大学			1	3	1			1			
大阪工業大学		10	14	16	7	11	4	5	3	9	11
大阪国際大学	1		3	2				1	2		
大阪産業大学	2	12	8	14	7	2	2			1	2
大阪歯科大学					1	1	2	1			
大阪商業大学	1				3	2	1		1		
大阪樟蔭女子大学	3			4		2			1	1	
大阪体育大学	1		3	1	5	2	4	5	2	3	
大阪電気通信大学		4	3	6	6	2	1	2	7	3	1
大阪薬科大学					2	11	4	7	8	9	11
大阪大谷大学						1		1	1		
関西大学	3	9	32	69	76	77	63	64	71	97	90
関西医科大学										1	
関西外国語大学		1		15	19	9	5	13	15	10	10
近畿大学	96	130	55	49	51	57	44	77	96	104	73
四天王寺大学								1			
国際仏教大学	1		1	2	2						
摂南大学	2	1	3	1	12	9	3	6	5	2	4
相愛大学	1	2	1				1		1		
梅花女子大学		1									1
桃山学院大学	5		1	7	1		1			2	
関西福祉科学大学	1			6	1	1		1			1
大阪明浄大学（現・大阪観光大学）	1		2								
大阪成蹊大学							1				
千里金蘭大学										1	
大阪女学院大学					3						
藍野大学			1	2	1				1		1
四條畷学園大学											1
大阪河﨑リハリビテーション大学						1					
阪南大学	2	1									
森ノ宮医療大学							1				1
芦屋大学		1	1						1		
英知大学（現・聖トマス大学）	2										
大手前大学	6	2	9	14	9	2	1	1		1	
関西学院大学	16	6	16	53	81	107	73	87	63	127	102
甲子園大学	2							2			
甲南大学	55	59	58	107	96	105	52	76	59	65	67
甲南女子大学	7	13	10	4	5	7	4	15	20	18	8
神戸海星女子学院大学		1	2	2			2	1	1		
神戸学院大学	13	13	14	29	63	41	45	55	35	33	29
神戸芸術工科大学	3			4	6	4	9	1	1	1	1

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
神戸国際大学	5	1		2							1
神戸女学院大学	1	2	2	7	8	8		14	6	8	6
神戸女子大学	5	8	14	5	8	9	5	5	5	8	3
神戸薬科大学			2		8	6	2	13	12	17	12
松蔭女子学院大学（現・神戸松蔭女子学院大学）	1	4	9	6	6	1	2	3	3		2
神戸親和女子大学	9	11	17	5	7	4	8	5	5	9	7
聖和大学（現・関西学院大学）	3	3	1	1		1	1				
園田学園女子大学	3	3	4		1	3	5	2	1	2	1
宝塚造形芸術大学（現・宝塚大学）				5	2	1					
姫路獨協大学	5	4	4	6	4	3	3	7	1	1	1
兵庫医科大学					1		2		2	2	1
兵庫大学	6	1	8	4	3	2	2	2	1	1	
武庫川女子大学	1	9	4	3	25	16	23	41	28	27	17
流通科学大学	9	10	10	17	27	8	5	1			1
関西福祉大学	2		5	2	2	4	2	4		2	
関西国際大学	2	1		3	1		1		1		
神戸山手大学	8	5	1	2							
近畿福祉大学（現・近畿医療福祉大学）		2	4	2	2	1					
関西看護医療大学								2		2	
順心会看護医療大学（現・関西看護医療大学）							2				
兵庫医療大学						3	7	10	2	5	9
近大姫路大学							3	2	3	2	2
神戸常盤大学							2	1	1		1
宝塚医療大学											1
帝塚山大学								2			
天理大学		1							1		1
奈良大学				1		1					1
奈良産業大学	1										
畿央大学								1	2	1	
鳥取環境大学				1							1
岡山理科大学	3	3	5	8	5	1	2	7	1	3	4
川崎医科大学						1	2			1	1
川崎医療福祉大学					1		1			1	
吉備国際大学			1	1			1				
倉敷芸術科学大学				2		3			1	1	
就実大学							1				
環太平洋大学						1	1		1		
福山大学	2		2	2			1				
広島国際大学	1			3	1	2	1			1	
四国大学					1						
徳島文理大学	1		1	6	4		1				
松山大学			1	3							
高知工科大学				3	1			1			
九州産業大学						1					
ネバダカリフォルニア大学校	1										
産業医科大学									1		1
西南学院大学								1			
福岡大学								1	1		
第一薬科大学						1					
九州東海大学		1				1					
立命館アジア太平洋大学		1	1	1	3		6	3	3		
南九州大学				1							
九州保健福祉大学				3							
防衛医科大学校								2	1	2	3
気象大学校						1					
航空保安大学校								1		1	
防衛大学校			1			10	28	15	30	49	14

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
水産大学校									2	1	
静岡県立大学短期大学部										4	
京都市立看護短期大学						2	2	2			
神戸市看護大学短期大学部（現・神戸市看護大学）	2										
新見公立短期大学		1		1	1	1				1	
大分県立芸術文化短期大学										4	
青山学院女子短期大学				2							
共立女子短期大学								1			
日本大学短期大学部			2	1		1	1				
昭和音楽大学短期大学部							1				
高山短期大学（現・高山自動車短期大学）				1							
中京女子大学短期大学部（現・至学館大学短期大学部）						1					
滋賀女子短期大学（現・滋賀短期大学）			2	1							
池坊短期大学								1			
大谷大学短期大学部					1						
華頂短期大学					1						
京都外国語短期大学				3							
京都女子大学短期大学部								1			
龍谷大学短期大学部				1							
藍野学院短期大学	1										
大阪青山短期大学	1	1	3			1					
大阪音楽大学短期大学部	1		1			3					
大阪学院短期大学			1			1					
大阪薫英女子短期大学	1	1	1		1						
大阪工業大学短期大学部（現・大阪工業大学）	2	5									
大阪国際大学短期大学部			1			1	1			1	
大阪産業大学短期大学部	1									1	
大阪女学院短期大学			1								
大阪成蹊女子短期大学（現・大阪成蹊短期大学）	2										
大阪千代田短期大学		1									
関西外国語大学短期大学部	4	3	5	7	7	1	2	2	2		1
千里金蘭大学短期大学部		1	2		1	1					
堺女子短期大学		1	1	1							
四天王寺大学短期大学部			1					1			
大阪芸術大学短期大学部				2	1						1
賢明女子学院短期大学	1	1	2								
芦屋女子短期大学（現・芦屋学園短期大学）		1									
甲子園短期大学	7	3	4		1						
神戸学院女子短期大学（現・神戸学院大学）	13	4									
神戸女子短期大学	10	11	7	8	4	2			1		
神戸常盤短期大学（現・神戸常盤大学短期大学部）	3		5	6	2	2					
神戸文化短期大学		1									
神戸山手短期大学	5	14	4	4	1						
産業技術短期大学		3		1							
夙川学院短期大学	6	16	3	10	2	1		1			
神戸松蔭女子学院大学短期大学部	3	1	9		5						
頌栄短期大学				1	1	2					
聖和短期大学		1	1	2		1				1	
園田学園女子大学短期大学部	3	5			1	1	1		1		
姫路日ノ本短期大学	1	4									
兵庫大学短期大学部	6	2	2	1	1						
湊川短期大学			1		1						
武庫川女子大学短期大学部	2	6	10	4	11	11	5	18	2	5	
大手前女子短期大学（現・大手前短期大学）	1	7	1	2							
奈良文化女子短期大学			1								
徳島文理大学短期大学部			1								
愛媛女子短期大学（現・IPU・環太平洋大学短期大学部）		1									

入試年度	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
神戸総合医療専門学校					2	1					1
兵庫県立総合衛生学院		1						1			
兵庫県立厚生専門学院	1		2								
大阪航空技術専門学校				1							
神戸医療福祉専門学校	3	1					1				
大手前栄養学院専門学校										1	
大阪府医師会看護専門学校	1		2					1			
高知病院附属看護学校			1								
社会保険神戸看護専門学校								2		1	
関西医科大学附属看護専門学校						1					
社会保険神戸看護専門学校						1					
大阪医療センター附属看護学校	1					1		2			
慈恵看護専門学校								1			
順正高等看護専門学校（現・順正高等看護福祉専門学校）				1							
天理看護学院								1			
姫路赤十字看護専門学校									1	1	1
関西看護専門学校	1		1								
神戸市医師会看護専門学校					1	1		2			
西神看護専門学校									2		
大阪済生会中津看護専門学校				1				2			
西宮市医師会看護専門学校						1	1	1			1
宝塚市立看護専門学校						1					
関西労災看護専門学校					2	1	1			2	
京都府立看護学校			1								
尼崎健康・医療事業財団看護専門学校	2	2				1		1			
明石市医師会准看護高等専修学校	1	1							1		
兵庫県民間病院協会神戸看護専門学校						1					
海上保安学校					1	1					
近畿職業能力開発大学校					1						
関西保育福祉専門学校		1									1
高津理容美容専門学校											1
神戸ベルェベル美容専門学校	2										1
大原簿記専門学校	1										1
大阪社会体育専門学校											1
東京コミュニケーションアート専門学校										1	
専門（看護）	3	2	23	12	8	1					
専門（準看）	2	2	8								
専門（歯科）	4	5	3			1		1			
専門（理作療法）	1			5	2						
専門（他療法）		3			1	2	3				
専門（保育介護）	5	8	5	1	1						
専門（栄養調理）	5	5	6	1	2	1		1			
専門（理容美容）	1	13	12	3	5	1			1		
専門（服飾）	4	2	2	1	1				1		
専門（動物）		1	6	2	5			1			
専門（芸術）	3	6	5	4	6	2					
専門（資格情報）	7	9	1	9	6	1	1	1	1		
専門（医療ビジ）	2	4	1	1	1				2	1	
専門（国際）	3	7			1						
専門（旅行ホテル）	1			2							
専門（スポーツ）		1	1	3	3		1	2			
専門（工業）	4	6	1	5	7			1			
専門（その他）	6	7	1	2			1	1			

卒業生数の推移

卒業年度		校名	卒業生	卒業回	卒業年	校名	卒業生	卒業回	卒業年
1922	大11	須磨裁縫女学校	―	―	―				
1923	12		―	―	―				
1924	13		3	1回生	大14				
1925	14		6	2回生	昭元				
1926	昭元		18	3回生	2				
1927	2		15	4回生	3				
1928	3		23	5回生	4				
1929	4		22	6回生	5				
1930	5		22	7回生	6				
1931	6		36	8回生	7				
1932	7		44	9回生	8				
1933	8		57	10回生	9				
1934	9		65	11回生	10				
1935	10		67	12回生	11				
1936	11		50	13回生	12				
1937	12		67	14回生	13				
1938	13		66	15回生	14				
1939	14	須磨女学校	69	16回生	15				
1940	15		149	17回生	16				
1941	16		209	18回生	17				
1942	17		253	19回生	18				
1943	18		290	20回生	19				
1944	19	須磨女子商業学校	74	21回生	20				
1945	20		198	22回生	21				
1946	21	須磨高等女学校	55	23回生	22				
1947	22		114	24回生	23	須磨中学校	170	1回	昭23
1948	23		140	25回生	24		144	2回	24
1949	24	須磨女子高等学校	35	26回生	25		26	3回	25
1950	25		44	27回生	26		63	4回	26
1951	26		42	28回生	27		47	5回	27
1952	27		18	29回生	28		42	6回	28
1953	28		86	30回生	29		41	7回	29
1954	29		120	31回生	30		40	8回	30
1955	30		138	32回生	31		37	9回	31
1956	31		101	33回生	32		44	10回	32
1957	32		118	34回生	33		33	11回	33
1958	33		228	35回生	34				
1959	34		298	36回生	35				
1960	35		245	37回生	36				
1961	36		252	38回生	37				
1962	37		332	39回生	38				
1963	38		290	40回生	39				
1964	39		448	41回生	40				
1965	40		515	42回生	41				
1966	41		624	43回生	42				
1967	42		704	44回生	43				

卒業年度		校名	卒業生	卒業回	卒業年	校名	卒業生	卒業回	卒業年
1968	昭43	須磨女子高等学校	595	45回生	昭44				
1969	44		527	46回生	45				
1970	45		434	47回生	46				
1971	46		468	48回生	47				
1972	47		369	49回生	48				
1973	48		358	50回生	49				
1974	49		328	51回生	50				
1975	50		307	52回生	51				
1976	51		389	53回生	52				
1977	52		410	54回生	53				
1978	53		410	55回生	54				
1979	54		436	56回生	55				
1980	55		438	57回生	56				
1981	56		415	58回生	57				
1982	57		530	59回生	58				
1983	58		456	60回生	59				
1984	59		296	61回生	60				
1985	60		382	62回生	61				
1986	61		465	63回生	62				
1987	62		459	64回生	63				
1988	63		555	65回生	平元				
1989	平元		590	66回生	2				
1990	2		627	67回生	3				
1991	3		622	68回生	4				
1992	4		655	69回生	5				
1993	5		662	70回生	6				
1994	6		575	71回生	7				
1995	7		556	72回生	8				
1996	8		439	73回生	9				
1997	9		425	74回生	10				
1998	10		328	75回生	11				
1999	11	須磨学園高等学校	256	76回生	12				
2000	12		276	77回 共学	― 13				
2001	13		425	78回 1期	― 14				
2002	14		438	79回 2期	― 15				
2003	15		443	80回 3期	― 16				
2004	16		413	81回 4期	― 17	須磨学園中学校	―	―	―
2005	17		454	82回 5期	― 18		―	―	―
2006	18		376	83回 6期	― 19		134	1期	平19
2007	19		385	84回 7期	― 20		76	2期	20
2008	20		440	一貫 85回 8期	一貫 21		82	3期	21
2009	21		445	116 86回 9期	1期 22		81	4期	22
2010	22		443	74 87回 10期	2期 23		82	5期	23
2011	23		409	75 88回 11期	3期 24		86	6期	24
2012	24								

最近15年のあゆみ

	須磨学園		教育・社会一般	
1997年度（平成9年度）				
1997（平成9）～1998（平成10）	11月8日	学園創立75周年記念式典（本校体育館）	12月1日	地球温暖化防止京都会議（COP3）開催、CO_2削減決議
	2月5日	前期入学試験（志願者数：934名）	2月7日	第18回オリンピック冬季大会、長野市で開催（～2月22日）
	3月31日	本館塗装工事実施	3月31日	山一証券が自主廃業、戦後最大の倒産（負債総額約3兆5,000億円）
1998年度（平成10年度）				
1998（平成10）～1999（平成11）	4月25日	総合グラウンド竣工式	4月5日	本州四国連絡橋の明石海峡大橋（明石ー鳴門ルート）全線開通、世界最長のつり橋
	5月26日	西泰子、須磨学園理事長に就任	7月4日	日本初の火星探査機「のぞみ」打ち上げ成功
	6月13日	校名変更記念講演会（全5回実施）	23日	理科教育及び産業教育審議会、今後の専門高校の在り方等について答申
	7月24日	本・新館校内改修工事着手	1月1日	EU通貨統合、単一通貨「ユーロ」発行、11カ国で開始
	2月5日	前期入学試験（志願者数：2,109名）	2月1日	千葉大学の飛び入学試験で3名が合格
	7日	西邦大前理事長逝去	28日	臓器移植法施行後初の脳死判定による心臓・肝臓の移植実施
	17日	第75回卒業証書授与式（須磨女子高校最終）	3月29日	高等学校新指導要領公示（平成15年度から学年進行で実施）
	3月9日	故西邦大前理事長学園葬		
	28日	校門工事着手		
1999年度（平成11年度）				
1999（平成11）～2000（平成12）	4月1日	校名を須磨学園高等学校に改称し男女共学に移行	5月1日	本州四国連絡自動車道尾道ー今治ルート「しまなみ海道」開通
	1日	渡邉邦男、第9代校長に就任	6月ー日	文部省、「中高一貫教育推進会議」を設置
	2日	コンピュータ室配線工事実施	7月1日	新生NTT、持株会社と事業３社に分割・再編して発足
	8日	共学一期生入学式(入学者数：男子99名、女子409名)	8月9日	国旗国歌法成立
	13日	1年生オリエンテーション合宿（淡路国立青年の家、～15日）	12月ー日	コンピュータ2000年問題クローズアップ
	17日	マルチメディア室配線工事実施	3月15日	教育改革国民会議設置
	5月19日	第1回須磨学園文化講演会（7月3日、第2回実施）		
	8月1日	1年生特進コース進学合宿（関西地区大学セミナーハウス、～4日）		
	10月21日	球技グラウンド竣工式		
	11月14日	中学校教員対象コンピュータ組み立て講座		
	2月4・5日	前期入学試験（志願者数：2,638名）		
2000年度（平成12年度）				
2000（平成12）～2001（平成13）	4月1日	新任研修（～4日）	4月1日	民事再生法施行
	10日	シンボルマーク除幕式	1日	介護保険制度施行
	19日	1年生オリエンテーション合宿（讃岐五色台、～21日）	7月19日	2000円札発行
	6月17日	パソコンによる音楽教育講座	21日	第26回主要国首脳会議（沖縄サミット）、九州・沖縄で開催（～7月23日）
	7月22日	市民公開講座（コミュニティカレッジ）開講（以降23・29・30日、全4回実施）	9月15日	シドニーオリンピック開幕（～10月１日）
	24日	1年生特進コース進学合宿（マイカルボーレ三田、～27日）	10月10日	筑波大学名誉教授白川英樹氏、ノーベル化学賞受賞
	8月26日	2年生特進コース進学合宿（マイカルボーレ三田、～29日）	11月28日	改正少年法成立（刑事罰対象年齢16歳から14歳に）
	9月11日	ニュージーランド・タラデール中学よりホームステイ受入れ（中学生18名、教師2名、保護者4名）	1月6日	中央省庁再編、1府12省庁始動、文部科学省設置
	20日	シドニーオリンピックの水泳に山田沙知子が出場、22日には三田真希が出場	2月9日	愛媛県宇和島水産高校の実習船「えひめ丸」と米原子力潜水艦の衝突事故発生
	10月10日	オリンピック出場記念 感謝の集い	3月31日	大阪市で「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」（USJ）開業
	1月24日	オリンピック出場記念モニュメント除幕式		
	2月9・10日	前期入学試験（志願者数：3,333名）		
	3月21日	西和彦、第10代校長に就任		
2001年度（平成13年度）				
2001（平成13）～2002（平成14）	4月2日	新任研修（～4日）	9月10日	農林水産省、国内初の狂牛病（BSE）を確認
	8日	武道館竣工式	11日	ニューヨーク、ワシントンなどで同時多発テロ発生
	29日	3年生特進コース進学合宿（校内）	10月10日	名古屋大学教授野依良治氏、ノーベル化学賞受賞
	8月4日	1年生特進コース進学合宿（マイカルボーレ三田、～7日）		
	8月26日	2年生特進コース進学合宿（グリーンピア三木、～29日）		
	10月20日	2年生修学旅行（～24日。この年より東京方面に変更）		

	須磨学園		教育・社会一般	
2001（平成13）～2002（平成14）	10月26日	環境マネジメントシステムISO14001認証取得		
	2月9・10日	前期入学試験（志願者数：3,429名）		
	19日	第78回卒業証書授与式（共学1期生卒業）		

2002年度（平成14年度）

2002（平成14）～2003（平成15）	4月1日	西和彦、学園長に就任	4月1日	学校完全週５日制実施
	5月24日	避難訓練	5月31日	日韓共催のサッカーワールドカップ開幕（～6月30日）
	6月28日	アメリカ・シアトルから教員団（17名）来校	10月8日	東京大学名誉教授小柴昌俊氏、ノーベル物理学賞受賞
	7月13日	市民公開講座（コミュニティカレッジ）開講（以降14・27・28日、全4回実施）	10月9日	島津製作所主任田中耕一氏、ノーベル化学賞受賞
			15日	北朝鮮拉致被害者5名、24年ぶりに帰国
	17日	外壁塗装工事着手	12月1日	東北新幹線（盛岡－八戸間）延長開業
	26日	1・2年生海外短期留学（ニュージーランド）。この年から1年生に移行したため2学年で実施	2月3日	初の個人向け国債受付開始、3月発行
			3月-日	新型肺炎SARS、アジア地域を中心に蔓延
	8月3日	校舎内外改修工事着手		
	9月28日	学園創立80周年記念式典（神戸文化ホール）		
	11月21日	NASA元宇宙飛行士Bob Stewart氏（アメリカ）来校		
	2月10日	前期入学試験（志願者数：3,450名）		
	3月13日	ヨルダン教育省より情報教育視察のため来校		
	18日	須磨総合グラウンド（白川台）竣工式		

2003年度（平成15年度）

2003（平成15）～2004（平成16）	4月28日	「９時まで自学」開始	4月1日	日本郵政公社発足
	7月5日	PC講習会	1日	高等学校新学習指導要領実施
	7日	教職員研修「中高一貫校における理科教育」	5月23日	個人情報保護法成立
	12日	市民公開講座（コミュニティカレッジ）開講	12月1日	東京・大阪・名古屋の3大都市圏で地上デジタル放送開始
	23日	教職員研修「中学受験の基礎知識」	12月24日	アメリカでの狂牛病発生に伴い、同国産牛肉の輸入停止
	24日	教職員研修「効果的な学習指導法」	1月12日	国内で79年ぶりに鳥インフルエンザ発生
	8月4日	夏期教育用IT活用能力研修（～6日）		
	12月21日	女子陸上競技部、全国高校駅伝競走大会で初優勝		
	1月25日	帰国子女入試（志願者数：11名）		
	31日	第1回中学校入学試験（以降2月1・2・4日、全4回実施。志願者数：990名）		
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,728名）		

2004年度（平成16年度）

2004（平成16）～2005（平成17）	4月1日	須磨学園中学校開校、中高一貫教育開始	4月1日	国公立大学の法人化開始
	1日	新校名・校歌・シンボルマーク制定	10月23日	新潟県中越地震発生（M6.8）
	1日	PM・TM教育導入、一人1台のパソコンによる情報教育開始	2月16日	京都議定書発効
	1日	グループウェア「First Class」導入、「ネット保護者会」運用開始	2月17日	中部国際空港（セントレア）開港
	3日	中学校第１回入学式（入学者数：148名）	3月25日	愛知県で2005年日本国際博覧会（愛・地球博）開幕
	3日	教員研修「タイムマネジメント」		
	5月11日	中学校記念植樹（～12日）		
	26日	Pマーク（プライバシーマーク）に関する研修会		
	7月10日	中学校オープンスクール		
	9月1日	個人情報保護方針制定		
	10月19日	高校2年生スポーツコース校外研修		
	12月24日	品質マネジメントシステムISO9001認証取得		
	ー月ー日	通学路外階段改装		
	1月17日	阪神・淡路大震災10周年記念式典		
	22日	中学校入学試験（以降23・24日、全3回実施。志願者数：928名）		
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,464名）		

2005年度（平成17年度）

	須磨学園		教育・社会一般	
2005（平成17）～2006（平成18）	6月3日	女子陸上競技部・小林祐梨子、県高校総合体育大会で1500m優勝（高校新記録）	4月1日	個人情報保護法施行
			4月25日	JR福知山線で脱線事故発生
	7月16日	市民公開講座（コミュニティカレッジ）開講（以降17・30・31日、全4回実施）	10月1日	市町村再編により、全国で50の新市町誕生、平成の大合併のピーク
			14日	郵政民営化関連法成立
	9月10日	市民対象パソコン講座	11月17日	国土交通省、姉歯建築設計事務所による構造計算書偽造を発表
	10月12日	AED救急救命講習会（以降12月8日、全2回実施）	1月23日	民営化の企画準備を行う日本郵政株式会社発足
	11月6日	中学2年生、世界一周（アジア）研修旅行（～13日）	2月16日	神戸空港開港
	ー月ー日	本館・新館屋上防水工事実施、バラ園造園		
	1月14日	中学校入学試験（以降15・18日、全３回実施。志願者数：647名）		
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,688名）		

2006年度（平成18年度）

2006（平成18）～2007（平成19）	7月3日	ISO教職員研修	4月1日	携帯端末向け地上波デジタル放送「ワンセグ」スタート
	30日	市民公開講座（コミュニティカレッジ）開講（～8月12日）	6月1日	厚生労働省、2005年の出生率1.25で過去最低と発表
	8月21日	大阪府立芦間高校よりISO14001関連視察のため学校長・PTA役員来校	7月5日	北朝鮮、長距離弾道ミサイル「テポドン2号」1発を含むミサイル計7発を発射、ロシア沖の日本海に着弾
	10月16日	のじぎく兵庫国体閉会式に高校1年生全員参加	10月-日	多数の高校で未履修問題発覚
	12月6日	AED救急救命講習会	1月3日	アメリカの2006年新車販売台数でトヨタ自動車3位、ビッグスリーの一角崩す
	24日	女子陸上競技部、全国高校駅伝競走大会で優勝（3年ぶり2回目）		
	1月20日	中学校入学試験（以降21・24日、全３回実施。志願者数：682名）		
	23日	サウジアラビア教育省より視察のため来校		
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,143名）		

2007年度（平成19年度）

2007（平成19）～2008（平成20）	4月1日	個人研究導入	4月3日	年金加入記録5,000万件、該当者不明であることが判明
	4日	PCセキュリティ講習会	8月ー日	サブプライムローン（低所得者向け住宅ローン）問題表面化、世界同時株安に
	5月22日	PC暗号化講習会	10月1日	日本郵政公社民営化、日本郵便・郵便局・ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険の４株式会社発足
	26日	中高一貫育友会総会・授業参観	12月14日	大学入試センター試験資料盗難、一部問題差し替えに
	6月7日	学校改革プロジェクト「SUMASH2020」開催（全9回実施）	1月17日	中央教育審議会、「ゆとり教育」の見直しについて答申
	8月29日	教員研修会「特別支援教育について」		
	31日	市民救急救命士講習会		
	11月2日	個人情報保護に関する教員研修会		
	8日	中高一貫高１生、世界一周（ヨーロッパ）研修旅行（～16日）		
	12月11日	地デジ放送公開授業		
	ー月ー日	本館・新館空調設備全面入替工事実施		
	1月19日	中学校入学試験（以降20・23日、全３回実施。志願者数：786名）		
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,643名）		
	3月4日	中高一貫高１生、世界一周（アメリカ）研修旅行（～11日）		

2008年度（平成20年度）

2008（平成20）～2009（平成21）	5月9日	韓国・象山（サンサヌ）高校より来校・交流会	4月1日	後期高齢者医療制度発足
	7月19日	市民パソコン講座開講	7月1日	教育振興基本計画閣議決定
	25日	キャリア教育、大学等の出張講義（全5回）	7日	第34回主要国首脳会議（洞爺湖サミット）、北海道・洞爺湖町で開催（～7月9日）
	8月28日	教職員研修①「新型インフルエンザ」、②「教師が行うブリーフセラピー」	9月15日	アメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻、金融危機が世界的に拡大
	1月17日	中学校入学試験（以降18・21日、全３回実施。志願者数：854名）	10月24日	南部陽一郎、小林誠、益川敏英の３氏がノーベル物理学賞、ボストン大学名誉教授下村脩氏がノーベル化学賞受賞
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,357名）	3月9日	高等学校新学指導要領告示
			28日	大都市圏を除く高速道路料金、土日祝日の値下げ開始

	須磨学園		教育・社会一般	
2009年度（平成21年度）				
2009（平成21）～2010（平成22）	5月16日	神戸で新型インフルエンザ感染者確認、午後下校。18日～23日臨時休校	4月1日	教員免許更新制度開始
	7月12日	市民パソコン講座開講（以降19・26日、全３回実施）	5月9日	国内初の新型インフルエンザ感染発生
	7月30日	高校1年生、アメリカ・シアトル短期留学（この年行き先を変更、～8月12日）	21日	裁判員制度施行
	10月6日	情報セキュリティマネジメントシステムISO27001の登録認証取得	8月30日	衆議院議員選挙で民主党圧勝、政権交代へ
	31日	中高一貫完成記念講演会	11月4日	ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜選手、アメリカ大リーグ、ワールドシリーズで日本人初のシリーズMVP獲得
	1月16日	中学校入学試験（以降17・20日、全３回実施。志願者数：772名）	2月10日	財政危機下のギリシャで公務員労組連合組織がスト、約45万人が参加
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,316名）	3月31日	高校授業料の実質無償化法成立
	3月9日	ベトナムより中学生来校・交流会開催		
2010年度（平成22年度）				
2010（平成22）～2011（平成23）	4月1日	制携帯導入	6月1日	子ども手当支給開始
	7月19日	市民パソコン講座開講（以降24・25日、全３回実施）	13日	小惑星イトカワに向けて打ち上げられた探査機「はやぶさ」、7年ぶりに地球に帰還
	8月5日	耐震補強・窓枠サッシ入替工事開始（～30日）	10月6日	パデュー大学教授根岸英一氏、北海道大学名誉教授鈴木章氏がノーベル化学賞受賞
	1月15日	中学校入学試験（以降16・19日、全３回実施。志願者数：675名）	2月22日	ニュージーランドで大地震発生（M6.3）
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,152名）	3月11日	東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生（震源地三陸沖、M9.0）、津波発生。東京電力福島第一原子力発電所で事故発生
	3月14日	高校1年生、イギリス・オックスフォード大学短期留学（春のプログラムとして追加、～27日）	12日	九州新幹線（博多一鹿児島中央間）開業
2011年度（平成23年度）				
2011（平成23）～2012（平成24）	4月1日	中高一貫生と高校入学生の制服を統一	7月17日	サッカー女子ワールドカップドイツ大会、「なでしこジャパン」が初優勝
	23日	西和彦学園長による「リーダーシップ論」講座（全10回）	7月24日	地上波テレビが東北３県を除きデジタル放送に完全移行
	5月21日	放射線に関する講演会開催（以降30日、全２回実施）	7月一日	タイで大洪水発生、日系自動車メーカーなど工場操業停止
	10月8日	市民パソコン講座開講	10月21日	円相場、一時１ドル75円78銭の戦後最高値を更新
	11月5日	日本管楽合奏コンテストで優秀賞・ブレーン賞・指揮者賞受賞	3月1日	国内線初の格安航空会社(LCC)、ピーチ・アビエーションが関西空港を拠点に就航
	12月8日	台湾より高校生来校・交流会開催	3月31日	被災3県のアナログ放送停波、日本全国で地上デジタル放送へ完全移行
	1月14日	中学校入学試験（以降15・18日、全３回実施。志願者数：891名）		
	2月10日	高校前期入学試験（志願者数：2,676名）		
	16日	第１回須磨学園マラソン大会（高2生）		

あとがき

須磨学園は2012（平成24）年11月9日をもちまして、
創立90周年を迎えることになりました。
本誌は1998（平成10）年の男女共学化移行準備期より、
今日に至るまでの15年間（男女共学化・中学校開校）における
学園の歩みと現在の教育活動を中心に編集しました。
「見る記念誌」というコンセプトから、可能な限り写真を掲載し、生徒たちのさまざまな
活動状況をご覧いただき、「新しい学園」の息吹を感じ取っていただければ幸いです。
なお、80周年記念誌同様、75周年までの内容は分冊にさせていただきました。
最後になりましたが、本誌刊行にあたり各方面にわたりご多忙な中、
ご支援・ご協力を賜りました皆さまに厚く御礼申し上げます。

須磨学園創立90周年記念誌　編集委員会

竹内　敏彦　　荻野　　太
中江　清恵　　後藤　秀雄
別府　孝次　　米澤　昌記
笹木　明子　　松原　栄寿
土屋　博文　　淺尾　浩史
寺内　亜希　　池田　浩二
山本　理貴　　荒木　剛実
蓬野　弘幸　　千田　正英
堀川　陽子　　久永　知史
下地　英樹　　廣滝　輝彦
小林　峰子　　山中　　拓
森　　新悟　　瀧本　健作
小森　奏子　　吉田　泰明
小林　理絵　　山﨑優美子
吉田　勝司　　岡田　大樹
カイ・シュエルマー　　髙木　　宏

須磨学園90年の歩み

躍進 さらなる高みへ

須磨学園76年目から90周年への展開

1998−2012

2012年11月発行

発行　学校法人須磨学園
神戸市須磨区板宿町3丁目15番14号
編集　須磨学園90周年記念誌編集委員会
協力　大日本印刷株式会社 C&I事業部
印刷　大日本印刷株式会社
大阪市西区南堀江1丁目17番28号